

## II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴って売上が増加している。新規感染者数が激減していることから、現在の状態が続くことになれば、新型コロナウイルス発生以前の売上に回復すると期待している。
		百貨店（販売促進担当）	・緊急事態宣言が解除されたことで、来客数が伸びており、買上客数も増加傾向にある。このまま新規感染者数が減っていけば、客の購買意欲は今後ますます高まることになる。
		商店街（代表者）	・このまま緊急事態宣言が発出されない状況が続くことになれば、地域住民の安心感が増し、当商店街を訪れる客も増加することになる。また、小規模な新年会などが行われる公算が大きいと、昼夜共に来街者が増加することになる。特に飲食関連での売上アップが期待できる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況がこのまま落ち着けば良いが、冬を迎えるに当たり企業が忘新年会の開催の様子見していることもあり、経済のV字回復には程遠い。企業への制限を解除するようなメッセージを行政として発信してほしい。また、北海道はこれから閑散期に入るため、観光需要が見込めず、これから始まるであろうGo To Travelキャンペーンなどの効果も期待できない。当地においては来春の旅行を優遇するようなキャンペーンの実施が切に望まれる。
		百貨店（売場主任）	・客の購買心理について、すぐに新型コロナウイルス発生以前の状態には戻らないとしても、緊急事態宣言期間中と比べれば改善することになるため、今後の売上増加が期待できる。
		百貨店（営業販促担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて推移することになれば、人の動きが今よりも活発になり、景気もやや良くなる。特に高齢者の動きが回復し始めると状況は改善する。
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルス発生以前の水準には及ばないが、主軸の衣料品が確実に復調してきている。家具や家電などの耐久消費財は安定した売上推移となっていることから、今後の景気はやや良くなる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことから、今後の景気はやや良くなる。
		スーパー（店長）	・年末年始需要が見込めること、成人式や卒業式などの社会行事、学校行事が例年どおりに実施されそうなどがプラスとなる。ただし、外食に行く回数が増えることで、食品やリカーの売上がやや落ち込むことが懸念される。
		スーパー（役員）	・今年の年末は帰省するとの話をよく聞く。年末商戦が活発になると期待している。
		コンビニ（エリア担当）	・当地では漁業が不調だが、農業は順調である。また、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くことで、現状よりも人流が活発になることが見込まれることから、今後の景気はやや良くなる。
		コンビニ（エリア担当）	・経済活動の再開が期待できることから、今後の景気はやや良くなる。
		コンビニ（店長）	・このまま新規感染者数の少ない状態を維持していくことができれば、コロナ禍以前の生活に戻れるため、景気はやや良くなる。
	家電量販店（経営者）	・個店の販促集客イベントを徐々に以前の状態に戻していくことを予定しているため、今後の売上アップを期待している。	
	自動車備品販売店（店長）	・新型コロナウイルスの感染対策などが緩和されることで、客足が増加することを期待している。消費に対して前向きになることも見込めるため、今後の景気はやや良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経営者）	・様々な面で景気が徐々に上向きになるような状況がみられつつある。特に新型コロナウイルス新規感染者数が激減していることが一番大きく、客を始め人の動きが少しずつ良くなっている。今後、第6波が来るまでは景気が上向きで推移することになる。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約客に動きがみられ始めていることから、今後の景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・首都圏からのビジネス目的の航空券付き旅行商品や観光目的の小グループ旅行が比較的好調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・これまで緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などで制限されていた観光需要について、潜在需要として貯蓄されてきたと考えることができる。北海道にとってはこれから観光の端境期に当たる季節となるが、そうした影響も余りなく、一気に需要が回復することが期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・今の状況が悪すぎるため、今後の景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンが再開されることになれば、景気は回復することになる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス新規感染者数が減り、少しずつ人出が戻ってきているため、現在の状況が続くことになれば、売上が前年を上回るようになる。新型コロナウイルス発生以前の水準には戻らないとしても、前年は11月以降、当地で新型コロナウイルスの新規感染者数が急増したことで人の移動にストップが掛かり、売上が急減したため、今年は前年より相当良くなることが見込まれる。年末に向けて、人出が増えてくることを期待している。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況について、第6波が生じることを懸念しているものの、今後、客からの注文が上向いてくることを期待している。
		タクシー運転手	・飽くまでも新型コロナウイルスの新規感染者数の動向次第だが、今後の景気は徐々に回復していくと期待している。
		タクシー運転手	・衆議院選挙の結果にもよるが、新内閣の景気対策、Go To Travelキャンペーンの再開などの効果に期待している。ただ、新型コロナウイルスの第6波による感染拡大が生じれば、年末年始の会合にも影響が出ることになる。3回目のワクチン接種が早期に始まることを期待している。
		通信会社（企画担当）	・都市部の高齢者を中心に通信端末の乗換え需要が高まっていることから、冬商戦と併せて一定の販売量が期待できる。
		観光名所（従業員）	・感染拡大の第6波も心配される時期ではあるが、このまま感染状況が落ち着いて推移する見込みの方が高いことから、冬季観光が回復することになる。今後のにぎわいを期待している。
		観光名所（職員）	・北海道の緊急事態宣言が解除されたが、客の出足は引き続き鈍い。ただ、このまま新規感染者数が落ち着いて推移すれば、11月以降にはGo To Travelキャンペーンの再開なども期待できるため、経済も徐々に上向きとなる。政府の施策に期待している。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が現状のまま推移することになれば、入場制限をしなくても済むようになるため、今後の売上は増加することになる。ただ、新型コロナウイルスの感染状況で景気が大きく変化するため、予想をしにくいというのが実情である。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスが終息し、衆議院選挙後に大規模な財政出動が行われることを期待している。全産業において金が潤うような状況を期待している。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言が解除されたが、客の行動パターンが変化しているのか、前年と比べて来街者や来客数が伸び悩んでいることから、不安が増している店舗が多い。もう少し時間が経過しなければ、どのような状態になるかがみえない。
		商店街（代表者）	・ガソリンを始めとした石油製品の価格が急騰しているが、経済の発展を考える上ではこうした状況もプラスに作用するのではないかとみている。
		商店街（代表者）	・これからシーズンオフに向かうなか、新型コロナウイルスを巡る動きが不安定なことから、今後も景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・かなり寒い冬が見込まれる一方で、原油価格の低下が見込めないことから、苦しい下半期になる。
		スーパー（店長）	・8～9月と比べると回復してきているが、緊急事態宣言の発令によって大きく落ち込んでいたものが元に戻っただけであり、来客数が前年並みの水準まで回復していないことから、今後も景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・行動を自粛しながらの生活が当たり前の状況となっていることから、新型コロナウイルスが完全に終息するまで景気は回復しない。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減っているが、経済活動は落ち込んだまま変わっていない。特にアパレルは外出などの活動が多くなってから最後に回復する業種であるため、景気が回復するまでまだまだ時間が掛かることになる。
		家電量販店（店員）	・気温が低くなることで、冬物家電に動きが出てくることを期待している。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたことで、観光や飲食関係の状況がやや改善してきたが、現在当社が抱えている問題が大きく改善する傾向はみられないため、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの影響で海外のロックダウンが続いていることで、部品が入ってこない状況にあり、車の納期遅れが生じている。売れ筋の車のマイナーチェンジも控えていることもあり、売れる車が少なく、今後の販売量が伸びるとは考えにくい。そのため、今と同じような水準で推移することになる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車が発表されたことで前年を上回る受注量が見込めるものの、東南アジアにおける新型コロナウイルスの影響が終息しなければ、生産体制への影響が大きく、売上が見込めない。そのため、今後も現状維持での推移となる。
		乗用車販売店（従業員）	・緊急事態宣言が解除されたことで、販売量の動きが良くなると期待していたが、10月下旬になっても状況が特に変わってこないことから、今後も景気は変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・このままの状態でも年末へと向かいそうだ。景気が良くなるためには明るい話題が必要である。それまでじっくり待つ余力があれば良いが、厳しい状況にある。
		高級レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況が景気悪化を招いている。ワクチンの3回目接種の予定も決まりかけているが、感染療法上の位置付けが引き下げられるか、治療薬が開発されるまで景気は大きく変わらない。今後、新規感染者数が再び増加することになれば、景気はすぐに下向きに転じることになる。
		観光型ホテル（経営者）	・ワクチンパッケージの実証実験が行われていることもあり、今後のGo To Travelキャンペーンの再開が待たれるが、再開まで集客の回復は見込めない。また、これまで2年程度、国などによる人流抑制施策が続けられてきたことから、需要喚起策が実施されたとしても、景気が以前の水準まで回復するには同じような時間が必要となる。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が今と同じくらい少ない状況でGo To Travelキャンペーンが再開されることになれば、景気が良くなると期待できるが、新規感染者数が増えていたり、国などの需要喚起策が行わなければ、再び最低の状況に戻ることになる。
		タクシー運転手	・ワクチンの効果が出ているのか、ここに来て新型コロナウイルスの新規感染者数が抑えられているが、まだ予断を許さない状況とみている。特に北海道はこれから冬となり、寒くなる時期であるため、今後の状況を注視する必要がある。このまま新規感染者数の少ない状態を維持することができれば、当業界の業績も上向きことになる。
		美容室（経営者）	・季節的にこれから売上がやや落ち込む時期となるが、新型コロナウイルスが終息してきていることから、例年と比べれば落ち込みが緩和されると期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・客が外出自粛に慣れてきていること、灯油を始めとした諸物価が値上がりしていることから、冬本番を迎えて景気はやや悪くなる。当観光地では全体の75%が零細企業であり、借入れが増えていることから、今後、倒産が増加することを心配している。
		スーパー(企画担当)	・新型コロナウイルスが終息してきているものの、ガソリンや電気料金、ガス料金、各種食品の値上がりなど、家計を圧迫するような要因が顕在化していることから、今冬にかけて消費者の節約ムードが強まることが懸念される。
		スーパー(企画担当)	・様々な商材やエネルギーなどの値上がりが生活者の懐の重荷となっている。今後、年末年始を控えて、支出をできる限り抑えようとする傾向が強くなるが見込まれる。
		スーパー(従業員)	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う来客数の減少や買上頻度の低下が前年から継続しており、底がみえない状況にあることから、今後の景気はやや悪くなる。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経営者)	・石油製品価格の高止まりが見込まれるため、今後の景気はやや悪くなる。特に灯油販売への影響が懸念される。
		高級レストラン(スタッフ)	・景気は今よりも上向くことになるとみられるが、水準としてはまだ低い。目標としては年内に2年前の50%の水準まで回復することを見込みたい。衆議院選挙後、観光や飲食の需要を喚起するような振興券など、今後の景気回復を望めるような施策が出てくることを期待している。
		タクシー運転手	・ワクチン接種の進展により新規感染者数が減少しているが、感染への恐れがあるためか、消費動向に大きな変化はみられない。第6波を懸念して慎重な行動となる状態が当面続くことになる。
		美容室(経営者)	・衆議院選挙が終わっても、状況は何も変わらないとみられるため、今後の景気はやや悪くなる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕(従業員)	・今後、厳冬季を迎えるため、輸送量の増加を見込めない。
		住宅販売会社(経営者)	・新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ所得の本格的な回復はまだ見込めない。また、資材価格が高止まりしていることで、マンション価格も高騰したままである。分譲マンション市場においては、これらが正念場になるとみられる。
	×	コンビニ(エリア担当)	・スーパーなどの小売業の景気はますますであるが、飲食店を始め、新型コロナウイルスの影響を受けている業種の景気は回復し切れないとみられることから、今後の景気は悪くなる。
	×	スナック(経営者)	・これから景気が良くなるとは考えにくい、店を休業しているよりは営業した方が良いと考えている。少しでも多くの客が来店するように願っている。
	×	美容室(経営者)	・これまで来客数の落ち込みを客単価のアップでカバーしてきたが、燃料や食料品などの値上がりによって、来客数がこれまで以上に減少したり、客の来店間隔が長くなることが懸念される。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-
		食料品製造業(従業員)	・年末に向けて、売上が少し増えそうな案件が出てきていることから、今後の景気はやや良くなる。
		通信業(営業担当)	・当社においても、客先においても新たな投資への動きが出てきており、早いところでは四半期後の業績に効果が出てくることも見込まれる。ただ、原油を始めとした原材料について、値上げの動きが強まっていることが心配される。
		金融業(従業員)	・北海道における新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴って、飲食や旅行を中心に消費マインドが回復している。今後もコロナ禍における一定の制約は残るとみられるが、先行きの道内景気は新型コロナウイルスの終息と連動して回復することになる。
		司法書士	・新型コロナウイルス新規感染者数がこのまま減少又は横ばいの状態が続くことになれば、心理的な開放感が増すことになり、旅行などの消費が増えることになる。そうなれば、景気回復を後押しすることになり、企業の営業活動も活発になることから、少しは景気が良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		司法書士	・1日数千単位の新規感染者が出て、外出や飲食店の時間規制などされていた時期と比べると、少しずつではあるが、景気は良くなる。ただ、新規感染者数の推移には波があり、今後も増減を繰り返すことが見込まれるため、新規感染者数の動きと併せて景気も上下を繰り返すことになる。
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕(経営者)	・数は少ないが、新規案件の話が聞こえるようになってきていることから、今後の景気はやや良くなる。
		食料品製造業(従業員)	・商材の価格改定から1年が経過し、販売量が減少したまま安定していることから、今後も景気は変わらない。
		建設業(役員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少しているとはいえ、民間の設備投資需要が拡大するまでは時間を要するとみられる。公共投資の行方を左右する衆議院選挙の結果も気掛かりである。建設資材や燃料の価格上昇などのマイナス要因も大きいいため、今後も景気の変わらない状況が当面続く。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕(総務担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着いてきているものの、大型イベントなどの再開も少ないことから、来春までは現在のような様子見の状況が続く。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕(従業員)	・冬期間は今と同じような状況が続くとみられるが、来春以降になれば市場の動きが活発になるとみられる。
		建設業(経営者)	・積雪寒冷期を迎え、日照時間や除排雪などの問題から、工事の稼働が低下し、生産性が下がることになる。新規の受注も減少するため、今後の景気はやや悪くなる。
		建設業(従業員)	・ガソリンの価格高騰にみられるように、物価が上昇している。前年より5~10%程度価格が上昇しているため、ただでさえ少ない案件が見送りになるケースも生じており、今後の景気悪化が進むことが懸念される。
		輸送業(支店長)	・物流業界では、例年、冬期間の受注量が落ち込む傾向にあるため、今後の景気はやや悪くなる。
	x	-	-
雇用関連 (北海道)		求人情報誌製作会社(編集者)	・現在の新規感染者数の減少は、ワクチンの効果と日本人のエチケットの良さによるものとはっきり分かれば、この先の募集活動が本格化することになる。国内需要が活性化すれば、意外と早く元の状態の戻るのではないかと期待している。
		人材派遣会社(社員)	・新型コロナウイルスの終息状況によっては、飲食店などのサービス業や生産ライン、倉庫業などの求人数が増えることが見込まれる。日々、企業への求人アプローチを行っていきながら、企業からの引き合いが増えている傾向もみられることから、企業の営業活動再開のスピードが速まることも期待できる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	・飲食や小売業において商売への期待感が生じるなど、若干の明るさがみられるようになってきている。求人意欲も徐々に回復傾向になってきていることから、今後の景気はやや良くなる。
		職業安定所(職員)	・緊急事態宣言が解除され、経済活動に対する様々な規制が緩和されていることから、今後、経済の動きが活発になるとみられる。第6波の心配はあるが、少しずつ日常が戻ってくるようになるため、まずは1度景気が上向くことになる。
		職業安定所(職員)	・当地における新規求人数は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける2年前との比較ではマイナス7.4%となっているものの、前年からは13.9%の増加となっている。月間有効求人数についても6か月連続で前年を上回るなど、回復の兆しがみられる。ただし、産業や業種によって回復の度合いが異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、経済活動や消費行動の先を見通せない状況となることが懸念される。
		職業安定所(職員)	・当地の新型コロナウイルスの新規感染者数が少ないこと、雇用調整助成金の相談件数が減少傾向にあることから、今後の景気はやや良くなる。
		学校〔大学〕(就職担当)	・年末に向けて未内定者の最後の就活時期となっているが、企業側は内定辞退者の補充に前向きであり、学生たちも最後の踏ん張りをみせていることから、景気が上向いている状況がうかがえる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社（編集者）	・年末年始に向けてどの程度消費行動が活発になるかにもよるが、原油価格が高止まりしていることが懸念材料となっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・当地は北海道を代表する観光地の1つであることから、年末年始や1月以降に通常営業ができるかどうかが鍵となる。
		*	*
	x	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (東北)		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新規感染者数の減少により、来客数がかなり戻ってきている。今後の年末商戦でそれが購買に結び付いてくることを期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染が抑え込めれば、年内の集客に関しては期待できる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・Go Toキャンペーンの再開が予想される。
		旅行代理店（従業員）	・第6波さえ来なければ、Go Toキャンペーンなどの国の施策もフォローに働き、今以上に良くなるとみられる。
		商店街（代表者）	・時短要請が9月末で解除されたので今月は多少の動きはある。かなり消費が低迷しているので、この先それほど悪くはないとみている。当市では8～9月が底のような気がしている。これからは上がるだけだが、上がったたり下がったりという感じになるとみている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症は収束に向かっている。
		商店街（代表者）	・多くの人々がワクチン接種を終えたことにより、外出する人が増えている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・忘年会など人が多く集まる機会が増えるので、酒も売れると予想している。
		一般小売店〔寝具〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、冬も近づいてきているので、商品の動きが期待される。
		百貨店（売場主任）	・ワクチン接種が進んだことで個人消費が上向き、外出や旅行、対人交流に関連した需要の回復にもつながるものと期待する。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、ワクチン接種も進んでいることで、来街や来店の傾向は横ばい若しくは多少の改善が想定される。
		百貨店（経営者）	・飽くまで新規感染者数の落ち着きが前提となるが、消費喚起の施策が官民主導で数多く実施されることで人の動きも活発になり、それに応じてちょっとした土産などの贈答需要やファッションアイテムなどの自家需要も前年以上までには拡大するとみている。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の急激な減少により、年末に向けて明るい兆しがみえてきた。第6波が心配されるが、このままでいけば帰省客もかなり増加することが予想される。
		コンビニ（経営者）	・土日の来客数が伸びてきている。全体的に見ても101%とやや上向き傾向にある。依然として客単価や購入数は堅調なので、後は当店の立地からすれば、県外からの出張客や観光客が来れば元の状態に戻るものとみている。
		コンビニ（経営者）	・ワクチン接種が進んでいることと新規感染者数の減少により、人の動きが良くなることが予想される。
		コンビニ（エリア担当）	・第6波次第だが、コロナ禍は収束しつつあり、年末年始は例年と同様の動きとなる可能性があると思込んでいる。
	コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響がなくなり、特に週末の来客数の増加が見込める。	
	コンビニ（店長）	・新規感染者数の激減により休日の観光、外出が増え、来客数が伸びてくるのではないかとみている。	
	衣料品専門店（経営者）	・確実に人流は増えているので、景気回復のスピードは速まると予測する。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(店長)	・これから新型コロナウイルスの新規感染者数が減り、景気回復のカンフル剤となるGo Toキャンペーンなどの経済政策によって、これまで金が回っていなかった飲食や宿泊、我々のような出張や晴れの日に関連したマーケットが動いてくるようになると、経済は順調に回り出すとみており期待している。
		衣料品専門店(店長)	・新型コロナウイルス第6波への備え、インフルエンザワクチン接種の実施など、感染に気を付けながら消費に関して徐々に日常を取り戻す行動をする人が増えてくると予想している。
		衣料品専門店(総務担当)	・コロナ禍の制限が緩和され行動が活発になることにより、購買頻度が上がることを期待する。
		家電量販店(従業員)	・新型コロナウイルスの感染が収束を迎えつつある状況で、来客数の増加が見込める。
		その他専門店[酒](経営者)	・緊急事態宣言解除や飲食店への時短要請解除により、徐々に客足が戻ってくることを期待しているが、まだまだ時間は掛かるとみている。一般企業も飲食店側もかなり慎重になっている。事態が収束しても元のようににはならないとみている。
		その他専門店[食品](経営者)	・新型コロナウイルスの感染がこれ以上広まらなければ人の動きがより活発になると予想される。
		その他専門店[靴](従業員)	・旅行や出張の動きが出てくるとみている。
		その他専門店[白衣・ユニフォーム](営業担当)	・行楽シーズンに向けて都市部からの客がたくさん来れば多少なりとも良い影響があるとみている。都市部に比べて郡部はその実感のタイムラグがあると思うが、それでも期待している。
		その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	・今年の冬は寒くなるとの予報が出ているので、灯油の売上増加が見込まれる。
		高級レストラン(支配人)	・新型コロナウイルス新規感染者数が少なくなるにつれ、週末から来客数の動きが出てきている。ランチタイムと金土日の夜は大幅増えてきている。反面、テイクアウト需要が少し減ったようである。
		一般レストラン(経営者)	・新型コロナウイルスの影響が落ち着いていけばという願望が大いにある。それが全てである。このまま少しずつでもいいので回復してほしいと願っている。
		一般レストラン(経営者)	・11~12月を迎えて、忘年会と規制解除が重なって、幾らかは良くなるとみている。
		観光型旅館(経営者)	・再び新規感染者数が急増しなければ、ある程度は回復していくだろうとみている。
		旅行代理店(従業員)	・油断できないことが前提ではあるが、個人旅行と教育旅行を中心に売上は回復傾向にあることから、2~3か月先まではやや好調を維持できる見込みである。Go To Travelキャンペーンの復活があれば一般団体の動きが加速し、更に上積みできることが想定される。
		旅行代理店(従業員)	・前月までがいわゆる底なので、以後は上向きになると期待したい。しかし、第6波が来れば人流抑制により旅行需要の減退が訪れる。需要の波が続くものと想定して取るべき対処をしていく。
		通信会社(営業担当)	・自宅で過ごす時間が少しずつ減少していくが、一気に元に戻ることはない。そのためテレビ、通信利用者は引き続き増えていく。特にインターネット等の通信環境を強化する動きはますます広がっていき、既存利用者のオプション追加も徐々に増えると予想している。
		通信会社(営業担当)	・新型コロナウイルス新規感染者数も減ってきており、営業活動しやすくなるとみている。
		通信会社(営業担当)	・新型コロナウイルス感染の収束により、景気が回復傾向にある。
		テーマパーク(職員)	・11月から団体旅行の予約などが復活している。予約客数も一気に増え、期待ができる。
		観光名所(職員)	・前年同時期と比べ売上の数字はまだ届いていないが、来客数は徐々に戻りつつある。この状況に旅行業者の募集団体が前年並み若しくはそれ以上に入り、政府でもキャンペーンを打ってくれば、現在よりも良くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（職員）	・年末年始は人の流れがいいので、イベント等を実施し宣伝していけば客は集まる。よって、売上は現在より良くなるとみている。
		美容室（経営者）	・年末から新年に掛かる時期であり、それなりに需要は上がってくるため今月よりは良くなる。しかし、景気がどこまで良くなっていくのかという心配は残っている。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・1月は年間平均の中でも来場組数が高い月となるため、良くなるとみている。ただ、未就学児がいるファミリー層の来場は見込めないため、来場は微増と見込んでいる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い飲食店や観光等、若干の回復が見込まれるが、消費者の財布のひもは固く、景気回復には時間を要する。
		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・引き続き巣籠り状態は続いているが、全体的には底上げの雰囲気が出てきているのではないかと推察している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・2～3か月後は忘年会、新年会の時期に当たるので、当然通常より月よりはものすごく良くなる。しかし、今回は企業の70%以上が忘年会も新年会もしないというアンケートの結果が出ているので、10月のやや良くなった状況と変わらないとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・今の状況が続けば、年末年始に向けて宴会等を行う企業も出てくるのではという期待もあるが、良くなればまた悪くなるの繰り返しを続けてきたからこそ、また、ぬか喜びになってしまうのではという懸念も捨てきれない。少しずつでも好転していくことを願うしかない。
		百貨店（買付担当）	・感染状況に変化がなければ、今後も回復傾向が続くと予想する。急激な回復は難しいが、買物を楽しんでいる様子からウィズコロナの新しい生活スタイルとして定着し継続するとみている。
		スーパー（企画担当）	・緊急事態宣言は解除されたが、コロナ禍で年内は自粛傾向で内食需要がまだ続くとみられ、食品小売業としては変わらない水準で推移すると予想している。
		スーパー（営業担当）	・12月は新型コロナウイルス感染の状況にもよるが、今まで自粛していた帰省は期待が持てる。それ以外の月に関しては現在と変化がなく、期間トータルでは変化なしと予測している。
		コンビニ（経営者）	・少しずつでも良くなってほしいが、新型コロナウイルスの感染がこれだけ少なくなってきても客の動きがまだまだ鈍い。2～3か月後に新型コロナウイルスの影響がまた出るかもしれないし、出なければ客は動き出す。どうなるか見通せない。
		コンビニ（エリア担当）	・今後の新型コロナウイルス新規感染者数の動向にもよるが、他国では経済活動再開から数か月で感染が拡大、緊急事態宣言が再度出るような状況もみられるので、予断を許さない状況である。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が少なくなってきたが人出は少なく、以前の状態に戻るには時間を要するとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足の影響はしばらく続くとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・車両が通常どおり生産されるようになれば売上につながるが、2～3か月先だとまだ見通しが立たない。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきたとはいえ、まだまだ収束とはいえない。現状が続くようであれば、変わることはない。
		住関連専門店（経営者）	・受注生産により一物件の受注金額は多額だが、来月、再来月と分納となるため、売上はさほど変わらない。
		高級レストラン（経営者）	・11月以降、新型コロナウイルスの再流行がなければ良くなるだろうが、再流行すれば年末年始はほとんど見込めない。
		高級レストラン（スタッフ）	・コロナ禍が少し落ち着いてきているだけで、景気は全く良くなるはずはないとみている。客単価が上がっているわけではない。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス次第である。新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてまん延防止等重点措置や緊急事態宣言が出されるようであれば、再び景気は冷え込む。それがなければ、現在の良い状態が継続していく。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・このまま年末まで新規感染者数が押さえ込められれば外食は一気に活気付くとみているが、先行きが不透明な以上は現状が飲食店を利用できる人数のマックスと捉えている。個人の需要が増えたとしても、法人関係の忘年会がなければ売上は伸びないので現状と大差なしと判断している。
		観光型旅館（スタッフ）	・この状態が続けば良いのだが、第6波を考えると良くなることも限らない。結果、変化がないとみている。
		タクシー運転手	・忘年会、新年会を開催しない企業が多いことに加え、人混みの中に出掛けることを避けている人が多いことから、年明けの動きは厳しいと判断する。
		通信会社（営業担当）	・景気が好転する材料に乏しい。
		遊園地（経営者）	・ワクチン接種は進展しているが、他方で第6波の懸念とガソリン価格の高騰がある。前年程度を期待したいが、景気の先行きは不透明である。
		美容室（経営者）	・常連客はいるものの、新規客はなかなか来店せず変わらない。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・年末年始に懸念される第6波や3回目の接種が必要などの不安材料があって、世の中には依然として不安感が漂っている。
		設計事務所（経営者）	・国政選挙が終了し、新型コロナウイルスの終息がみえ始め国民目線の方向性が示されれば、安心感から良い方向に向かうが、今の状態では変わらないとみている。
		住宅販売会社（経営者）	・今年度の受注目標は金額としてみえているが、来年度の見通しが立たない。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住設機器については、商品の納品遅れは解消に向かっている。リフォームについては、資材の納品遅れにより工期が延びると予想している。
		商店街（代表者）	・年末年始をまたぐが、新型コロナウイルスを含め先行きの不安により購買意欲が伸びないとみている。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ガソリンや燃料価格の高騰が話題になっており、そのこと自体が消費者に支出を抑制させる心理的なおもしになる。冬場の暖房コストの高騰が意外なほど店頭の業績に悪影響があったという過去の経験も考慮しなければならない。
		スーパー（経営者）	・11月は周りの飲食店関係、観光関係における消費行動はやや良くなるようである。しかし、農家は減収が見込まれ、また所得が減少している人も増えているようなので消費の回復が感じられるまでにはまだまだ時間を要する。政府の景気対策、新型コロナウイルス対策などに期待したいが、その効果が出るのはまだ先であり、消費は今の低迷した状態がしばらく続くともみている。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言が解除され、内食需要が減り、スーパーにとっては大きな打撃になる。来客数の減少に拍車が掛かるとみている。また、第6波も大きな懸念材料である。
		スーパー（店長）	・外食への流れが以前より増加していくことが影響して、食料品を中心とするスーパーは来客数や販売量の減少が予測される。
		スーパー（店長）	・先行きは分からないが、新型コロナウイルスの新規感染者数が少なくなってきており、客が飲食店へ流れていく可能性が高まっている。
		スーパー（営業担当）	・新規感染者数が増加して巣籠り需要が増加した前年の同時期との比較になるので、反動が大きくなるのではないかと懸念している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染者の少ない日が続いているが、来客数の増加にはつながっていない。在宅勤務の事業所が増えて、以前よりも来客数が減少している。
		コンビニ（経営者）	・収入の増加が見込めないことから、より安価な商品のまとめ買いの傾向は続くと思われる。
		コンビニ（店長）	・社会が停滞していることや選挙のこともあるのだろうが、行政が新型コロナウイルスに費やした予算が相当あり、民間に公共事業が流れにくくなってきて見通しが立たない状況のようである。緊急事態宣言が解除され良くなると思いきや、厳しい状況のようである。
		衣料品専門店（経営者）	・灯油価格の高騰など、これからの北国の暮らしには厳しい要素がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店長）	・寒くなると暖房商品が売れるが、今のところ前年並みとみている。灯油やガソリンの価格高騰が客の購買意欲に影響することが予想される。
		家電量販店（店長）	・県内の米の基準価格が大幅にダウンし、米農家の消費行動が前年より下がると予想している。
		住関連専門店（経営者）	・厳しい寒さや降雪が多いという予報どおりになれば外出を控える人が増える。高齢者が対象の当店としては売上は厳しいことになるかもしれない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・様々な生活環境の変化と石油製品の高値推移により、今後改善する要因がない。
		タクシー運転手	・前年の今頃から新型コロナウイルスの感染が徐々に拡大していったことを踏まえると、心配な季節がやってくる。悪くなることはないように期待している。
		通信会社（営業担当）	・物価上昇、ガソリン価格高騰、社会保険料改定等に伴い収入は現状維持で、小売業は薄利多売が予測される。
		通信会社（営業担当）	・現状ではGo Toキャンペーン等の消費向上施策の実施時期は未定であり、当面景気の向上は期待できない。
	×	スーパー（経営者）	・食料品の値上げのみならず、これから冬場にかけてのガソリン、灯油等の価格高騰により支出が増加する。可処分所得が伸びないなかでの支出増加となる。
	×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきているとはいえ、売上は完全には戻らない。冬期間はただでさえ来客数と売上が下がり厳しいのに、最低賃金が上がり、除雪代の支払も始まる。どうやって経営を続ければよいのか分からない。
	×	乗用車販売店（店長）	・新車納車が遅れている影響で、特に中古車販売の在庫不足が深刻な状況である。それに引きずられる形でオークション相場も高騰しているため、総じて回転の悪い市場環境である。価格面で購入を見送る客も多い。
企業 動向 関連  (東北)		建設業（企画担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少により、各種規制が緩和されることに伴う国民への心理的影響によって、景気が上向くとみている。
		農林水産業（従業者）	・年末にかけて、りんご収穫の最盛期に入る。天候にも恵まれ、例年どおりの品質になるものと期待している。
		食料品製造業（経営者）	・このまま新型コロナウイルス感染が収まってくれば、人の動きも良くなり売上の回復も見込める。感染の再拡大だけが心配である。
		食料品製造業（営業担当）	・まだまだ油断はできないものの、新規感染者数は減少しており、企業も一般消費者も新型コロナウイルス感染対策の意識が向上してきているので、経済活動との両立はそろそろできてくるのではないかとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末に向けて売上が上がると予想している。
		金属製品製造業（経営者）	・非常に不透明ではあるが、客先からの情報では増産傾向にある。
		通信業（営業担当）	・東北はリモート商談がまだまだ進んでおらず、商談には対面式が必須である。緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除されて営業活動の制限がなくなったため、回復する見込みである。
		金融業（広報担当）	・秋の観光シーズンを迎え、ようやく観光宿泊業にも業況回復の兆しがある。米農家の買取り単価減少に伴う収入減少は懸念材料だが、人流活発化や地方公共団体の地元経済への後押しもあり、総じてみれば個人消費が上向く期待は大きい。
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、イベント等も復活してくるであろうし、新しい形の広告・広報の在り方がはっきりしてくるとみている。
		経営コンサルタント	・冬を迎えて新型コロナウイルス第6波が来襲しなければ、年末にかけて確実に景気は上向く。
		司法書士	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴う自粛ムードの沈静化がみられる。
		公認会計士	・緊急事態宣言が解除されて、人の動きが活発になりつつある。飲食、小売、サービス業などにも人が戻って来つつあり、建設業などが現状維持としても全体としては景気が良くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・新聞で見ると米国や欧州は良い状況に立ち直っているようだが、日本はまだそういった状況ではない。しかし、外部的な要因で日本も良くなっていくという希望は十分に持てる。また、今大変な状況にある自動車産業は、落ち着いた状況に戻るのではないかとみている。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・新型コロナウイルスへの対処が公的にもまた一般にも徹底され、観光への期待が高まることから良くなると考えている。
		食料品製造業（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているが、景気の好転とは連動していない。地方での景気好転はまだまだ先である。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・先行きは不透明であるが、需要面、景気の間でも明るい話題がない。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・コロナ禍の半導体製品の品薄に伴う価格高騰においても大きな景気変化はなかった。よって、徐々に元に戻りつつある今後を考えても、景気としては大きな変化はないとみている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・現在、取引先が所有している各設備について、予防保全ではなく事後保全での対応に移行して修繕費抑制を図っている。また、経年劣化や不具合発生に伴う設備更新においては、既設納入メーカー特命発注ではなく、競争発注による調達が増加している。こういった状況は今後も継続するものと想定している。
		建設業（従業員）	・選挙の結果次第では工事の発注量が変わることが見込まれるため、様子見の状況である。
		建設業（従業員）	・現在発注されている官庁案件、民間案件のなかから、年末に向けて一定数の受注が見込める。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきたことで、景気は少し上向いていくとみているが、第6波と原油価格の高騰が懸念材料である。特に原油価格高騰は、業界として燃料代がもろに影響を受けるほか、石油製品であるタイヤやエンジンオイル等々も値上がりするので、業績を圧迫することが予想される。
		通信業（営業担当）	・業界に対する世間の環境は今後も厳しくなると思われ、明るい状況になりそうにない。
		広告業協会（役員）	・第6波が来るかどうかで状況が一変する不安定な状態では、見通しを判断するのは難しい。現状が続くようであれば、街中に人が戻って経済活動が活発になり、2年ぶりに広告業界の業績が改善することが期待できる。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・県内に居住する人の外食は回復していくとみている。一方で、観光関係は回復に至らない。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・原材料等々の価格高騰分を価格転嫁できない状況下にある。また、新規案件も依然として価格競争になっており、収益が厳しくなっている。
		広告代理店（経営者）	・引き続き自動車販売などで半導体不足の影響による伸び悩みが予測され、発注量など削減の影響が長引きそうである。
		コピーサービス業（従業員）	・今後、オフィス家具の仕入価格の上昇や物流関係の値上げなどが見込まれているが、全て販売価格に転嫁できるかは不透明である。
	x	農林水産業（従業者）	・新型コロナウイルスの影響で米の消費量が減り、今後もその傾向は続くことが予想される。
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	・各派遣会社とのやり取りから、企業からの問合せが増えてきており、求人意欲が非常に高まっていることを感じている。この傾向は、現在新型コロナウイルスの感染が収束している状況での年末を見据えた企業の経済活動の現れとみている。求人の数が増えていることや派遣会社への問合せが前月より大幅に増えてきていることから、今後も回復基調が継続するのではないかとみている。
		人材派遣会社（社員）	・求人数の増加に伴い、求職者数も増加傾向にあるため、マイナス要因は余りない状況である。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・旅行意欲は非常に高まっている。飲食についても現状は様子見しながら少人数での会合にとどまるが、以前どおりの会合、会食に戻ってくると予想している。選挙後の政府の景気対策も大いに期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（社員）	・求人増加傾向も当面続くとみている。緊急事態宣言が明けたことで消費が戻りつつある。
		アウトソーシング企業（社員）	・新型コロナウイルスも落ち着いてきたので、会議も増えることを期待している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染の鎮静化により社会生活が徐々に回復するとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・飲食店応援や観光のキャンペーンがスタートしている。公務員が率先して飲食店を利用する動きも始まり、経済活性化が期待できる。
		職業安定所（職員）	・現在、洋上発電の建設などで作業員の飲食、宿泊需要により新型コロナウイルスの影響を受けやすい飲食店や宿泊施設が逆に好調な状態にある。洋上発電工事は当面継続する。
		職業安定所（職員）	・新規求人数と有効求人数について前年の9月と今年の9月を比較すると、新規求人数で約300人、有効求人数で約500人増加している。また、自動車メーカーの減産体制が今年の11月で終了し、12月から通常の生産体制に戻るとの情報があり、自動車部品製造工場での懸念が払拭されている。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染が収束傾向になったことで、観光を始めとする経済活動が活性化されるものの、円安などによる輸入品、原材料の価格高騰を企業が負担せざるを得ない状況があり、急激な回復とはならない。
		職業安定所（職員）	・新規感染者数の減少傾向が続いており、飲食業、観光業を中心に期待の声がある。
		民間職業紹介機関（職員）	・2～3か月前と比べ生産数が徐々に回復している傾向がみられる。
		学校〔専門学校〕	・第6波が懸念されるが、このまま県内の新型コロナウイルスの感染状況が継続すれば、経済活動は少しずつではあるが回復が見込まれるとみている。
		人材派遣会社（社員）	・各企業いずれも様子を見ている感じが強く、依頼数に大きな変化はない。年内若しくは年度内はこの動きが続きそうである。
		人材派遣会社（社員）	・現状決して良くなっているとは思えず、これからの第6波の懸念もあるため先行きは不透明である。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス終息傾向の中、求人数は上向きになっており景気は好転する予測もたつが、一方で飲食サービス業などの立ち上がりが鈍い。また、半導体不足などで製造ラインが正常どおり動かないなど不安要素がある。総選挙を前にした新政権に対して手探り感もあり、しばらくは一進一退の状況が続くとみている。
		職業安定所（職員）	・国内での新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着いているものの、海外に左右されるサプライチェーンの影響や、新型コロナウイルス第6波の襲来が懸念される。
		-	-
	x	-	-

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)		一般レストラン（経営者）	・Go To Eatキャンペーンや市の補助事業が始まり、年末年始とも重なるので期待したい。
		その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、人流が大分出てきている。自分自身も出張し、他県の動向や人のデータ等、いろいろと動いてきていると感じている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・緊急事態宣言が解除されて、小さな飲食店等は少しずつ良くなっているが、ホテルや大型宴会場を抱えているようなところには、まだ大きな結婚式や宴会等は入ってこない。このまま、新型コロナウイルスの新規感染者数がかかり抑えられていけば、宴会等も少しずつ増えていくのではないかと。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者の減少やワクチン接種率の進展に伴い、外出への安心感が醸成されつつある。冬に向けて感染再拡大の懸念はあるものの、個人消費は徐々に回復すると予想される。
		百貨店（店長）	・年末年始に向けて、来客数と売上の回復が、徐々に連動していくと想定している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（店長）	・緊急事態宣言も解除されたので、年末に向けての期待を込めて、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・来月になると大きなイベントがあるので、必ず売上は伸びる。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除されて、来客数が増えたことや、客単価が年未年始に向かって上昇していくと予想し、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・10月中旬から交通量の増加がみられる。平日はトラックが動き出したような感じがあり、土日は行楽に向かう車と見受けられる乗用車が増えている。このまま新型コロナウイルスが終息していけば、前年を大きく上回るのではないかと期待している。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、行楽立地の店舗のため、来客数は増える。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスが今より落ち着き、人の流れが出てきていることを期待する。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスも落ち着いてきたので、人の流れが良くなる。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者次第なので先が読めないが、今の状況から、良くなる兆しはある。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減ってきたので、動きが出そうである。
		乗用車販売店（経営者）	・大規模小売店は、かなり混雑がみられており、最近の客の入込状況は良くなっている。新型コロナウイルス感染拡大第6波が来なければ、今までの反動で活気が出てくるのではないかと。
		自動車備品販売店（経営者）	・今まで新型コロナウイルス禍で委縮や自粛していたものが、ある程度解放されるので、購買や人の動き等にプラスに作用していくのではないかと。経済的には増えていき、活発になる。
		住関連専門店（仕入担当）	・現状、土日の来客数は段階的に増えてきており、増加幅も年末に向けて高まりを期待できる。新型コロナウイルスの感染再拡大を防ぐための防衛行動を取りながら、人の動きは活発になると思われる。
		一般レストラン [居酒屋]（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者の急激な減少と、海外も含めて明るい兆しのニュースが多く、精神的な安どの声も多く聞かれている。客の健康管理意識も高まり、消毒、検温も通例化したことから、体調不良者の外出は抑制されていると感じる。
		一般レストラン [居酒屋]（経営者）	・来月以降の予約問合せも徐々に増えてきているので、期待はしている。
		その他飲食 [給食・レストラン]（総務）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、景気刺激策の実施により、レストラン部門も年未年始の利用に弾みがつくと期待している。少人数グループの取り込みなど、Withコロナの誘因策が大切と考えている。
		都市型ホテル（支配人）	・このままワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染拡大第6波が小さな波で収まることを願って、希望的観測ではあるが、良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言が解除となり、新型コロナウイルス新規感染者数も落ち着いている。宿泊者数、レストランの来客数も前年比100%を超えている。宴会は、1件当たりの人数は少ないものの、件数が急に伸びており、良い兆しが見えてきている。
		都市型ホテル（総支配人）	・9月を底に盛り返してきてはいる。ただし、団体予約や宴会利用は見込めないのが、あくまでも個人利用がどこまで回復するのかによって、大きく左右される。
		旅行代理店（経営者）	・今後、新型コロナウイルスの感染再拡大がなければ、秋の紅葉シーズン、年未年始の旅行客が見込める。
		旅行代理店（所長）	・今冬の新型コロナウイルスの感染再拡大や、取りざたされているインフルエンザの流行を抑えられることを前提に、今の流れが継続し、景気上昇につながることを期待している。
		旅行代理店（従業員）	・平時にはまだ及ばないが、少しずつ増えているので期待している。
		通信会社（営業担当）	・現在の傾向が続けば、更なる景気回復も期待できるが、年末の新型コロナウイルスの感染状況に不安を感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、新規感染者数も減少していること等が影響して、近隣の観光地に人が戻ってきている。数か月前には全く見なかった観光バスを見かけるようになってきている。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加せず、前年末のように緊急事態宣言が発出されなければ、来園者数の増加が見込まれるため、やや良くなる。
		ゴルフ練習場（経営者）	・今まで我慢していたショッピングや行楽に明るい兆しが出てきている。ただし、ここにきてあらゆる物の値段が上昇傾向になっているため、消費を冷やしかねない。
		競輪場（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大第4波から第5波になるまでの間は、徐々に来場者が増えてきていたことから、今後の新型コロナウイルス感染者数の推移によるが、少しずつでも良い方向に向いてもらいたい。
		設計事務所（所長）	・良くなると思うが、新型コロナウイルスの感染拡大第6波が来るのかどうかで、また後退する可能性もある。衆議院議員選挙後の政治の動きにも注目している。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・日常が戻りつつあるため、今まで見送りとなっていた事案が動き出す可能性はある。各社の業績の回復次第だが、今後は少しずつ受注案件が増えてくる。
		商店街（代表者）	・客の購買意欲は徐々に前向きになってきている。年末年始に向けて、新型コロナウイルスの感染拡大第6波への懸念が残る。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・時期的に紅葉狩りとか観光客は増えていきそうだが、やはりイベントがないと客寄せできないので、余り変わらない。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されて、飲食店並びに付随するところは良くなると思うが、当店のよう小売店は以前と変わらない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・緊急事態宣言が全面解除され、新型コロナウイルス新規感染者数が劇的に減少し始めた10月中旬から、急激に客足が戻っている。特に、修学旅行や遠足等の学生団体旅行が一気に実施され、一般団体旅行も復活し、明るい兆しがあるところで見られる。バスガイドや問屋の外商との話では、「前年のGo Toのように急に行動範囲が広がり、気が緩んだ状態で大いに動く、また前年のように年末に新型コロナウイルスの感染が急拡大し、年始に緊急事態宣言発出があるのではないか」と危惧する声も聞く。ただし、現状は有り難いことに大変忙しく、目の前の客に対応することで精一杯である。また、雇用調整助成金の関係で勤労意欲が失われており、観光地は深刻な人手不足である。助成方法の再考を求める。
		スーパー（商品部担当）	・緊急事態宣言の解除、新型コロナウイルス新規感染者の減少が続いている状況で、人の動きも多くなっているが、生活スタイルの変化はみえない。地域クーポンや市町村限定プレミアム付商品券等、一時的に数値が上がる可能性はあるが、長くは続かない。
		衣料品専門店（統括）	・新型コロナウイルスが早く終息してくれることが非常に望まれる。前の状態に早く戻って、イベント、祭礼行事が復活し、経済の発展につながっていくのではないかと。今年は、「早く祭りが復活してほしい」という来店客が多くみられている。
		衣料品専門店（販売担当）	・新型コロナウイルス感染拡大の影響も、客の流れが止まっている大きな要素ではあるが、今回そこに上乗せしたような衆議院議員選挙である。選挙の時は、客がほとんど街に出てこないで、ダブルパンチというか、もっといろいろな要素が絡んでいて、とんでもない負のスパイラルに陥ったようである。改善の見通しが立つかどうかともみえない。なんと云ったらよいか分からない。
		乗用車販売店（販売担当）	・自動車販売店だが、受注しても生産が遅れているために納車ができないので、断られることもある。客もなかなか買ってくれない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（販売担当）	・緊急事態宣言が解除となっても、すぐに客が戻るといった保証はない。客が安定した収入を得られるようになってからでないと、当社の扱う輸入車、国産車を含めた修理、販売関係の客は来てくれないので、2～3か月先が良くなることはない。
		住関連専門店（店長）	・3か月先はまだ不透明で分からないが、小売業全体ではここ半年、減収減益が続いているので、極端に良くなることはない。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・身近な客の動きは少しずつ出てきているが、販売商材確保が難しくなっていて、見直しを図らざるを得ない状況である。メーカーが余りにも海外生産にシフトしてしまったことが原因で、人も物もスムーズに流れなくなっている。全体的には余り変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・冬になり新型コロナウイルスだけではなく、他の感染症も流行する時期なので、警戒心も高まるのではないかと。
		観光型ホテル（経営者）	・データや過去の事例からも明白であるが、冬場は新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス等、様々な感染症り患者が増加する。1月以降は、前年から今年初頭に起きたことが繰り返されるとみている。現状の流れのままなのか、緊急事態宣言の再発出なのかは分からないが、非常に警戒している。
		タクシー（経営者）	・夜の動きが悪いので、この先も良くない。
		通信会社（経営者）	・急激な改善は有り得ない。10月になっても、廃業する企業や飲食店も後をたたない。
		通信会社（総務担当）	・メーカーが年内の生産目標を引き下げる見込みだと伝えられており、商材不足は年内に解消しないと思われる。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・地方では、人手不足による人件費高騰で2重苦となっており、事業者は雇用を維持するのが精一杯である。
		設計事務所（所長）	・企業の忘新年会の自粛等、いろいろな行事が平時の状態に戻らないと、景気回復は難しい。
		家電量販店（営業担当）	・冬季の北京オリンピックに向けて映像関連の強化をしていく。暖房器具の品ぞろえの見直しで、チャンスロスがないように取り組み、消毒関連の取組も強化していく予定である。
		その他専門店〔燃料〕（従業員）	・受注残が少なくなってきたり、今後についても注文残がない状況が続いている。
		住宅販売会社（経営者）	・原油価格高騰で全体的に物価が高くなって、コスト高になりつつあり、経営が圧迫されている状況で、景気は悪くなる一方である。
	×	家電量販店（店員）	・可処分所得と成り得るような現物支給や給付金のような物がないと、消費マインドが出てこない。
	×	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス禍も2年弱となっており、もう体力が持たない。新しい施策を打ち出す余裕もない。終えんを待っている感じである。
	×	タクシー（役員）	・新型コロナウイルス対策は不公平感があり過ぎて、今後税金を負担したくない。
	×	通信会社（経営者）	・現状はやや忙しいが、それは緊急事態宣言の影響で、8～9月頃の仕事が先延ばしになっていただけである。むしろ、半導体不足問題で様々な機器の入荷時期が未定で、物が売れない。さらに燃料価格高騰で、掛かる経費は増す一方である。米国の利上げはこれからで、産油国の原油増産が進まないと原油高から波及する物価高騰で、せっかく新型コロナウイルスが落ち着いてきても、景気は腰折れ状態になると予想する。
	×	美容室（経営者）	・原油価格急騰と円安の影響で、ガソリン、電気料金、食品等、国内物価が上昇し、インフレが話題に上がっている。日銀の異常な金融緩和も出口が見えてくるのだろうか。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルス禍が落ち着いてきて、今まで動けなかった人たちが動くようになり、少し景気が良くなる。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・例年よりも契約、売上は増加しているが、衆議院議員選挙の結果が心配である。
		不動産業（経営者）	・今後、新型コロナウイルスの新規感染者減少に伴って、海外からの留学生や研修生等が入居し始めたり、人流が戻れば、物件空室率も下がり、それに伴う業務が増えてくるのではないかと期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
x		経営コンサルタント	・いわゆる新型コロナウイルス感染拡大第6波を懸念する向きもあるが、全体としては個人や企業活動の活発化を止められない状況が強まっている。それだけ地域経済は盛り上がっている。
		司法書士	・2～3週間前から、街中が少しにぎやかになってきた感じで、道路を歩く人もマスクを外している人が多くなっている。下請、孫請企業が多い地域だが、そうした友人たちも少し忙しくなってきたと言っているので、多少は期待してみたい。
		社会保険労務士	・今のところ、年末の荷動きはキャンセルが出なければ良さそうである。
		化学工業（経営者）	・価格転嫁次第ともいえるが、それほど需要が強くないので、良くなる予想はしにくい。
		金属製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者が少なくなって、良くなったように思うが、またいつ感染状況が悪くなるかわからないので、皆気を付けている。先のことは分からず、不安である。
		一般機械器具製造業（経営者）	・自動車のグローバルサプライチェーン問題は、簡単に解消されない状況である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・この2～3か月は大分景気が良くなってきた感じがする。ただし、今後もこの調子でいくのか先のことは分からない。変わらない状況でいってもらいたい。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・まだしばらくは、新型コロナウイルスの影響が残ると考える。
		輸送業（営業担当）	・年末年始に向かって寒さも厳しくなるので、冬物家電、暖房器具、ヒーター、エアコン等の物量が増える予定である。しかし、全体的に関東に向かう輸送便が少なく、車両確保が厳しくなりそうなので、運賃高騰になり、燃料価格高騰も続きそうなので、利益自体は薄くなりそうである。
		広告代理店（営業担当）	・まだ慎重さが目立ち、飲食店、ホテル等からは大きな動きがみえてこない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・取引先に動きはみられるものの、まだ様子見が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・注文があっても、部品と材料がないので物が作れない状況になる。全般的な話になるので、かなり状況は悪化する。
		建設業（総務担当）	・この時期なのに工事量が少ないと感じている。
		不動産業（管理担当）	・ここ2～3か月で、立て続けにテナントが退去することになったので、売上減少が見込まれる。新型コロナウイルスの影響による減収減益を少しでも抑えるために、店舗や事務所を統合するなどの理由による契約解除が多い。
	建設業（開発担当）	・今期公共工事は前年比10%減と厳しい状況で、今後の発注を神頼みしている。月末に衆議院議員選挙があるが、安定した政権を期待している一方で、新しい風を運んでくれる政治家をも期待している。	
雇用関連 (北関東)		人材派遣会社（経営者）	・新型コロナウイルスの影響による規制の緩和で、飲食関係を中心に伸びていく。年末商戦等における人材確保や販売促進でも、やや良くなる。年末は、建設、道路関係工事、住宅の一部改修等も増えていく。
		人材派遣会社（管理担当）	・自動車関連工場の操業停止が終了し、製造が増えるため、良くなる。
		職業安定所（職員）	・10月から飲食店も営業再開し、飲食店からの受注が増えていることから、関連する卸売業でも求人募集の再開を検討している。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・新型コロナウイルスの悪影響が減少し、経済活動が活発化した感がある。
		人材派遣会社（社員）	・取引先企業の採用活動は、急募ではなく良い人材をじっくり探す方針のところが多いため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、景気も改善しているとは思いますが、「半導体の部品が海外から納入されず、先行きが不透明」との理由で、求人を控える自動車関係部品加工製造事業所等も多々ある。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (南関東)		一般小売店〔生花〕 (店員)	・新型コロナウイルスの感染者数が少なくなってきたことが、人々にとって明るく捉えられているのだと思う。出口がやっと見えてきたので、この先は良くなるような気がしている(東京都)。
		その他専門店〔雑貨〕 (営業担当)	・10月に入り、目に見えて店の前の通行量が増加している。街全体の人流も活性化しており、このまま新型コロナウイルス感染第6波がなければ、年末に向けた消費に期待できる(東京都)。
		一般レストラン(経営者)	・忘年会の予約が、少人数ではあるものの細々と入ってきている。新型コロナウイルスの感染者数がこのまま少なければ、前年12月よりは良くなる(東京都)。
		その他飲食〔カフェ〕 (経営者)	・Go To Travel、Eatキャンペーンなどが再開されると更に良くなっていくと思うが、新型コロナウイルスの感染再拡大が予想されるので、感染が拡大したとき経済をどうするかで変わってくる。感染は防げないので、拡大させないための社会生活のルールを、他国の事例をお手本にして作り上げ、国のリーダーがやるべきことをしっかり指し示し、経済を止めないでほしい(東京都)。
		都市型ホテル(経営者)	・緊急事態宣言が全面的に解除され、今後新型コロナウイルスの治療薬開発が進み、更にワクチン接種も進展すれば、収束に向かうのではないかと。合わせて、Go To Travel、Eatキャンペーン再開ということで、こちらも大いに期待しているところである。ようやく出口が見えてきたと実感している。今後無事に新型コロナウイルスが収束することを願っている。
		都市型ホテル(スタッフ)	・緊急事態宣言が解除され、このまま新型コロナウイルス感染者数が落ち着けば、良くなることは間違いない。観光需要が高まってくれることを祈るしかない。
		商店街(代表者)	・緊急事態宣言が全面的に解除され、飲食店の関係者は大変喜んでいるようである。ただし、我々物販店の方はそれほどすぐに反応は出ないので、これから期待したい。人出が増えてくれば、それに伴って商売も円滑に進んでいくのではないかと。
		商店街(代表者)	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が伸びないという前提ではあるが、良くなる。総選挙終了後、新政権が新型コロナウイルス対策や景気対策を打ってくるであろうから、プースター効果も期待できる。ただし、今回のウイルスは急速に波が拡大するので、どこかでブレーキは掛かる。それが早いか遅いかにより、未来予測に誤差が出てくる(東京都)。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・新型コロナウイルスが落ち着きつつあり、客の自宅へ訪問しやすくなっていくので、売上も伸びると予想している。
		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・緊急事態宣言も解除されたので、暮れに向けてイベントや売出しもそこそこできる。
		一般小売店〔家具〕 (経営者)	・新型コロナウイルスが落ち着いてきて、客も店に入りやすくなるだろうし、抑制されていた部分が解除されてきているので、多少は気持ちが購買に向かってくれるのではないかと(東京都)。
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの新たな感染の波を警戒しつつではあるが、少しずつでも人出が戻る。イベントも徐々に再開、実施されつつある。
	一般小売店〔文房具〕 (経営者)	・飲食店が営業を再開し、営業時間を延長したこともあって、夕方以降の街にも活気が出始めてきている。東京都の新規コロナウイルス感染者数も10日続けて50人を下回り、近隣商店街のイベントも感染症対策を講じながら始まり、土日や日中の来街者及び当店への来店客も増える傾向にあり、若干ではあるものの売上の増加が見込める(東京都)。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染者数が激減している。クリスマスや正月の飲み会などで感染者数が再び増加すると話は別だが、この調子で減っていき、消費者が安心できる状況になれば、年末頃には景気は回復傾向になる。
		一般小売店〔茶〕(営業担当)	・期待を込めて、良くなってほしい。会社としても我々社員としても、忙しくなることを願っている(東京都)。
		百貨店(売場主任)	・気温が下がる冬に、新型コロナウイルス新規感染者数がどのように推移するかによって今後の景気は左右されるが、年末年始は一番の集客が見込まれるイベントが続くため、希望的観測ではあるがリベンジ消費も期待したい(東京都)。
		百貨店(総務担当)	・現在、新型コロナウイルスの感染者数を抑え込んでいるなかで、楽観視はできないが、この状態を継続することができれば、今まで動いていなかった個人消費が活発に動き出すことが予想される。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルス感染第6波の懸念もあり、しばらくは消費も含めて慎重に行動するとみられるため景気の急回復は見込めないが、第5波のような急激な感染拡大がなければ着実に消費は上向く(東京都)。
		百貨店(広報担当)	・これまで消費が抑制されていた反動で、年末に掛けて景気が回復に向かっていく。ただし、新型コロナウイルス感染再拡大等の懸念は残っているため、依然として不透明感も残っている(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・化粧品にとっては、客の肌に触れずに販売をすることは難易度が高い。それが、ルールを守った上で、タッチアップすることができるようになったというのは、売上が伸びる大きな要素となる。また、売上が最も大きいクリスマス商戦に、緩和が間に合ったことも奏功すると期待している(東京都)。
		百貨店(営業担当)	・緊急事態宣言が解除されたこと、新型コロナウイルスのワクチン接種が進んでいること、経口治療薬の情報がでてきたことなど、感染収束に向けた比較的明るい兆しが見えてきたことにより、世間の印象や動向も少しずつ変わると予測する(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・10月後半で既に売上、来客数などが回復傾向にある。来店状況に至っては、新型コロナウイルス発生以前と変わらないような勢いだと感じる。この勢いと当社の新しい顧客戦略がスタートするタイミングが重なり、期待は大きい(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・緊急事態宣言の解除、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展等により、感染者数の落ち着いた状況が続けば回復傾向になる。おせちの注文など巣籠り需要が好調に推移していることに加え、今後、旅行等の外出機会増加がアパレルや洋品雑貨へ波及すれば、更に良くなる。
		百貨店(販売促進担当)	・新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、来客数の増加傾向が継続すれば、前年は消失した冬物需要や外出需要により売上増加が期待できる(東京都)。
		百貨店(経営企画担当)	・新型コロナウイルスのワクチン接種により感染者数も減少傾向にあり、年末年始に向けて徐々に来客数が回復に向かうと予想している。一方で、サプライチェーンの回復には時間が掛かることが予想され、アパレル関連を含め、商材の品薄傾向に懸念がある。商材の値上げと在庫不足により販売額が伸び悩む可能性はあるものの、現在よりは若干良くなる(東京都)。
		百貨店(店長)	・新型コロナウイルスの感染第6波次第だが、このまま人流が一定程度増加すると思われる一方で、新型コロナウイルス禍で変化したイエナカマーケットは継続するとみられることから、感染が沈静化した上での反動消費とイエナカマーケットという2重の消費が発生する(東京都)。
		百貨店(財務担当)	・今後、年末年始に掛けて、繰越需要の効果が出てくると想定している(東京都)。
		百貨店(企画宣伝担当)	・飲食店の営業時間に対する制約がなくなり、行動制限がなくなることに伴い、消費者心理も良い方向へ変化する。
		スーパー(販売担当)	・緊急事態宣言が解除され、短縮していた営業時間も通常どおりに戻る。それに伴い来客数が増加し、買上点数、買上額が増えて、傾向としては良くなっていく(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・季節的要因があり、秋冬の方が売れる食材が多い。
		スーパー（総務担当）	・皆が外を出歩くようになっている。
		コンビニ（経営者）	・これから新型コロナウイルスが収束し、来客数が増えていくだろうと期待している。また、客が夜遅くまでいるということで、売上も伸びていく。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスが終息し、人の動きが良いままであれば、我慢していた反動で、消費が活発になる。
		衣料品専門店（経営者）	・いまだに新型コロナウイルス禍にはあるが、いろいろな規制が緩和されることにより、人の流れ等が増えてくると思うので、経済効果もかなりあるのではないかと。景気が良くなるのは良いことだが、新型コロナウイルス感染第6波が来るようなことになるととんでもないことになる。人の流れが増えるのは良いことなので、経済効果がそのまま続けば良いという希望的観測である。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少してきていることから、行動自粛から解放されて消費意欲が増えてきている。ただし、感染第6波への不安も拭えないことから、慎重に日常に戻そうとしている。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス感染第6波が来ない限りは、クリスマス商戦、年末年始商戦が控えているため、一定の需要が見込まれる（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・Go To Travelキャンペーンは来春まで持ち越しのようだが、年末に向けて外出する機会が増えれば衣料品の需要はある。
		衣料品専門店（従業員）	・新型コロナウイルス感染者数が比較的減っているため、少しは良くなるのではないかと。
		家電量販店（店員）	・年末年始に向け、ボーナスも支給され、販売量が増えていく。新型コロナウイルスの感染状況次第で読めない部分も多いが、家電に関しては、自粛が増えても生活必需品への購入につながってくる。
		家電量販店（経営企画担当）	・新型コロナウイルス感染第6波を最小限に抑えることもできると考えている。営業時間の緩和等、徐々に安心して買物ができる状況になり、イベント等も安全な形で実施できるようになってくれば、おのずと数字は改善するものと期待している（東京都）。
		乗用車販売店（販売担当）	・各ディーラーの営業やサービスなども、緊急事態宣言が解除されて訪問営業、イベント、勧誘がしやすくなる。今後については、新型コロナウイルスの影響はあるものの、景気は上向きになるのではないかと。新型コロナウイルスが落ち着いて、移動手段が増えてくれば、新車などの販売台数が増えてくるとみている（東京都）。
		乗用車販売店（店長）	・部品供給など、車の生産も上向きに変化する。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型コロナウイルスが徐々に落ち着き始め、客の購入意欲が湧く。
		住関連専門店（営業担当）	・緊急事態宣言のほか、社会活動の各種規制が解除され、社会全体が経済の復興にかじを切っている。新型コロナウイルスのワクチン接種の普及もあり、消費マインドの回復が明確なものになる（東京都）。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、飲食店への営業時間の規制もなくなるので、少し外に出る人が増えて、購買意欲が増えると良い。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・再度緊急事態宣言等が発出され、人流が抑制されたりしなければ、来客数は徐々にではあるものの回復していく（東京都）。
		高級レストラン（経営者）	・Go To Eatキャンペーン関連施策の利用期限が年末になっているため、やや良くなる。
		高級レストラン（営業担当）	・今月は飽くまで今月以前の半年間と比べてやや良くなってきているものの、いつ新型コロナウイルス感染第6波が来るかわからず、客も慎重になりながらの問合せが多くなっている（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・緊急事態宣言も解除となり、今後更に来客数が増えてくる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（役員）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染者数がかなり減っていることにより、このまま緊急事態宣言解除の状態が継続され、年末年始、来春と進めば、景気回復基調が期待できる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・現時点では時短営業もないので、少しずつ良くなっていく。新型コロナウイルス感染第6波が来なければ、2～3か月先はもっと良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの感染者数が少なければ、3か月後は良くなると期待している。忘年会や新年会は見込めないが、これも感染状況次第である。
		一般レストラン（経営者）	・今月からは緊急事態宣言が解除され、25日からは新型コロナウイルス感染対策による規制は全面解除になった。しかしながら、客の意識はまだまだ厳しく、景気はゆっくりとした回復になる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・政府の対応にもよるが、新型コロナウイルス感染拡大防止協力金の支給がなくなると、倒産する企業もやや増える（東京都）。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・このまま通常営業ができる状況であれば、年末に向け外食が増え、景気は上向く（東京都）。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（役員）	・人件費削減が奏功したことに加え、売上も徐々に伸びていくことが期待されることから、一層の改善が見込める（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染者数も落ち着き、人出がかなり増えている。また、国のGo To Travelキャンペーンが1月以降に再開されるものとみている（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・案件が絶無であった頃と比べれば、実施案件が出てきた今は良くなったといえる。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーン再開のニュースがあるので、今後景気は回復傾向になる。再開時期は未定のため、当社や旅行会社自体の景気は不透明であるが、既に地域独自の割引等を開始している自治体があるので、観光業界全体としては回復に向かっている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・新政権が安定し、Go To Travelキャンペーンが再開されれば期待できる（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・2～3か月後は正月から冬のシーズンに入ってくる。まず、正月の商戦は個人を中心に動きがあるが、やはりGo To Travelキャンペーンの再開等を見越してまだ様子見の感じが非常に強い。また、その内容も分かっていないので、待っている客がいるというのをよく耳にする。冬のシーズン物の動きはまだ余りないが、今後1か月以内で増えていく（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染者数が減少傾向にある今の状況が3か月後も続くとするれば、景気は回復するだろう。
		タクシー運転手	・久しぶりに泥酔客に出会った。新型コロナウイルスが落ち着いて、飲食店の時短営業等が全面解除された状況が続けば、少しは良くなる（東京都）。
		タクシー運転手	・徐々に元の生活に戻ることを期待したい。今までが異常だったため、すぐに戻るとは思えないが、利用が戻るのをただひたすら待つばかりである。今年の暮れは小規模の忘年会がありそうなので、期待している。
		タクシー運転手	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増えなければ、経済も少しは動いてくると思うので、期待を込めて、今までよりは良くなる（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・アフターコロナに期待している。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、安心感が広がりがつつある。一方、寒くなり、風邪が増えると、新型コロナウイルスと混同して行動が鈍くなる（東京都）。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第6波が心配されるが、緊急事態宣言が解除され、ワクチン接種も進んでいることから、様々な制限が緩和されてきているため、客も日常を少しずつ取り戻し、反応も徐々に改善するものとみている（東京都）。
		通信会社（社員）	・前年中止したイベントが具体化してきている。リスク回避ムードがなくなっているようである（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言の解除を受け、新型コロナウイルス発生以前までは戻らないまでも、徐々に人の動きが出てくることにより、契約数に反映されてくる。
		通信会社（局長）	・2～3か月後は更に客の心理が緩和され、対面営業自体に違和感を持たなくなってくると思われるので、連動して加入数も増加する（東京都）。
		通信会社（総務担当）	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展や、感染者数減少によるマインド転換から、訪問営業機会等の回復を期待している（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・新型コロナウイルス感染第6波により、ストレス発散の場が求め直されるような流れになるのではないかと。
		パチンコ店（経営者）	・ようやく25日から飲食店への規制が全面解除された。県内で始まったGo To Eatキャンペーンにも期待が持てそうである。
		競輪場（職員）	・手法を凝らし開催すること、また、そもそも有観客を目的に設計されているため、客が入場したときにはまた楽しみ方が変わってくると考えている。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・街中の様子、週末の交通渋滞など、人がもう動き始めている（東京都）。
		その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・新型コロナウイルス感染第5波が収束する見通しである（東京都）。
		その他サービス[福祉 輸送]（経営者）	・人流が増え、経済活動が高まっていけば、今まで抑えられていた自動車に対する需要も高まってくるのではないかと期待している。そうなれば若干の営業の伸びが出てくる（東京都）。
		設計事務所（経営者）	・新入社員が入る兆しが見えてきたこと、新型コロナウイルスの収束により、これからは前向きに営業を展開できるように見受けられる。今まで悪かったものを更に工夫して、皆で考えながら、事務所経営にいそしみたい。
		設計事務所（経営者）	・今の案件がそのまま続いていく。相談件数も多い。
		住宅販売会社（従業員）	・今後は戸建て需要が減り、地価も徐々に下落していけば、土地の仕入れが従来に戻り、順調に推移していく。アパート販売の方も、客の購入意識が安定しているのでコンスタントに動いている。
		住宅販売会社（従業員）	・受注の増加は売上、粗利益の増加に直結する。
		その他住宅[住宅資 材]（営業）	・下半期に入り、建材の動きが顕著に上向いている。新型コロナウイルスの影響で落ち込んだ前年との比較ではなく、前々年と比べても好調となっている（東京都）。
		一般小売店[家電] （経営者）	・とにかくずっと低いままで、何とか食いつないでいる状態である。最近、補助金を受け取った飲食店などから、店の改装などの話を多少なりとも聞けるようになってきている（東京都）。
		一般小売店[印章] （経営者）	・最近現金を触らない支払方法が増えてきており、それを要望する客も増えている。商店街にあるそれほど規模の大きくない店舗では、対応できるシステムを導入するにはどうしたら良いのかという不安と、それだけ資金の掛かる設備を整えるべきかどうかで非常に悩んでいる。
		一般小売店[傘]（店 長）	・これから先も見通しは不安である。急速な消費回復は望めない。
		一般小売店[文具] （販売企画担当）	・周りの銀行等の整理統合などに伴って、立地的な影響から、支店は急激に落ちており、これはこの先も変わらない。また、外務部も今後はさほど大きな案件を見込めないため、悪かった今月のままで先行きもそれほど変わらないのではないかと。大きな良い案件があれば別だが、希望的観測が余りなく、厳しい。
		一般小売店[書店] （営業担当）	・緊急事態宣言の影響もあると考えられるが、引き続き現状並みの受注量が続く（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・慎重な消費行動が普通になってしまい、一度縮んでしまった消費意欲を再び喚起するための環境改善や動機創出が必要であると感じている。新型コロナウイルスへの不安解消が最も重要だが、具体的な景気対策などがないと現状から大きくは変わらない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・お歳暮やクリスマス、年末に向け売上回復を期待しているが、消費に慎重な姿勢と、今後も続くと思われる各商品の値上げ、エネルギー価格の高騰による物価上昇から、消費鈍化に転じる不安がある（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は大幅に減少しているものの、その要因は特定できておらず、冬に向けて感染第6波も懸念されるなど不確定な要素が多いため、回復にはまだまだ時間が掛かりそうである（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスに関する報道、政府の対策次第である（東京都）。
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス感染第6波に対する懸念があるため、変わらない、若しくはやや悪くなる。
		百貨店（管理担当）	・消費行動については慎重に判断しているような傾向が見受けられる。新型コロナウイルスの感染が再拡大する可能性を考慮していることと、収入も減っていることがあるのではないかと（東京都）。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響も収まり、客の購買状況はこの数か月間変化がない。飲食店の通常営業が再開されても、店舗での購買行動が減ることはない。
		スーパー（店長）	・消費者には依然として節約志向が根付いており、経済が通常に戻りつつあるなかでも、大多数の消費者は少なからず影響を受けているので、もうしばらくは同様の状態が続く（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・今は新型コロナウイルスの新規感染者数がかかなり減っているが、感染第6波が来るかどうかにより、マスク着用の生活が続くことが考えられ、客の行動や買い方も非常に慎重になっている様子が見受けられる。また、石油を含めているような物の値上がりが見込まれるので、大きく伸びることは見込めず、必要な物しか買わない状況が今後も続く。
		スーパー（営業担当）	・内食化傾向がもうほとんどなくなってきている。したがって、販売量、買上単価の落ち込みが見込まれる（東京都）。
		スーパー（仕入担当）	・新型コロナウイルス禍は落ち着いているように見えるが、リバウンド等、まだまだ先が見えない。
		コンビニ（経営者）	・客が新型コロナウイルスに慣れ、生活習慣が変わらないと思われるので、売上その他も変わらない。
		コンビニ（経営者）	・徐々に悪くなっている（東京都）。
		コンビニ（経営者）	・前年はGo Toキャンペーンもあり、人の動きがあった。その反動で今年は人の動きが少なく、厳しい状況はまだ変わらない。
		コンビニ（商品開発担当）	・競合先やそれ以外の業態も通常営業に戻ってきているため、今以上の売上は余り期待できない（東京都）。
		家電量販店（店長）	・ここにきての商材の値上がり傾向、生産遅れによる欠品が非常に気になる。政府による適切な介入に期待したい（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。前月は良かったが、今月はその5割減となっている。
		乗用車販売店（経営者）	・景気の回復には時間が掛かる。
		乗用車販売店（経営者）	・現状がまだしばらく続く。
		乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足の問題や納期の短縮が改善しないと、回復の見込みがない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・回復の見込みが定かではない。
		乗用車販売店（営業担当）	・海外の部品納入状況が解決するか不明なため、新車の納期もはっきり分からない（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・以前のような人の出入り、販売量の動きはまだ戻らない。今年一杯は伸びないのではないかと。
		その他専門店【ドラッグストア】（経営者）	・どうみても先行きが明るくなるような感じがしない。今までと変わらない。
		その他小売【ショッピングセンター】（統括）	・行動制限の反動か、客は来館してくれるものの、購買には結び付いていない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・正直に言って、分からない。総選挙後の政府の対応と、新型コロナウイルス感染が再拡大するか否か次第である（東京都）。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・第1に、新型コロナウイルスの感染状況次第である。現在の落ち着いている状況が続けば商況が良くなっていくが、新たな変異株や第6波発生リスクがある。第2に、消費者の生活行動パターンがどうなるか。新型コロナウイルス禍での生活が2年弱になり、この生活に慣れた消費者がどこまで消費行動を戻すか、あるいはそのまま進むか、というのが未知数である。
		一般レストラン（経営者）	・外食形態の変化は否めない。客もこわごわと様子見の状態である（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・夜の営業を再開したことで、フリー客は来ているものの、宴会需要は全くない。例年この時期には一杯になる12月の宴会需要も、現在は3件ほどしか入っていない。フリー客で売上を上げるのにはどうしても限界があるので、来月も今月と同じような推移をたどる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除されたからといって、年末の忘年会、クリスマス等を含めて、すぐに今年の宴会予約は戻ってこない。ただし、国の新型コロナウイルス対策の助成金は、緊急事態宣言が解除された瞬間から出なくなるので、当店を含めた飲食店は、今後の経営が厳しくなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・緊急事態宣言が解除され、直近での予約の動きはあるものの、先々の動きについては様子見の状態が続いている。寒くなるにつれて新型コロナウイルスの感染再拡大は少なからずあると考えており、ワクチンのブースター接種が進んでも景気は大きくは変わらない。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの収束が見えない限りは、何となく不安があるので、遠出したり、家族全員でどこかへ出かけたりすることもちゅうちょしているようである。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンの動向次第である（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・しばらく今のやや悪い状況が続く（東京都）。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染者数は大分少なくなったが、油断はできない。感染者が周りにいる可能性はまだ拭えないので、今までどおり注意しながら行動しなければいけない。お互いに気を付けるしかない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスがそのまま収束方向にいくのかが大変気になっている。会社の仕事もリモート化が大分進み、これからどういう方向に向かうのかを注視している。会社が大分動き始めており、出張等が増えてきているのか、東京駅への人々の動きが大分出てきている。それがこれから景気にどう影響するのか注目している（東京都）。
		通信会社（経営者）	・緊急事態宣言は解除されたものの、半導体不足が解消されない限り、現状が続く（東京都）。
		通信会社（社員）	・再度行動が制限されるようになった場合、契約数に影響が出る（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言が解除されても、依然として新型コロナウイルス感染再拡大の懸念は拭い切れないため、大幅な改善は見込めない。
		通信会社（管理担当）	・まだまだ様子見の傾向が強い。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料はない。
		通信会社（経理担当）	・新型コロナウイルス感染対策の影響を余り受けないサービスなので、特に景気は変わらないものと想定している。
		通信会社（管理担当）	・先行きがいまだに不明瞭である（東京都）。
		ゴルフ場（経理担当）	・ゴルフが新型コロナウイルス禍において安心して楽しめるスポーツという認識の浸透もあり、新型コロナウイルスとの共生時代にあっても、ゴルフ選好が定着していく流れは変わらない。最大のリスクは、懸念が強い感染第6波の到来であるが、現在のような小康状態が続けば、改善も期待できる。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・オンラインで会議を行う会社が増え、これからも車で来ないことが見込まれる。
		その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染第6波を見据え、急には景気は良くならないし、先行きの不安感はまだまだ拭えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・売上の回復がまだ見込めない。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルス禍がこのまま収束に向かっても、急速に受注量が回復するとは考えにくい。新年度を迎え、官庁案件の入札が始まるまでは、厳しい状況が続く。
		設計事務所（所長）	・総選挙後、また、新型コロナウイルスの方向性がどうなるか見当がつかない。良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。ただ、改修のみが増えていくのではないかと思われるが、今と変わらない（東京都）。
		設計事務所（職員）	・変わらないと回答したが、新型コロナウイルス第5波が終息し、経済活動に少しでも復活の気配が出て、特に民間の動きが変化することに期待したい（東京都）。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスが収束しない限り、景気は良くならない。早くワクチン接種が進展することと、治療薬ができることを期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの緊急事態宣言解除により、休日はイベントやレジャーに行く人が増えて、住宅展示場への来場者数や商談数が減ってきている。また、年末までは客が忙しく、来場者、商談数共に減ることが見込まれ、今月同様に景気はやや悪い状況のままで変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・受注件数、来場者数、資料請求件数、いずれも大きな変化はない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・我々の仕事は決まるまでに短くても2～3か月は掛かる。それ以上掛かることも多いので、新型コロナウイルスが1日も早く収束しないと、景気が良くなっていかないのではないかと。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・良くなる材料が見つからない（東京都）。
		スーパー（経営者）	・ここにきて急速に新型コロナウイルス感染者数が少なくなっており、緊急事態宣言も解除されたので、今までの巣籠り需要がなくなりつつある。今までは、なるべく買物回数を減らしてたくさん買うという生活習慣だったが、客がいろいろなところへ出掛けるようになるので、我々スーパーにとってはこれから先は厳しくなる。
		スーパー（経営者）	・当社は食品スーパーマーケットなので、新型コロナウイルスが収束し平常になることにより、巣籠り需要がなくなり、販売量の減少が見込まれる。今までが良過ぎたのだと思う。
		スーパー（店長）	・10月に入って今年初めて売上予算が未達になった。3か月後も、このまま売上、来客数、客単価、買上点数、いずれも落ちていくと推察できるので、今よりはやや悪くなると予測している（東京都）。
		スーパー（販売担当）	・緊急事態宣言解除後も以前のように外食や行楽は回復せず、新型コロナウイルス感染第6波の心配があるため、心理的にまだまだ行動抑制が継続される。
		コンビニ（経営者）	・取り巻く環境や、いろいろなことに注意を向けないといけなくなってきた。費用が関係してくるエコ、リサイクルなどは簡単には進まないの、上向きにはならない。
		コンビニ（経営者）	・コンビニ全体では売上が伸びると思うが、当店のような住宅街にある店舗は人の流出があり、売上が減少する。
		コンビニ（エリア担当）	・前年は、冬季に新型コロナウイルスが感染拡大したため、これから感染第6波が来ると売上に影響が出る。また、例年に比べて寒くなるという予報も出ているため、客足が鈍くなりそうである（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・輸入資材の高騰が物価を押し上げると思うが、輸出が伸びず、景気は停滞する。いわゆるスタグフレーションとなるのではないかと。
		一般レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスが落ち着いてきてから反動がありそうである。
		通信会社（営業担当）	・在宅ワークが減っていくと思われるので、インターネット新規加入獲得数の減少が見込まれる（東京都）。
		その他レジャー施設〔総合〕（広報担当）	・海外の現状や国内の前年の状況に鑑みると、2～3か月先は新型コロナウイルス感染第6波の影響が避けられないかと（東京都）。
		美容室（経営者）	・早く新型コロナウイルスが収束してほしい。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・コマースを出しても反応がほとんどない。
		設計事務所（所長）	・今ある社団法人から依頼を受けている。新型コロナウイルスの影響でなかなか資金調達、特に寄附が集まらず、非常に苦戦している。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染の収束後、一時は良くなっても、その後の落ち込みが心配である。人件費、水道光熱費を始め様々な経費が上がる。
	×	コンビニ（経営者）	・売上は横ばいで推移すると思われるが、最低賃金アップにより人件費が大幅に増加し、経営上の厳しさはますます増していく。
	×	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染者数が少なくなれば、旅行や飲食業界に消費が向くと予想される（東京都）。
	×	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・原油価格の高騰はしばらく続くと推測されており、当分の間は厳しさが増す（東京都）。
	×	ゴルフ場（従業員）	・給料が上がらないなか、物価が急上昇している。新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着いているものの、消費は増えず、景気の回復どころか、悪くなるのが懸念される。また、政権が交代してしまうと、公約となっている最低賃金の大幅アップにより、特に中小企業は経営が困難になる。政治は中小企業の現場の実態をもっと把握すべきである。
企業 動向 関連  (南関東)		食料品製造業（経営者）	・どんどん表で酒を飲めるようになってきているので、それにつれて売上が伸びていく（東京都）。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・人が動くようになってきて、仕事量や問合せ件数も増えている。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・年末に向けた案件が増えてきている。このままイベント等に対する規制がない状態が続くことで、前年を大きく上回る状況が見えてきている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・当店は東京の外れにあるが、緊急事態宣言が解除されてから、来客数が増えてきており、注文件数も増えている。当店の前はネオン街で飲食関係の店が多く、一時はショッピングカードや店の名刺の注文が途絶えた。飲食店関係が営業を再開したり営業時間を延ばしたりするようになり、ショッピングカードの注文が増えてきている。これからますます名刺印刷等も伸びてくる見通しであり、ゴム印の注文なども来るようになってきているので、少し明るい方向へ向かうと予測している（東京都）。
		化学工業（総務担当）	・個人消費の回復に期待している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・今は新型コロナウイルスが落ち着いているので、感染第6波で広がらなければ、世の中の経済が少し動き出すのではないかと。3か月後は、期待を込めて少し良くなる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注状況を見ると、秋以降の受注残が積み上がってきている。半導体などの部品が思うように入らないので断っているほどである（東京都）。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先である自動車メーカーの今年11月から来年3月までの生産計画を見ると、ここ数か月で落ち込んだ分をばん回すべく、かなりの増産を予定している。景気は上向きである。
		通信業（広報担当）	・新型コロナウイルスの影響も次第に落ち着き始めており、今後は経済対策もあるので徐々に回復する見込みである（東京都）。
		金融業（従業員）	・製造業は新型コロナウイルス禍で特に落ち込みが大きかったが、「従業員を新たに採用した」という声の一部で聞かれるなど、持ち直しの傾向がみられる。また、緊急事態宣言の解除を受けて営業を再開した飲食店が多く、地域に人通りが増え、明るいムードの広がりを感じる（東京都）。
	金融業（従業員）	・新型コロナウイルスの感染者数減少に伴い、経済が活性化されれば、様々な業種が上向きとなる。今までの反動もあり、かなり景気の回復が見込める。	
	金融業（総務担当）	・このまま新型コロナウイルスのワクチン接種が増え、感染者数が減れば、景気はかなり回復するとみている。飲食業やサービス業、レジャー業もこれまでの反動で一気に回復する（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（役員）	・全てが新型コロナウイルス発生以前に戻るかは不透明だが、好転することは十分に考えられる。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進み、感染拡大も抑えられている状況のなか、企業、学校などではオンラインから徐々に以前のような対面の状態に戻り、人の移動が増えることでより良くなる方向にある。
		不動産業（従業員）	・新型コロナウイルス禍終息の安心感が広がれば、良くなる方向に向かう（東京都）。
		広告代理店（営業担当）	・このまま新型コロナウイルスの収束が進み、総選挙をきっかけにして、良い流れになりそうである（東京都）。
		税理士	・新型コロナウイルス感染第6波の到来次第ではあるが、ワクチンの3回目接種のめども立ち、マスクをしての日常に慣れている日本では、このままの終息もあり得るような期待がある。しかし、諸外国の例では、新たな流行は避け切れないので、外国からの流入を阻止できなければ、同じことの繰り返しになるだろう。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、自由が戻ってきた感じがするので期待できる（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・年末年始の新型コロナウイルス感染第6波が心配である。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・12月までは今月同様に受注量が多い予定なので、景気は良い状態で変わらない（東京都）。
		化学工業（従業員）	・原材料値上げの話もあるが、これからは品物自体も順調には入ってこないようなので、先行きが不安である。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・医療品容器の取引先である東南アジア工場の操業が回復すれば受注増につながるのだが、確かな手ごたえはない。ここに来ての円安や資源高の影響もあり、材料値上げの要求も目立つようになってきている。
		金属製品製造業（経営者）	・今こそ営業努力のチャンスである。元気を出して頑張りたい。
		金属製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルス禍ではあるが、中国以外の国々では景気が上向いているように感じる。そのせいか、当社のメイン取引先からの海外向けの受注量が増えている。
		精密機械器具製造業（経営者）	・材料不足感が強くなってきており、発注しても納期が確定できず、生産計画を通常に組めない状態が継続する。良くも悪くもなく、踊り場状態と考える。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・美容室は新型コロナウイルス禍でも堅調だったので、今後急激に変化するとは考えていない（東京都）。
		建設業（経営者）	・少しの間、新型コロナウイルスの経済に対する影響の後遺症が続く。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響で先行きが不透明な気がする。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まってきている。この状況が継続し、景気改善につながることを期待したいが、当社の取扱品は感染拡大前から取扱量が減少し続けているため、改善は望み薄である（東京都）。
		輸送業（経営者）	・新規案件の受注があるものの、既存案件も減少しており、プラスマイナスゼロである（東京都）。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が低迷している。輸出量が全くない。今後も現状は続く予想である。
		通信業（経営者）	・悪くなる部分と良くなる部分があるため、相殺されて変わらない（東京都）。
		不動産業（総務担当）	・飲食店舗では営業時間や酒類の提供時間が緩和されたが、思ったほど客足は伸びていないし、滞留時間も短いので、通常営業に戻す店舗はまだ少ない。年末に向けての忘年会需要も期待できず、来年3月までは厳しい状況が続くだろうと店主も嘆いている（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・来年度の動きが出てきているが、新型コロナウイルス第6波も懸念して動きが停滞している部分もある。
		広告代理店（従業員）	・11月以降の様子を見ないと何ともいえない（東京都）。
		税理士	・米中の景気には左右されるが、それよりも国内の新型コロナウイルスの影響がまだある。大企業は別として、中小企業はまだ全然立ち直っていない。特に、飲食店の入店率は以前と比べてまだまだ低い。チェーンの弁当店はとてども繁盛しており、宅配サービスの配達の人たちがいつも注文を受けた弁当を取りに来ている（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない(東京都)。
		経営コンサルタント	・部分的に活性化している業界もあるが、半導体や自動車関連の事業は大変冷えている(東京都)。
		その他サービス業[廃棄物処理](経営者)	・経済活動が活発になってきてはいるが、新型コロナウイルスの影響などで廃業してしまう取引先がちらほらみられる。また、燃料、原材料、資材の値上げがあり、厳しい状況が続く。
		その他サービス業[警備](経営者)	・これから年末にかけて、今のままの水準で推移する。
		その他サービス業[映像制作](経営者)	・このまま新型コロナウイルス感染者数の減少傾向が続くか分からないため、企業も新年の懇親会、研修会などは催さない予定であり、まだこれからも低迷が続く(東京都)。
		その他サービス業[情報サービス](従業員)	・新型コロナウイルス感染が収束し、景気が上向くと期待していたが、変化がみられない。今後も良くなる要素が見当たらない。
		一般機械器具製造業(経営者)	・悪化する前も取引先から「回復するだろう」という同じような話があったので、にわかには回復すると信じ難い。
		その他製造業[鞆](経営者)	・かばんの加工業はかなり落ち込んでおり、回復するには大分時間が掛かるのではないかと。売行きが良くならなければ回復しない。
		建設業(経営者)	・良くなるイメージがない。良くても、なぜ良いのかが分からない。
		建設業(経営者)	・原油価格の高騰により、ほぼ全ての材料が値上がりしている。客も価格に驚いて発注を控えるケースが増えている。
		不動産業(経営者)	・このところ新型コロナウイルスの感染者数が減少傾向にあり、明るい兆しが見えているが、早々の終息を願っている(東京都)。
		広告代理店(経営者)	・建設業に影響が出るのではないかと(東京都)。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス感染第6波、物価や賃金上昇などの利益圧迫に対する懸念などが大きく、景気が良くなるという予感はない。
		その他サービス業[ビルメンテナンス](経営者)	・既存契約の値上げができない状況だが、最低賃金は上昇しているため、利益を圧迫している(東京都)。
	x	建設業(営業担当)	・資材高騰の状況に改善のめどが立たないため、2~3か月後は更に悪化する。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社(社員)	・人材派遣、人材紹介共に求人数が増加しており、顕著に回復してきている。年間トレンド上も求人数は増加局面に入っていることから、景気は良くなっていくことが予想される(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・新型コロナウイルス発生以前の水準まで募集件数が戻りつつあるなか、働き手を確保できていない。給与水準は上がり続けている(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・緊急事態宣言明けの飲食店向け発送の増加、オンラインオーダーは引き続き堅調と、物流関連のオーダーが好調に推移すると想定している。
		人材派遣会社(支店長)	・新型コロナウイルス感染者数が減ってきていることもあり、業務量が増えた企業から臨時的な人材派遣等の依頼が増えてくるものとみている(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・政策が変わることにより、大手製造業は上昇気流に乗るのではないかと期待感がある。
		人材派遣会社(営業担当)	・観光業、サービス業が回復してくれば、必ず求人が発生する傾向になるので、良い方向にいく。
		求人情報誌製作会社(広報担当)	・このまま新型コロナウイルスの感染が更に収束していけば、新型コロナウイルス発生以前のような景気に戻るのではないかと(東京都)。
		新聞社[求人広告](担当者)	・まだほんの少しだが、年明けの予約などを幾つかもらっているため、それに期待を込めている。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスのワクチン接種の進展による感染者数の劇的な減少及び求人数の増加による。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの感染拡大状況により左右されるものの、飲食、宿泊関係企業の採用意欲は旺盛で、業界の再活性化が期待される(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		学校〔大学〕（就職担当）	・ 今後は旅行など観光する人も増えてくる。乾燥や寒さによる新型コロナウイルス感染拡大を抑えられれば更に良くなる（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 来年以降も引き続き人材不足の状況が続くことが予想される。
		人材派遣会社（社員）	・ 新型コロナウイルス禍がこのまま収束するとは思えず、再度状況が悪化して景気に影響を及ぼすとみている（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・ 求人数は増加しているものの、求職者の取り合いになってきており、労働人口減少の影響が出てきている。結果的に年齢を押し上げることになり、労働力不足感が顕著になっている（東京都）。
		求人情報誌制作会社（営業）	・ 新型コロナウイルスの感染者数は減少しているものの、それだけでは景気はなかなか良くなっていかない。この先また感染第6波が来る予想もされている。消費活動に対して、G O T oキャンペーン等、何らかの景気対策、措置がなければ、景気が上向いていくことはない。景気対策は急務である。もたもたしている間にまた感染の波が来て、何もできなかったということのないようにしてもらいたい。
		職業安定所（職員）	・ 新型コロナウイルス感染者数の減少が著しいが、急減した理由は専門家でも不明とする人が多い。緊急事態宣言が解除され、市中の人流も拡大する勢いだが、経済活動が復調するか否かはこの冬の感染者数の動向に左右される。
		職業安定所（職員）	・ 有効求人数は前月から微減している。前年比では8か月連続して改善傾向にあるものの、マイナスの状態に変わりはなく、大きな変化はみられない。
		民間職業紹介機関（経営者）	・ 新卒を採用する必要があるのだろうか。より効率的な人材活用が進み、定期的な新卒採用という枠組みが変容するかもしれない（東京都）。
		民間職業紹介機関（経営者）	・ 経済、消費の回復力が弱く、求人、求職の両面において力強い中長期的な経済対策が必要である（東京都）。
		人材派遣会社（経理担当）	・ 新型コロナウイルスの影響に落ち着き感が見えてきているなかで、労働市場に動きが出てくるとみている。その場合、正社員求人の増加がみられると、派遣労働者が正社員求人に応募するため、派遣労働者数は減少傾向になる（東京都）。
		求人情報誌制作会社（所長）	・ 少しは良くなってほしい。
	x	-	-

#### 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (甲信越)		高級レストラン（経営者）	・ 新型コロナウイルスの新規感染者数も一定の落ち着きを見せ、忘新年会等の機会も増えるのではないかと。
		スナック（経営者）	・ 他の国はまだ新型コロナウイルスの感染状況は厳しそうだが、日本は大丈夫だと思う。世界経済をけん引していけるくらいに、日本経済を回していってもらいたい。
		観光型旅館（経営者）	・ 新型コロナウイルス新規感染者の激減で、予約の動きが活発である。相変わらず団体旅行はないが、個人客がかなり回復してきている。特に、県独自の観光誘客施策のお陰で、動きが活発である。
		観光名所（職員）	・ インバウンドはしばらく戻らない。海外旅行を控える分、国内観光客に助けられるのではないかと。今後、新型コロナウイルスの感染再拡大が起きないことを願うばかりである。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・ 今の流れはもう止まらないと思う。子供が少なくなって、跡を継ぐ人がいないとか、新型コロナウイルスの影響で、小さな葬儀が当たり前になってきている。皆が知ってしまったということである。
		商店街（代表者） 商店街（代表者）	・ 新型コロナウイルスの終息を期待し、回復を願っている。 ・ 11月から来年度新入学の子供たちの制服等の採寸、注文受付に入るので、恐らく3か月後にはかなり良くなっていくと期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・衆議院議員選挙が終わり、Go To Travelキャンペーンや各種キャンペーンの後押しを期待したい。ただし、客の財布のひもは非常に固い。
		百貨店（店長）	・売上は前年を上回りつつあるが、前々年のレベルには戻っていない。今後は新型コロナウイルス次第ではあるものの、顧客の来店も増えてきており、業績は上向くのではないかと。ただし、そのスピードは緩やかである。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者が劇的に減少している。ワクチンの3回目接種を早く実施してもらいたい。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスが落ち着いてきて、緊急事態宣言も解除され、人は少しずつだんの生活に戻ってくるのではないかと。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスも落ち着いて、外出する機会も多少は増えて、地区のいろいろな行事も戻ってくると思うので、商材を買ってくれる機会も若干増えると思っている。
		コンビニ（経営者）	・今月はたばこの増税の影響で余り良くない。今後は、新型コロナウイルスも落ち着き、国や県も補助金等を出して、景気回復に力を入れているので、良くなる。
		コンビニ（経営者）	・年末年始に向けて、客の購買意欲が増加する。
		自動車備品販売店（従業員）	・新型コロナウイルスも徐々に落ち着いてきており、来客数が伸びてきてくれれば、景気は良くなる。
		その他専門店〔酒〕（店長）	・前年12月は東京も新型コロナウイルス感染拡大第3波中だったので、2か月後は前年より良いことは間違いない。ただ、ガソリン価格が非常に高騰しており、いろいろな物の価格が高くなっている。2か月くらいは良くなるかもしれないが、物価上昇に伴う消費の冷え込みで、3か月後はまた厳しい状況になるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・各種の宣言や自粛等の解除があったが、それほど著しい動きがあるわけではない。ただし、このまま新型コロナウイルス新規感染者数が抑えられれば、消費者の不安も減ってくるのではないかと。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大第6波の影響を抑えられるかがポイントになる。今から対策を講じる必要性を強く感じている。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大第6波の心配もあるが、現在段々落ち着いてきている状態で、毎日の営業では客が少しずつ戻ってきていると感じている。これから忘年会シーズンにも入るし、多少の宴会はあると考えられるので、少し期待したい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今後、忘新年会の需要が高まるが、各企業とも開催の方向で進んでいる。実際に100名以上の宴会等が12月に2件、1月以降で5件ほど、前週くらいから問合せや引き合いが来始めている。
		タクシー運転手	・10月も中旬までは大分悪い方へ向かっていたが、前週辺りからやや上向きになっている。11月以降、外出する機会が増えて、酒を飲みに行く人たちも増えてくるのではないかと。
		遊園地（職員）	・感染対策を徹底し、万全な受入体制を整えるとともに、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、多くの客の来園を期待する。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・プレミアム付商品券を再度販売する自治体が増えてきている。還元率が下がり、販売枚数も制限のあるなかではあるものの、売上増につながってくることを期待したい。
		コンビニ（経営者）	・売上が増えてきているが、10月からの最低賃金引上げで、人件費も掛かっている分、そこまで変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染拡大第6波の襲来を考えると、また巣籠りを始めるので、変わらない。
		コンビニ（店長）	・今月末に制限解除になったが、元々、当地では余り影響がなかったため、今後も特別な大きな変化はない。
		衣料品専門店（経営者）	・期待できない。
		家電量販店（店長）	・今後の景気対策が不透明のため、変わらない。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体不足がいつまで続くか不透明な状況で、3か月先は見通せない。厳しさが続くかと予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（副支店長）	・現状では回復傾向を感じられるが、新型コロナウイルスの感染拡大第6波を懸念し個人の自粛傾向や企業の規制は継続されている。現状からの景気回復は難しい。
		通信会社（経営者）	・年末にかけて物価上昇が続くとみられ、節約志向が強まれば、流れがまた悪い方向に向くかもしれない。
		通信会社（社員）	・経済活動がある程度回復すると、もう少し娯楽への支出も増えると思うが、現時点でその動きは少ないように思える。
		設計事務所（経営者）	・例年忙しい時期になるが、実施設計の予定は少ない。
		住宅販売会社（経営者）	・依然として、別荘販売に関する問合せや資料請求数が多い。
		百貨店（営業担当）	・ガソリン、灯油等が高騰しており、それ以外にも値上げになっている物が多くあるので、財布のひもがちょっと固くなるのではないかと。
		ゴルフ場（経営者）	・短期決戦で行われた衆議院議員選挙も終了し、プレーヤーの話題から選挙の話がなくなったとはいえ、11月中は秋のゴルフシーズンだが、冬季となる12月は大変厳しい状況が続くものと考えられる。クラブ側としてはインフルエンザ対応も検討していきたい。
		その他サービス〔クリーニング〕（経営者）	・原油価格が高騰していて、売上は前年とさほど変わらず、費用が増えて、人件費も上がっている。これでは、経営が成り立たない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスが終息しない限り、駄目である。
	×	スナック（経営者）	・悪くなると回答したが、今日明日のことが分からないので、2～3か月先のことは全然分からない。良くなるような気配はない。
	×	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	・今のところ、新型コロナウイルスの感染は減少傾向にあるが、再び感染拡大が起こるかもしれないと思うと、すぐに回復するとは考えにくい。しかし、緊急事態宣言が解除され、規制の緩和などが進み、これから活気が戻ってくれることに期待する。
企業 動向 関連 (甲信越)		-	-
		食料品製造業（営業統括）	・年末年始のワイン需要には大変期待しているが、新型コロナウイルスの感染拡大第6波がどうなるかが、大変心配される場所である。
		食料品製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者減少に伴い、徐々に制限が解除していけば、景気回復の兆しが見えてくる。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・来月くらいから、少しずつだが各種イベントを開催する方向になっているので、期待したい。
		金属製品製造業（総務担当）	・半導体不足のため、やや良くなる。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・来月から催事が目白押しで、売上の回復を期待している。ただし、Go Toキャンペーンがあった前年の今頃と比べると、今年は、まだ様々な制限の解除が始まったばかりなので、前年並みの回復までは見込めない。
		金融業（経営企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況の終息による経済活動の回復や政府の経済対策により、景気は上向きに推移する。
		新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・前年同様、年末年始に向けて緊急事態宣言が発出される可能性もあるものの、発出がなければ今までの自粛ムードの反動も含め、景気は好転していくと予想している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、先の見通しは全く予想が付かない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・取引先からの受注情報に変動があり、先行きの売上が不透明である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・電子部品の入手次第のところがある。流通が良くなると景気も良くなりそうにはない。
		建設業（経営者）	・木材及び資材価格の高騰や納期の問題等が続けば、受注動向にも影響が出るおそれがある。最終的には利益にも影響が出る。
		金融業（調査担当）	・これまで改善してきた製造業で、下押し懸念がある一方、新型コロナウイルス新規感染者数が減少し、観光関連需要の伸びが期待できる。K字型の回復が、ややいびつな「ひし形」に変化していくことが予想される。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・各企業の設備投資情報は聞くものの、新年度以降を予定しており、当面の受注は減少気味である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	食料品製造業（製造担当）	・原材料やガソリン価格が落ち着いてくるような情勢ではないため、悪くなる。
	x	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・売上は減っており、資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)		-	-
		職業安定所（職員）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者が大きく減少し、規制や制限が解除されれば、いろいろな業種で動きが出てくる。
		職業安定所（職員）	・政権が安定しそうなため、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者の減少により、経済がやや活性化されるとみている。
		人材派遣会社（営業担当）	・収入はおろか就職先がないために、消費するまでに至らないケースが増えているため、今までと変わらない。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が減少したままで少しでも長く続けば、これから冬に向かって、飲食、観光、宿泊業の景気が上向きになる。イベントも、感染拡大防止を徹底し、人数制限をしながら徐々に開催されていく見通しである。
		-	-
	x	-	-

## 6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの影響が段々となくなり、従来どおりの経済活動ができるようになる。皆そういう顔で頑張っている。
		百貨店（企画担当）	・新規感染者数が現状より増えなければ、前年の落ち込みの反動で12～1月は来客数や売上は伸びると思われる。実際、新規感染者数の減少に反比例して、来客数、売上は増える傾向がみられる。
		百貨店（経理担当）	・ワクチンのブースター接種や治療薬によって、新型コロナウイルスの感染リスクは大きく低減するため、今後は、特に観光・外食関連消費が大きくけん引して、景気は上向くと考えられる。
		コンビニ（商品企画担当）	・足元の状態で新型コロナウイルスの影響がある程度収束すれば、これまで自粛傾向にあった行楽・観光需要の回復が見通せる。
		乗用車販売店（経営者）	・3か月先は生産のめども立っていると思われる。現時点からの反動を期待したい。
		その他専門店〔雑貨〕（店長）	・年末年始で人が集まる機会が増え、衣食住は満遍なく消費が伸長すると予想する。
		一般レストラン（経営者）	・このまま新型コロナウイルス感染症が収まっていけば、良くなってくると思う。
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルス次第である。早く脱出したい。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が改善してきており、このまま収束すれば景気も良くなると思う。
		商店街（代表者）	・コロナ禍が終息に向かう雰囲気が出てきたので、それについて、客の新しい生活家電への関心が高まってきているように感じる。
		商店街（代表者）	・緊急事態宣言の解除に加えて年末に向けての需要が強くなってくる。また、ワクチン接種においては、6歳からの若年層接種の兆しや国産ワクチン接種の可能性により、抵抗感を持つ人への接種も加速すると思われる。
		一般小売店〔高級精肉〕（常勤監査役）	・新型コロナウイルス感染に収束の見通しがついた。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・最悪からの少しずつの回復程度である。後は第6波の来ないことを祈るのみである。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・3月末までは予算消化の発注がある。
		一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・年末に向け、人も物も動き始めているように感じる。
		百貨店（売場主任）	・緊急事態宣言が解除されたため、これから出張、旅行やイベント用に靴を購入する客が増えてきて、少し売上につながると思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（総務担当）	・第6波の動向も心配ではあるが、外出が難しい状況が続いてきたことから、まずは国内旅行などに需要が先に回り、消費に対しては大きく伸びる要素は余り見当たらないが、リベンジ的なクリスマス、年末、クリアランス商戦に期待したい。
		百貨店（経理担当）	・緊急事態宣言も解除され、徐々に回復に向かうと思われる。
		百貨店（営業担当）	・緊急事態宣言解除後も、不要不急の外出を控えたり、目的の物を購入したらすぐ帰宅するなど、長時間滞留しないよう注意した生活が続くと予想される。
		百貨店（業績管理担当）	・新型コロナウイルス感染が一旦収束している状況であり、旅行や外出需要の高まりにより、付随する洋服・洋品などが売れ出すと考えられる。
		スーパー（販売担当）	・いろいろとイベントの時期がやってくるので、来客数はもっと増えると思う。
		スーパー（総務）	・新規感染者数の減少により外出頻度が上がったように思われる。また、長期気象予報で今年の冬は寒いと予想されているため、冬物商材の購入頻度が上がると思われる。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言が明けて徐々に活気が出てきたように思われる。11月以降のイベント開催が復活すると景気観も上向き、売上増加につながることを期待している。
		コンビニ（企画担当）	・新規感染者数はかなり減少している。心理面も緩和され、今後Go To Eatキャンペーンも再開されることがプラス要素となる。
		コンビニ（エリア担当）	・人の流れさえ増えれば、景気自体は悪くないので売上は上がる。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言でたまっていたストレス等が発散され、飲食店を中心に金を使うことが見込まれる。
		コンビニ（店員）	・年末に向けてクリスマス商戦がやってくるので、来客数と客単価の改善が期待できる。
		衣料品専門店（店長）	・地元経済が回ることにより客の仕事が増え、それに伴い備品等の購入が増える。また、新型コロナウイルス感染症の収束により外に出掛ける行動が増えるため、衣料の購入が拡大する。
		衣料品専門店（売場担当）	・緊急事態宣言の解除に加え、行動自粛の緩和は間違いなく消費者の消費意欲をかき立てる。今後、政府による景気回復策も検討されることが予想されるなか、年末商戦とあいまって景気回復につながると思われる。
		衣料品専門店（売場担当）	・家族連れ客で特に祖父母を連れて来店し、成人式、卒業式や入学式の品物を少しでも早くそろえようという客が多くなっている。下見で他店を回ってくる客もいるが、徐々に決めてくれる客も増えてきた。
		乗用車販売店（営業担当）	・第6波の心配はあるが、年末年始に向けて消費が上がってくると思う。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体及び一部の部品不足が徐々に解消していくと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・客の雰囲気や問合せ内容などから、全体的に動きは良くなっていくであろうと思う。いろいろな経済的なダメージもあると聞くので完全には楽観できないが、良くなると思う。
		乗用車販売店（従業員）	・今の段階では明らかに良くなる方向であり、新型コロナウイルスの感染状況によっては非常に良くなると思う。いろいろ我慢してきた分、皆金を使いたい、遊びたいという思いを非常に強く持っているのが、新型コロナウイルス次第ではあるが、良くなると思う。
		住関連専門店（営業担当）	・緊急事態宣言が解除され、客の様子が前向きになってきている。特に、商業施設、飲食を中心に小規模改修や、先々の新設工事などについても具体的な商談が始まっている。住宅に関しても同様にリフォームを中心に動き始めている。
		その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・現状継続で第6波がなければ、年末商戦も順調に活性化するとと思われる。
		一般レストラン（経営者）	・第6波の心配はあるが、足元の新規感染者数を考えた場合、少しずつではあるが景気はやや上向くと思う。
		バー（経営者）	・Go Toキャンペーン関連など国や県が推奨して人は動き出している。ただ、一気に動き出すと年末年始がどうなるかが懸念される。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他飲食〔仕出し〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの治療薬等が承認されたら、恐らく安心感が大きくなり心理的な感覚としては上向く。
		観光型ホテル(経営者)	・県の観光需要喚起策が12月一杯あり、恐らく衆議院選挙後の11月頃にGo To Travelキャンペーンも開始されると思われるため、これからはやや良くなる傾向が見込まれる。新規感染者数も順調に減少しており、新規感染者数に大幅な振れがない限り、この傾向が更に持続する。
		都市型ホテル(営業担当)	・このまま新規感染者数が増加しなければ、良くなってくると思う。
		旅行代理店(営業担当)	・地方市場には報道されているような需要回復は感じられない。都市部から徐々に2～3か月のタイムラグはあると考えている。
		タクシー運転手	・衆議院選挙後、Go To Travelキャンペーンの復活も見込まれ、明るい見通しがついている。前年は全く忘年会がなく、報道では、今年もやらないという回答が70%くらいというアンケート結果もあるようなので、まだ厳しい状況は続くと思うが、前年よりは12月の客が増えると思う。
		通信会社(企画担当)	・新規感染者数の減少と年末に向けての需要期が重なり、ここ数か月は多少上向くと思われる。ただし、新型コロナウイルス新規感染者数の動きによっては、大きく変わる可能性もある。
		テーマパーク職員(総務担当)	・最近の新型コロナウイルスの感染者数をみると、期待ができる。
		観光名所(案内係)	・人出が多くなったということは、景気回復が期待できる。
		その他レジャー施設 〔鉄道会社〕(職員)	・活発とはいかないまでも、経済活動は回復に向かっていると感じる。
		美顔美容室(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況がもっと落ち着いてきたら、今までどおりになると思う。
		その他住宅〔室内装飾業〕 (従業員)	・年末にかけて住宅リフォームや工場のトイレ改装工事を受注している。
		商店街(代表者)	・緊急事態宣言は解除されたが、客の様子から、自粛生活に慣れてしまいなかなか個人消費の回復までは見込めないと判断している。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの影響が一旦は収束気味ではあるが、いつまた振り返るか分からない不安のなか、行動を引き続き控えている人も多い。景気も上向きになりつつも、余り変わらない状況が続くと思う。
		商店街(代表者)	・取引先や友人のホテル関係者に聞くと、回復が足踏みをしているとのことなので、この先第6波が来るとおられている状況が続く限りは、なかなか難しいと思う。少しあおり過ぎではないか。
		商店街(代表者)	・足元の不安定な状態では見通しが立たない。持続化給付金・一時支援金はすぐに下りたのに、月次支援金の4～5月分の申請が下りない。何回も修正したが、その都度違う指摘を受けて下りないおかしな制度で、あきれている。
		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・コロナ禍次第なので、分からない。
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・10月17日で厳重警戒措置が解除されたが、客が新型コロナウイルス発生前のように戻らず、利用客も以前より早く帰るなど滞在時間が極めて短くなっている。外での飲食の流れは、新型コロナウイルスを経て大きく変わるとしていると感じる。
		一般小売店〔生花〕 (経営者)	・徐々に景気が回復して経済が動き出すことを、期待せずにはられない。
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・少し伸びてきているこの状態が続く。爆発的な売上増加や景気の上昇はなく、少し調子が良かった今月の状態が3か月先も続いており、客も様子を見ながら少し気持ちが良くなっている状況を見込んでいる。
		一般小売店〔果物〕 (店員)	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔和菓子〕 (企画担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大がどの程度になるのか、今後どうなるのか、先が見通せない。
		百貨店(計画担当)	・コロナ禍については今後どのようになるか分からないため、しばらくは一進一退の状況と思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（販売担当）	・新型コロナウイルスの感染がこのまま落ち着いて、良くなることを期待したいが、今後がどうなるかは予測が立たない。
		百貨店（販売担当）	・緊急事態宣言の解除後、思ったより来客数が上がっていない。
		スーパー（経営者）	・第6波が来なければ、現状を維持できると考える。
		スーパー（営業企画）	・外食に対してのリベンジ需要は一時的で、内食に対する需要はコロナ禍を通してほぼ定着してきているように感じる。今後も第6波の感染拡大が少なからず予測されるなか、小康状態が続くように思う。
		スーパー（販売担当）	・競合店の影響は落ち着く。
		コンビニ（エリア担当）	・冬季に入り、新型コロナウイルスの感染者が一時的に増えるかもしれないが、ワクチン接種も進んでいることで、一時期よりは減退感は少なくなると見込んでいる。これを受けて当月と変わらない来客数で推移すると考える。
		コンビニ（店長）	・第6波がいつ来るか分からない状況で、ワクチン接種の進展に伴い新規感染者数が減少中ではあるが、客の動き自体はそれほど変わらないと思う。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス発生前に戻るには、ワクチンではなく治療薬の完成が必要で、もう少し時間が掛かりそうである。
		コンビニ（商品開発担当）	・新型コロナウイルスの影響、半導体不足やガソリン価格の高騰と環境悪化要素が多く、明るい兆しはみえない。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収まり仕事や遊びで外出する機会が多くなれば、一見客の動きも今よりは良くなると思う。
		衣料品専門店（販売企画担当）	・まだまだ新型コロナウイルスの影響は大きく、生活防衛している人が多い。
		家電量販店（営業担当）	・原油価格の高騰による関連製品の値上がりや物価の上昇で、買い控え及び節約傾向になると思う。
		乗用車販売店（経営者）	・ガソリン価格の高騰が自動車業界に影響を及ぼすように感じる。
		乗用車販売店（経営者）	・このところの新規感染者数の少なさと人流の多さは好材料だが、すぐに売上には直結しなさそうである。この状況が続くことに期待を持つ。
		乗用車販売店（従業員）	・新車の納期遅れはしばらく続くと考えられ、年末に向けてのアピールを強く打ち出せない。また、客との会話のなかでは、収入の減少を心配する声を聞く機会が多くなっている。収入格差をこれまで以上に感じるが増えている。
		乗用車販売店（営業担当）	・来年3月までの商品入荷予定が輸入業者も分からない状況なので、来年の予定販売数を計画できないとのことである。半導体不足のみならず、生産制限もあるなかで回復は難しい。
		その他専門店〔書籍〕（店員）	・新型コロナウイルス次第ではあるが、足元の感染状況が続けば、年末も、今まで我慢していた分、旅行、外食や買物などに流れてしまうと思うため、しばらく良くなる見込みはない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（経理担当）	・売上高は前々年比マイナス23.7%、前年比ではマイナス7.9%である。来客数は前々年比マイナス23.6%で、前年比マイナス13.8%である。
		一般レストラン（経営者）	・マスクが年末にかけて第6波が来るように報道されているので心配である。景気は、やや悪くなる程度が現状維持に落ち着くとよいが、先が見通せない状況である。
		一般レストラン（経営者）	・客が安心して飲食できる状況がくれば回復するとは思いますが、このままであれば現状のまま変わることはない。
		一般レストラン（従業員）	・会社関係の宴会がなく、まだまだ控えていると思う。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・全国で緊急事態宣言が解除され、経済活動を活性化させる動きが確実にある。これまで在庫を全く持たなかった取引先も、年末年始に備えて在庫高を増やすという声がある。一方で、業績の落ち込みが著しい客もあり、全体としてはこれまでと変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（支配人）	・宿泊客数はまだまだ少ないものの、緊急事態宣言解除後に各自治体が発行する住民割引プラン等によって、個人予約が増えつつある。団体客については、ずっとストップしていた修学旅行が催行決定になり、受け入れ始めた。一方、年末年始の忘年会は受注に至っておらず、大きく足を引っ張っている。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から景気は変わらないと判断した。
		旅行代理店（営業担当）	・Go To Travelキャンペーン第2弾の発表がいつになるか、第6波が来るかどうか次第である。先が見えない状況下で従業員数を減らした状態での営業が続き、社員はストレスと疲労で疲弊している。もっと現場を見た上で観光業への支援を打ち出してもらえないと、業界自体が後退していく。
		タクシー運転手	・最低が続いており、上がる要素がない。
		通信会社（営業担当）	・前年同時期の傾向と客対応を通じての様子や感覚から、良くなるとは思えない。
		テーマパーク（職員）	・以前、冬季はインパウンドが半数を占めていたので、一般来場者は増加傾向にあるが、埋め合わせるにはまだ足りない。
		レジャーランド（職員）	・11月も引き続き学校団体客の利用は多いが、個人客はGo Toキャンペーンの再開を待っているように感じる。第6波は来ると想定しているが、到来するタイミングによって来場者数が大きく左右されると考えている。
		ゴルフ場（支配人）	・今後2～3か月先の予約数は、前年同日比より増加しており、このまま順調に推移すると思う。ゴルフ場の入場者は、コロナ禍でも余り影響がなく推移しているので、よほど天候が悪化しない限り、今のところ景気は変わらない。
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・変わらないというより、分からないというのが本音である。この状況が続けば、景気が良くなるのは間違いないが、新型コロナウイルスの第6波や今年は流行するといわれているインフルエンザが2～3か月後にはどのような状況か、現時点では不明である。
		美容室（経営者）	・客の話では酒の席などまだ不安があるということなので、新型コロナウイルスの新薬が出たり、インフルエンザ程度のレベルにならない限り、以前のようにはいかないと思う。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・季節要因を除いては、特別に景気の良い話題はない。
		設計事務所（経営者）	・案件数の増加を期待するには程遠い状態である。計画案件の少ない状態が続いている。
		住宅販売会社（従業員）	・当分は大きな変化はみられない。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・今月が低迷したのでばん回を期待したいが、この調子が続くと難しいかもしれない。11月の予定が延びているので、引き続き回復していけば期待大である。
		一般小売店〔書店〕（経営者）	・ガソリン代の上昇、食料品値上げの影響がこれから出ると思うため、景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・第6波はいずれ到来すると思うが、ワクチン接種もかなり進み3回目の接種も検討していることで、第5波のような感染拡大はないと思われ、通常の生活に戻っていく。
		スーパー（店員）	・ガソリンの高騰が地味に食品関連の値上げとして価格転嫁されている。緊急事態宣言が解除され、飲食店への卸も徐々に元に戻りつつあるが、不安の方が大きい。
		スーパー（ブロック長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着くのと同時に、客は今まで抑えていた外食や行楽への消費に向かうと思われる。
		スーパー（商品開発担当）	・緊急事態宣言が解除されてから、売上、来客数共に苦戦をしている。今後2～3か月の間は前年の売上数字も割る可能性が高く、苦戦が予想される。
		コンビニ（本部管理担当）	・年末に向けて新型コロナウイルスの再流行、インフルエンザの発生等、世間はリスクを抱えていることを承知している。現実化する可能性が非常に高く、緊急事態宣言の発出も見据えた場合、景気の先行きが良くなるとは思えない。
		家電量販店（店員）	・プリンター、電話、Faxや省エネ型給湯器など商品の入荷が途絶えた。今後販売する物が少なくなっていくのではないかと懸念している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・リベンジ消費で旅行・外食は復活するかもしれないが、家電は元々コロナ禍でも販売の落ち込みが少なかった分、新型コロナウイルスの感染が沈静化しても商売に余り影響はない。新型コロナウイルスの影響で外出機会が減った高齢者が店に戻ってくるまでには、まだ時間が掛かりそうである。
		乗用車販売店（従業員）	・本来なら秋には生産問題は落ち着くと聞いていたが、今頃になって見込みが立たないと言われている。前年比80%の販売台数がしばらく続きそうで、前年より悪くなる見込みである。
		乗用車販売店（従業員）	・新規客は来店せず、納期は遅く生産が止まっている車も多く、新車の販売は危機的な状況である。
		乗用車販売店（販売担当）	・やはり半導体不足の影響がかなり響いている。生産も遅れ、車の在庫量もかなり減っている。他のディーラー店からも車がもらえなくなり、販売しづらい状態が続く。
		都市型ホテル（総支配人）	・新型コロナウイルスの感染再拡大で悪化する。
		旅行代理店（経営者）	・まだまだ先の見通しが立たない。既に年末年始の国内旅行予約が思うようには入らない。県民向けの宿泊割引が最低1泊からでは、ホテルサイトなどで直接予約をするので旅行会社には予約が入らない。正月の海外旅行は、2年連続で全く販売不可である。海外旅行者の帰国後の隔離措置が10日間では、全く海外旅行が売れない上、緊急事態宣言の解除で月次支援がなくなると厳しい。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの休業補償が打ち切られてからは廃業が増えるので、飲食店店舗の空き物件を探すならば11月以降にした方が良く、不動産屋はアドバイスをしている。
		通信会社（サービス担当）	・1人1台のスマートフォンの普及により、家庭の固定電話の解約が増加している。光回線はほとんどの家庭でほぼ導入されているので、厳しくなると思う。
		通信会社（営業担当）	・いろいろな工事の増加により、工事完了時期が遅れがちである。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスの感染が収束するまでは難しい。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍の影響で、客の入り以前までには戻っていない。大企業の従業員の客が、まだ手控えている。
		理美容室（経営者）	・いろいろな物の値段が上がって、必要のない物は買わなくなると思う。
		設計事務所（職員）	・新型コロナウイルスの影響もあるが、物価もインフレ気味ということで、景気が良くなる状況ではない。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの影響がこれから年末にかけて出てくると心配している。
		住宅販売会社（従業員）	・ガソリンが高騰するなか、元々冬枯れといわれる時期に突入する。海外から部品が入らないなど需要と供給のバランスが更に悪くなると思う。今後の心配が徐々に出てくると考える。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されても、いきなり経済が回るわけでもなく、徐々に徐々に回復でまだまだ厳しい状況が続くと思われる。
	×	旅行代理店（経営者）	・限定的な補助金制度で旅行需要が増えているだけであり、継続性がないと判断している。
	×	理美容室（経営者）	・まだまだ安心はできない。
	×	住宅販売会社（従業員）	・低金利と長期借入期間で月の返済が少額になるようにして新築を勧めている会社もあるようで、景気回復により借入金利が上昇した場合に返済が滞るようになったら、業界として氷河期に陥ると思われる。
企業動向関連 (東海)		-	-
		化学工業（総務秘書）	・外食や旅行などの再開で多くの人動き出す。これまでの我慢の反動もある。
		電気機械器具製造業（経営者）	・年末にかけて客先業界の設備投資が少し見込めることと、新型コロナウイルスの感染も収まってくるという期待で、売上がある程度確保できる。
		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・緊急事態宣言も解除され、人流も増え、外食や旅行へ出掛けようと思う人が増える。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（従業員）	・今は新型コロナウイルスの第6波を恐れ、どの職種も慎重であるが、このままの状態が続けばと願うばかりである。ただし、原油価格の高騰、原材料や食品の価格高騰が家計を苦しめるため、急速な回復までには至らないと思う。
		通信業（総務担当）	・活発な経済活動へのシフトを期待している。感染防止対策をしながら多くの人移動することで、購買が活発になると予想している。
		金融業（従業員）	・どうしても要因としては新型コロナウイルスの感染状況が関係してくるが、現状の経済活動が続けば、景気は良くなると思う。
		金融業（従業員）	・今まで規制されていた飲食店が皆活気付いてきているので、景気自体も上向きであるというイメージを持つ人が周囲に多い。
		不動産業（経営者）	・今後も新規感染者数が減少していくと思われ、外出や遠出する人が徐々に増加すると予想している。売上は徐々に回復していき、前年を上回ると思われる。
		不動産業（経営者）	・引き続き業況は活発だと考える。
		不動産業（開発担当）	・新型コロナウイルス終息後の経済回復に期待をしたい。
		広告代理店（制作担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少から、地元企業も、様子を見ながらではあるが広告の販促活動を増やしていく。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・徐々に人の往来が増えており、経済が正常化していると感じる。
		行政書士	・新規感染者数が減ってきたため、景気はやや良くなると思う。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・今まで自粛していた県外からの客が増えつつある。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・緊急事態宣言も解除され、ワクチン接種も進んでおり、新規感染者数も目に見えて減少している。衆議院選挙の結果によっては、経済が大きく動くと思われるが、景気は現状のまま余り変わらないと思う。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いも低調で、引き続き景気は余り良くない状況が変わらないと考える。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量が変わらない見込みである。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・円安傾向で輸出には有利な状況だが、原材料の価格高騰、物流コストの上昇が激しく、円安メリットは飛んでしまっている。部品調達ができず、物流が正常ではない状況は、しばらく続きそうである。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・部品供給などの問題がしばらく続くと思われる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・衆議院選挙後の新たな内閣の景気対策に期待したい。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・少し先までの生産計画によると、今月としばらくは同じくらいのようなようである。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・半導体不足や東南アジアからの部品供給の滞りは、まだ2～3か月は続くと考えている。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルス感染が落ち着いてきているが、本格的な消費回復にはまだ時間が掛かると思われる。急激な消費増加は物流の混乱を招き、利益への悪影響が懸念される。
		輸送業（エリア担当）	・物量が減っているわけではないが、今までのような伸びにはなっていない。
		輸送業（エリア担当）	・年末に向けて毎年11～12月は全国的に荷物がふくそうする時期である。ただ、今の時期で前年のコロナ禍の荷物量からは毎日2～3ポイント下回っている。世間では、新規感染者数の減少で景気の上向きが期待されるが、年末に向けて好条件がそろっているなかで上向いてきていない。2～3か月後の景気をこのトレンドでみると、決して楽観視はできない。
		輸送業（エリア担当）	・世界的に貨物輸送需要は上がっているが、自動車関連は生産が減っている。
		通信業（法人営業担当）	・衆議院選挙後の新内閣の景気対策にもよるが、まだまだ景気は厳しい状況が続くと思う。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（企画担当）	・当面様子見の企業も多く、引き続き飲食、観光関連企業は厳しい。足元の状況が日常として定着してこないと業績の回復は難しいとみる企業が多く、当面は、現状の景気が続くと思われる。
		公認会計士	・コロナ禍の中堅中小企業への影響は、貸借対照表へのものであり、損益計算書が多少改善されても、業績回復には時間が掛かる。本質的な課題である中小企業の生産性向上や後継者不足の解決には、時間が掛かる。
		会計事務所（職員）	・冬に向かってインフルエンザを警戒する気持ちがある。余り急激に出歩いたりすると、新型コロナウイルスの再流行もあるかもしれないとの警戒感もあり、それほど変化はないのではないかと。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・まだまだ株価が高い水準で動いているが、非常に怪しいと思う。一気に下降する局面が現れると考える。気が付いたときには遅いので、早めに対処したい。新製品もあと一步なので、早く完成させて客に見てもらおうと考えている。
		食料品製造業（営業担当）	・閉店等の取引先も多く、全体的な受注量からみると減少し続けている。改善の兆しが見当たらない。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・在庫確保分の注文が一段落すれば、少し注文が減ると思われる。さらに、中国からの原材料入荷への不安が既に国内原料を含めて供給不足や価格上昇につながりつつあり、原料確保に苦労し、注文があっても生産できない可能性が出てきた。
		鉄鋼業（経営者）	・自動車の減産が一番大きい要因である。また、製鋼メーカーの大手自動車メーカーへの値上げ幅と我々への値上げ幅の差は3倍以上である。明らかに不当ダンピングと思われる、関係機関で確認してほしい。中小企業潰しである。
		金属製品製造業（従業員）	・原材料、特に鋼板やステンレス板の品不足が懸念され、生産工程に影響が出かねない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・10月から実施された単価引上げ等による反動があるため、若干落ち込むと思う。半導体不足からの回復、新型コロナウイルスの感染状況次第で、まだまだ状況的には難しい。ほぼ横ばいが続くと思う。
		建設業（役員）	・新型コロナウイルス、大手自動車メーカー減産の影響もあり先は読めない。
		建設業（経営者）	・新内閣が誕生したが、従来の流れから変わっておらず、景気が良くなるとは思えない。
		建設業（営業担当）	・業種によるが外に出て仕事をする分野では、これまで止まっていた分と新規案件で仕事が出てくると思うが、公共分野では、予算が福祉の方に取られるため全体的にカットが生じる。長い目でみると景気は少し下がり、新規案件が出てくる業種とそうでない業種があって、当社の場合は下がっていく方向であると考えている。
		輸送業（従業員）	・受注量は増えてきているが、今は原油価格の高騰が心配である。今時点で、前年より燃料代がかなり増えてきている。他の業種は景気が少しずつ戻ってくると思われるが、運送業界にとっては、売上増加より経費増加になりそうである。
		通信業（法人営業担当）	・飲食店の経営者と話をした際、今はまだ公的資金が投入されているが、飲食店への新型コロナウイルスの支援金もなくなり、今後はこれまで以上に厳しい状況が予想されると言っていた。コロナ禍で新しい生活様式に慣れ、外食より内食が気楽だと知った人も多く、すぐに客足は戻らないと見込まれる。
		会計事務所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているが、今後再拡大するのか不透明である。また、輸入原材料の値上がりにより企業の利益は圧迫され、給与水準は上がらないため、まだまだ景気は良くならない。
	×	出版・印刷・同関連業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響でまだまだ景気は悪くなると思う。また、雇用求人状況も思わしくない。
雇用 関連 (東海)		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、今は求職者の動きが鈍くなっているが、転職チャンスである4月に向けて、求人数、求職者数共に増えてくると考えており、転職市場は活発化する。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣業（営業担当）	・新規感染者数が急速に減少し、外国人に対するビザ発給が再開されれば、回復する可能性があると思定している。
		人材派遣会社（企画統括）	・緊急事態宣言の解除後も新規感染者数が減少傾向にあり、各種の規制緩和が経済活動を後押しすると考える。
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣求人数、成約数の増加傾向が続いている。
		人材派遣会社（営業担当）	・2～3か月後に業務開始となる引き合いが出ていることも踏まえると、2～3か月後のエンジニア稼働率は、今月よりも2～3%回復する可能性がある。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・部品供給、半導体不足による自動車生産の減産分について、今後、稼働日数を増やして年間目標を確保する動きがあり、メーカーを始め人材確保の動きが激しくなっている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・このまま新型コロナウイルスの抑え込みが続けば、上向いてくると期待する。小売業などから年末に向けてPRをしていこうという話も少しずつ始めている。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・緊急事態宣言の解除後は、これまで抑圧された分消費行動が活発になると思われる。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言が解除され、また、有効求人数が増加し求職者数が減少し始めている。
		職業安定所（職員）	・企業の求人意欲に高まりがみられ、新型コロナウイルス感染症も落ち着きをみせていることから、回復傾向になると思う。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言が解除され、経済活動が活発化すると考える。
		職業安定所（職員）	・緊急事態宣言が解除され、人の動きも少しずつ戻ってきているように思われる。今後、飲食店、観光シーズンを迎える宿泊業や観光業等の利用者が増えていくことになれば、景気は徐々にではあるが回復していくように思われる。
		職業安定所（次長）	・産業別新規求人数を前年同月と比較すると、基幹産業である製造業を始めほとんどの産業で増加している。緊急事態宣言の解除、新型コロナウイルス感染状況の落ち着きから、先を見越して求人を出す動きも見え始めている。求人には持ち直しの動きはあるものの、引き続き新型コロナウイルスの感染状況を注視していく必要がある。
		民間職業紹介機関（窓口担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、徐々に求人数が増加してきている。通常なら人の動きの増える年度末を前にして求人数増加の見込みもあり、景気が良くなる見通しが出てきた。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・オンライン環境下での採用に対する慣れや、リモート環境だからこその面接設定の歩留まりも改善されてきているため、採用総数は今後も増えると推察している。
		人材派遣会社（社員）	・まだ変化の兆しがみられない。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数の増加から若干の回復を感じるが、すぐに景気が良くなるとは思わない。
		職業安定所（所長）	・徐々に新規求人数は増加し、新規求職者数は減少傾向にあるが、第6波が予想され、先行きの不透明感は拭えない。
		-	-
	x	-	-

## 7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (北陸)		商店街（代表者）	・鉄道の片道半額切符や県民向けの県内旅行応援事業の影響で、ホテルの飲食店を中心に予約が殺到している。多少なりとも人通りが増えることにより、小売店も売上が伸びると見込んでいる。第6波があるかどうか定かではないので、思い切った投資ができないという不安要素がある。
		コンビニ（営業）	・人出、来客数共に増えてきており、本格的にウィズコロナの段階に入ったと感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（統括）	・北陸は前年同時期と同様に、11～12月は冬の幸で観光客や出張者が急激に増えるとみており、既に駅周辺のホテル予約、旅行の予約がどんどん増えている状況である。これらの動きにより、前年同様に年末は景気が右肩上がりになると考える。
		観光型旅館（スタッフ）	・9月30日に緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置等が解除されたことで、予約が大幅に増加している。解除から20日がたち、特に11月は49%増加となっている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスによる不確実性はあるものの、穏やかに回復基調となることを期待している。
		一般小売店〔事務用品〕（店長）	・新型コロナウイルスへの感染対策が一般常識になり、ワクチン接種が増えて、外出しやすくなるという点で、購買意欲も湧くとみている。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	・一部の特急列車が11月から運賃半額キャンペーンをやるそうである。Go To Travelキャンペーンと共に客足の増加が見込める。新型コロナウイルスの第6波やインフルエンザは本当に勘弁してほしい。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・新型コロナウイルスの感染も一段落し、客の動きは今までよりも大きく伸びるだろうと考える。
		百貨店（売場主任）	・約1年半続いた外出を控える傾向からの反動と、政府主導によるGo Toキャンペーン関連施策の再開に期待する。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染が抑制された状況が続く、クリスマスや年末年始といった動きのなかで上向くとみている。ホームパーティーや近場の旅行に関連した商品、総菜などのテイクアウト商品、旅行関連ウェアやクリスマス、プライダル等のギフト需要が上向きになる商材と見込んでいる。
		スーパー（総務担当）	・時短要請などが緩和されたことにより、飲食店を利用する機会が増えることは間違いないと考えるが、職を失った人が飲食店を利用できるかは疑問である。
		コンビニ（店舗管理）	・ワクチン接種が行き渡り、自粛ムードも緩和された雰囲気を感じる。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が今のように収まってくれば、心理的にも改善していくものと期待している。
		衣料品専門店（経営者）	・外出や外食に対して抵抗がなくなると洋服を新調するようになり、売上も上向きになるとみている。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収まりつつあり、メーカーからの新車入荷が少しずつ良くなるとみているので、売上も増えてくると考える。
		乗用車販売店（役員）	・供給遅れが解消され、配車が進むことにより徐々に販売台数も上向いてくることを期待している。
		自動車備品販売店（役員）	・徐々にではあるが冬季用品の予約が例年並みに戻り、滞留時間も増え、買物を楽しむ姿も以前と変わらない状況になってきている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・ワクチン接種やGo To Eatキャンペーン再開に加えて、来月になると当地ではカニ漁が解禁になり、当店が酒類を納めている料理店へも客が来店し、酒を飲んでもらえるのではないかと期待している。結果は今はまだ分からないが、希望的観測でやや良くなるとみている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新規感染者数が低調なまま、経済対策等が出てくることで徐々に消費が回復してくると捉えている。特に年末年始に消費者の行動が広がりを見せる状況になることが1つの目安である。具体的には旅行の予約や帰省などの交通機関の予約が回復してくれば、関連した業種の回復が期待できる。
		一般レストラン（店長）	・昼の人出は少し増えたようだが、夜はまだまだ厳しい。しかし、増える気配があるので期待したい。
		スナック（経営者）	・当店の周りの小料理屋や居酒屋が、若い客の来店が忙しくなってきたという話を聞き、少しずつ客が戻ってくるのではないかと期待がある。
		観光型旅館（経営者）	・感染者数次第だが、少しずつ新型コロナウイルス発生前の日常が戻ってきているように見える。今後、Go Toキャンペーンの再開などで少しずつ回復すると考える。
		都市型ホテル（役員）	・緊急事態宣言の解除により経済活動が再開し、ビジネス利用客の回復が見込める。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・ 今後は年末にかけて忙しくなる月であるが、新型コロナウイルスの感染状況でどう変化するか期待が半分、心配や不安が半分である。
		タクシー運転手	・ 当地では飲食店利用の自粛要請が大幅に緩和され、これからの時期は飲食店への人出が増えるとみている。
		通信会社（職員）	・ 新型コロナウイルスの感染状況次第だが、ワクチン接種の効果を見込んでいる。
		通信会社（営業担当）	・ 年末商戦及び在庫入荷状況が改善されると見込み、全体の販売量が伸びると考える。
		通信会社（役員）	・ 行動制限が緩和され、経済が回り始めると見込んでいる。また、年末の商戦期を迎えることで、契約者数も伸びると考える。
		通信会社（役員）	・ 新規感染者数が大幅に減少しており、今後、消費活動自体は徐々に回復すると考える。ただし、今回の新型コロナウイルスの影響により、既存の事業は変化や変革が必要になっている。全体的に景気は良くなっていくとみているが、飛躍的に良くなる会社と苦境に追いやられる会社の両極端になると考えている。
		テーマパーク（役員）	・ 県民割引等の需要喚起策も開始され、また、感染状況が落ち着いてきている影響からか、予約も徐々に増加し始めている。2～3か月先に向けてやや良くなる傾向になるとみている。
		競輪場（職員）	・ 新型コロナウイルスの感染状況の鎮静化に伴い、営業を自粛していた場外車券売場が営業を再開する。
		美容室（経営者）	・ 新型コロナウイルス感染症による今後の不透明さはあるが、地域における振興策により飲食関係を始めとするいろいろなサービス業が活況を呈するとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・ 今後徐々に住宅展示会で来場者が増え、景気回復につながるとみている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・ ゴルフなどの景品等の注文は増えてきているが、景品の注文は11～12月に向かって減っていくことから、その辺の需要が見込めない。ギフト等の動きがどの程度になるか分からないが、前年はそこそこあったので、今年も変わらないのではないかと考えている。
		百貨店（販売担当）	・ 気温低下による需要や、今まで減少していた旅行や出張などの需要で一時的には好調になるが、抜本的な改善にはつながらないとみている。店舗での集客のアイデアが必要である。話題性のある商品や楽しさにつながる企画によって冷えた消費行動やネットでの購買行動に変化を与え、リアルでの購買の楽しさから売上拡大を目指していく。
		スーパー（店舗管理）	・ 既存客の来店頻度は変化がなく、特に高齢者層でその傾向が顕著である。一方で20～40代は、男女問わずスーパーマーケットとドラッグストアを上手に使い分けて家計支出を抑えている傾向にある。
		コンビニ（経営者）	・ 新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきていても状況が変わらない。
		コンビニ（店長）	・ 新規感染者数の増加がなければ景気は上向きの状態が続くとみているが、いつ第6波が来るか分からないため、安易に数か月先まで景気が良くなるといえない。景気が上向けば今よりも人件費などを多く使うことが出てくるが、現状ではいつ売上が下がるかを警戒しており、必要最小限若しくはそれ以下の人員で無理して店舗を運営している状況である。景気は新規感染者数の増減で左右されそうな状況だと考えている。
		家電量販店（本部）	・ 緊急事態宣言が解除されても、大きく景気が良くなっている印象は受けない。これから感染が拡大しないという保証もなく、しばらく景気は良くならない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ しばらくは感染の再拡大に気を付けながら様子見する感じである。新年会は新型コロナウイルス発生前の4割ほどの予約があるが、実施されるか分からない。宴会をしても良いという社会的な安心感がまだない。
		旅行代理店（従業員）	・ 新型コロナウイルスの影響を直接受ける業種である以上、楽観的な予想は全くできない。
		通信会社（営業担当）	・ 新機種が発売されて問合せは多いが、販売数をみると特に大きな変化はみられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ] (総支配人)	・今後の不安は付きまとっているが、新規感染者数の減少はプラス要因である。しかし、業界の動向はまだまだ冷え切っており、燃料代の高騰も追い打ちとなって大きなマイナス要因となっている。特に今から冬に向かって、入会者数の増加を見込めないところが問題である。
		住宅販売会社(営業)	・政府による住宅業界向けの景気浮揚策等が具体的に示されるなどのきっかけがない限り、客足が回復するイメージが湧かない。
		商店街(代表者)	・都会での緊急事態宣言の解除で地方の人出も戻っている。しかし、解除に伴い補助金の支給停止で収入が減少する事例があり、これからが大変だという声が多い。今年の冬も日本海側では雪が多いと予想され、苦境は続きそうである。
		スーパー(仕入担当)	・商品の値上げラッシュが止まらない。ボーナス商戦は先行き不安や年末消費に向け、財布のひもが固くなるとみている。
		家電量販店(店長)	・前年は巣籠り需要に対して集客があったが、今年は緊急事態宣言の解除により、観光やレジャー等に流れているようで特に週末の来客数が少ない。
		乗用車販売店(従業員)	・半導体不足の影響があり、厳しい状況が続いている。
		任関連専門店(役員)	・新型コロナウイルス感染症の落ち着きにより、外へ向けた消費が今後も確実に増加する。また、冬季には第6波の予測があり、依然として先行きは不透明である。
		高級レストラン(スタッフ)	・旅行代理店を経由すると、県が企画する旅行割引と市が企画する宿泊のセット割引を併用して受けられるため、個人や団体利用が激増している。しかし、それぞれ12月末と1月末までの企画のため、終了後には反動があるとみている。
		パチンコ店(経理)	・ガソリンなど物価の上昇によって個人消費が落ちるとみている。
		住宅販売会社(従業員)	・新型コロナウイルスの第6波がどうなるか、これからの新しい生活様式がどうなるか、注意してみたい。
	x	スーパー(店長)	・外食需要の活気が戻りつつあり、スーパーマーケットでは特に夕方の来客数が減少傾向である。
企業 動向 関連 (北陸)		*	*
		精密機械器具製造業 (役員)	・一部で新型コロナウイルス第6波への不安はあるものの、国内大手の取引先数社では既に回復基調が明らかことから、少なくともここ数か月前と比べれば良い方向へ向かっていくとみている。
		建設業(経営者)	・当社に限ったことではあるが、8億円の大型工事が完成し、それに伴う利益も予想どおり確保できるので先行きは明るい。
		輸送業(管理会計担当)	・緊急事態宣言の解除により、都市部からの荷物は引き続き堅調に推移するとみている。
		繊維工業(総括)	・全体としては回復基調にあるものの、サプライチェーンの分断や原材料価格高騰の影響を懸念する。
		プラスチック製品製造業(企画担当)	・新型コロナウイルスの感染拡大や半導体不足が短期的に解消することは難しいとみており、今しばらく本格的な回復には至らないと考える。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・特にオートバイ関係の部品受注において海外からの需要が急速に高まっている。しかし、コロナ禍からの回復の反動か、船便の手配が付かず港で在庫となっている状態である。この状況がいつ解消するか不透明である。
		一般機械器具製造業 (総務担当)	・半導体製造向けが好調なものの、工作機械における受注量の増加は一旦落ち着いてきている。
		建設業(役員)	・現状の受注量についても前年を下回る懸念があり、今後も厳しい状況が続くのではないかと考える。
		通信業(営業)	・新型コロナウイルスの影響等により、先行きの様子見をしている感じであり、全般的には横ばい傾向とみている。また、営業時間等が制限されていた飲食業界は活性化するものの、業績黒字化へはまだまだ時間が掛かるため、景気も当面は現状維持とみている。
		金融業(融資担当)	・年末に向けて個人消費の上振れが期待できるが、原価の上振れで利益ベースでは相殺されそうである。個人消費の中心である自動車は納車が遅れており、本格的に個人消費が高まるのはまだ先になりそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資担当）	・全国で緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しており、観光や飲食業の需要が回復の兆しをみせている。一方、原油や各種資材価格の高騰による利益圧迫要因や世界的なコンテナ不足による船積遅延、自動車産業の減産などの懸念材料もあり、横ばいでの推移を見込んでいる。
		司法書士	・新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きから、売上を期待する取引先と、新規感染者数が減少しても建築資材の高騰や材料の不足等で仕事の増加につながらず、混乱が当分続くともみている取引先がある。
		税理士（所長）	・小売も含めて観光業や飲食業は良くなってくると考える。ただし、製造業は厳しい状況である。経営者の話では、この先4～5か月はまだ厳しい状況が続くのではないかという意見が多い。住宅関係もウッドショックで今は受注が控えられており、非常に厳しい状態が続くのではないかと心配している。
		食料品製造業（経営企画）	・自粛解禁ムードのなかで年末年始の需要期を迎えることになれば、受注量、販売量共に更なる上積みが見込める。しかし、一方で原材料や燃料など複数のコストアップ要因に直面しており、収益性の面では悲観している。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分における注文の入り具合から、やや悪くなると考える。
		不動産業（経営者）	・現在は少し動きが出てきており、個人客や法人客の問合せも多少増えてきてはいるが、2～3か月先の話になると動きが少ない。
	x	輸送業（役員）	・燃料高のため悪くなる。
雇用 関連 (北陸)		人材派遣会社（社員）	・求人数の増加や求人範囲が広がることで求職者の選択範囲も拡大する。優良案件への応募数の増加を見込んでいるが、人数枠は限られている。マッチングできなかったとしても、次の案件へと求職活動が活発になるのではないかと推測する。
		新聞社〔求人広告〕（営業）	・新型コロナウイルスの感染状況が悪くならないことが大前提だが、レジャー、旅行、飲食など止まっていた業種が動き出したことが大きいのではないかと考える。
		民間職業紹介機関（経営者）	・今はまだ募集や採用は少ないが、人手不足の折から先を見越しての求人数が徐々に増加していくものとみている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・大きな雇用の動きが出てこない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあること、ワクチン接種が進んだことを受けて、少しずつ経済が回り始めている。ただ、これから冬場に向かって感染が再拡大する懸念があり、当面は一進一退の状況が続くと考える。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス第6波の到来により、求人募集を控える事業所が出てくるとみられるが、いかなる状況であれ、定年退職者や欠員の求人募集は出てくるため変わらないとみている。
		職業安定所（職員）	・衆議院選挙次第である。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数について、状況が変わる要素や気配が見受けられない。
		職業安定所（職員）	・年末年始の景気浮揚の反動が出てくる時期と、北陸の降雪期に当たるため、やや悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (近畿)		百貨店（売場主任）	・10月の売上は本格的な回復基調にある。緊急事態宣言の解除に加え、急激な冷え込みもあり、衣料品の売上は大きく前年を上回っている。食料品の需要が外食に流れていることもあり、生鮮品がやや苦戦しているが、総菜や和菓子などは前々年比でも大きくプラスになりつつある。人の動きが本格化してきた印象を受ける。
		百貨店（外商担当）	・コロナ禍による買い控えの反動で、一気に好転する気配を感じる。
		百貨店（マネージャー）	・国内市場は、行動範囲の拡大や営業時間の延長により、身近な消費の緩やかな改善が進む。実際に、目的のはっきりした消費として、年末年始のクリスマスケーキやおせち料理の予約販売は、例年よりも早い動きで好調となっている。
		百貨店（服飾品担当）	・クリスマス商戦が始まる11～12月への客の期待感は強く、国内消費は回復の土壌が固まりつつある。ギフト市場での消費を期待して、サプライヤー各社も商材を用意し始めている。また、長らく対面での接客ができなかったコスメ関連では、ようやく対面型の接客を再開できるめどが立ったため、年末に向けて売上の回復が予想される。
		家電量販店（店員）	・年末から年明けにかけて、景気は良くなると思いたい。実際には新型コロナウイルスの感染状況次第であり、予想が立たない。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・緊急事態宣言の解除や、新型コロナウイルスの新規感染者数の大幅な減少により、人の動きが大幅に増える。行動時間も増えることで、大きく回復することが予想される。
		観光型旅館（経営者）	・Go Toキャンペーンが再開されれば、更に広域で人流が増え、様々な業種を巻き込みながら景気回復への流れが進む。そのためには、ワクチンパスポートを活用するなど、新型コロナウイルスの感染対策を講じながら、ウィズコロナの対応を進めていく必要がある。
		都市型ホテル（フロント）	・府独自のキャンペーンの開始が近々と聞いている。また、年明けにはGo Toキャンペーンも再開すると予想される。スポーツやイベントでの人数制限の緩和もあり、需要は回復に向かう。
		タクシー運転手	・10月25日からは、酒類の提供などの規制がなくなるため、客の間にも少しずつ安心感が戻ってほしい。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・緊急事態宣言の解除を受けて、外出意欲は上向いていく。
		商店街（代表者）	・外出を控える習慣が定着している。すぐにはコロナ禍前の動きに戻らないが、少しずつ回復することを期待している。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・衆議院選挙によって人が集まる機会が増え、新型コロナウイルスの感染リスクが高まっているが、全国的には新規感染者数が増えていない。ワクチンの効果が出てくれば、人が動き始め、消費の増加につながる。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・緊急事態宣言中に、閉店や時短営業を行っていた店舗が、通常の営業を再開し始めており、発注が増えている。このまま新型コロナウイルスの感染が収束していけば、景気回復が見込まれる。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・緊急事態宣言の解除に伴い、前受注も増えつつある。
	一般小売店〔野菜〕（店長）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収束に向かい、緊急事態宣言も再発出されなければ、年末商戦に向けて飲食店が動き、当店でも品物が動くと予想される。	
	一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・コロナ禍がやや収束傾向になっているが、このまま落ち着き、良い年末商戦となることを期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・緊急事態宣言が解除され、地元客の来店は少しずつ戻っているものの、遠方からの観光客はまだまだ少ない。レストラン店舗は営業時間の制限がなくなったにもかかわらず、21時以降はほとんど客がいない。まだまだ客の新型コロナウイルスに対する姿勢は変わっていない。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、このまま沈静化が続いて経済が回れば、少しずつ良くなると予想される。ただし、以前の売上に戻るには時間を要するほか、完全には元のライフスタイルには戻らない。また、百貨店側も痛手を被っているが、それ以上に悪化している取引先が多く、厳しい状況はしばらく続く予想される。
		百貨店（企画担当）	・このままコロナ禍が落ち着いてくることを願っている。
		百貨店（サービス担当）	・10月25日から、飲食店の営業時間がほぼ従来どおりに戻ったほか、今年は寒気が早く到来したことで、季節商材を中心に購買意欲が高まり、売上の確保につながると予想される。
		百貨店（商品担当）	・ワクチン接種の拡大で、新型コロナウイルスの感染がひとまず抑制されている。経済が少し動き始めているが、現状をみる限り、冬のボーナス商戦は大きな伸びが期待できない。衆議院選挙の期間中は抑制される消費が、来月以降の新内閣による政策で、どこまで活性化するかが当面のポイントとなる。
		百貨店（販促担当）	・ワクチンの接種率が上昇し、新型コロナウイルスとの共存政策が機能し始めることを期待している。2年近く続いた我慢の反動で、慎重な行動を続けながらもショッピングを楽しむ動きが活発化すると見込んでいる。特に、家の外での消費は長らく低迷していた分、購買意欲が高まると予想している。
		百貨店（外商担当）	・希望者へのワクチン接種がほぼ完了し、更に3回目の接種も始まっていることが予想される。それに伴い、新型コロナウイルスの感染がかなり抑えられ、消費マインドが改善するため、外出用の婦人服や紳士服の販売が増えてくる。
		百貨店（店長）	・実証実験が成功し、旅行やイベント、年末年始の帰省などで外出する機会が増えれば、更に買上は増える。ただし、百貨店のアパレル売上の減少などで、売上の構成は以前とは変わっている。高所得者の特選洋品などの買上も増えるなか、今後はデパ地下や食品に特化した店作りが中心になっていく。
		百貨店（売場マネージャー）	・3回目のワクチン接種の開始も想定されるなか、現状の新型コロナウイルスの新規感染者数をみると、人流は増えると予想している。ペントアップ需要にも期待できると感じており、景況感は改善が予想される。
		百貨店（マネージャー）	・新型コロナウイルスの感染が収束しつつあるため、客の大半は元の購買行動に戻ると予想している。また、国内の観光客も戻りつつあるため、入店客数もかなり回復が進んでいる。さらに、今年の冬は冷え込みが予想され、前年に買換えを控えていた単価の高いアウターなどに動きが見られる。
		百貨店（販売推進担当）	・3回目のワクチン接種や、経口薬の実用化などの前向きな要素が増えれば、緩やかながら回復が進むと予想される。更に活発化するためには、政府の景気浮揚策が必要となる。
		百貨店（宣伝担当）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が抑えられれば、年末のイベントによる売上の増加が見込まれる。前年とは違い、取引先も冬物商材を増産する傾向にあり、ペントアップ需要を取り込むための施策を立てている。
		スーパー（経営者）	・緊急事態宣言の解除や、Go Toキャンペーンなどで、幾分の回復があると期待している。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、年末年始に向けて、外出が増えると予想される。飲食関係や、観光地などでの需要が増えるほか、それに伴う小売関連の需要も見込まれる。
		スーパー（店長）	・ワクチン接種が進み、緊急事態宣言や時短要請も解除されるなど、新型コロナウイルスと共存しながらも、日常生活に戻りつつある。売場でも、ここ1年は余り動きがなかった、トラベル関連や外出着に動きが出てきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・飲食店も営業が活発になり、経済は回復に向かう。それに伴い、スーパーなどの小売店も控えていたチラシの内容を元に戻すことが予想され、経済全体が回復に向かう。
		スーパー（店長）	・コロナ禍がひとまず収束に向かい、行楽やレジャーなどの需要が高まるため、外出用の商品の需要が増える。特に衣料品では、婦人関連の売上増加が見込まれる。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況がこのまま落ち着けば、年末に向けて、これまでため込んだ消費意欲が爆発する可能性が高い。例年以上に高額商品や高付加価値品が動くと思われる。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、ワクチンや治療薬で新型コロナウイルスの感染が抑えられれば、テレワークも減少する。今後は、昼間の来客数が今年よりも50%、夜間は80%ほど回復する見込みである。
		コンビニ（経営者）	・まだまだ外出の自粛が多いと感じるため、年内は今の状況が続くであろう。
		コンビニ（経営者）	・日中の労働人口は元に戻らないことが危惧されるが、観光客は少しずつ戻ると予想される。周辺ホテルの宿泊客数の増加に伴い、来客数の増加が期待される。
		コンビニ（店員）	・正月休みでの旅行などで、来客数が増えると期待される。
		コンビニ（店員）	・緊急事態宣言が解除され、客は様子を見ながら動いていると感じるほか、周りの店舗も営業の再開で少しずつ活気が出てきている。閉店した店も多いなか、近隣のホテルは本格的に再開したようで、繁華街にも近いので、人流の増加が期待できると感じる。
		衣料品専門店（店長）	・今後は12月頃に新型コロナウイルスの感染第6波の到来が懸念されているが、今は新規感染者数もかなり減っている。3回目のワクチン接種の計画もあるため、来客数、売上共に増えることが予想される。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・来客数も少なく、新しいスーツは不要という客が多い。
		家電量販店（経営者）	・物流が回復し、コロナ禍がある程度落ち着けば、消費の喚起が期待される。
		家電量販店（店員）	・世の中の制限が解除され、巣籠りのストレスから以前の生活に戻ろうとするため、これから少しずつ経済に動きが出てくる。
		家電量販店（企画担当）	・朝晩が冷え込み始め、年末商戦に向けたテレビや冷蔵庫の前倒し需要が動き始めている。今後は、ボーナス支給後の需要に期待できる。
		家電量販店（営業担当）	・緊急事態宣言が解除されて、景気が上向くことを期待している。
		家電量販店（人事担当）	・今年は厳冬となる予想であり、家の中で快適に過ごせる暖房器具の販売増加が期待される。また、パソコンの新OSの発売などで、パソコンの買換えが進むことも予想される。
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染対策の緩和により、購買意欲が高まってくる。また、控えていた対面販売に期待する客も、高齢者を中心に多くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・予約件数だけでなく、1席当たりの予約人数も増えてきた。今後も新型コロナウイルスの感染対策を続けながら、営業していきたい。
		高級レストラン（企画）	・新型コロナウイルスの感染状況の落ち着きや、Go To Travelキャンペーンの再開、自治体による観光支援事業の開始により、状況はやや好転すると予測している。
		一般レストラン（店員）	・ワクチン接種者が増え、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているため、今後は外食もしやすくなっていく。
		一般レストラン（企画）	・まだまだコロナ禍の影響は続くが、営業時間が元に戻れば、良くなっていくと予想している。10月以降、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している根拠を明示してほしい。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減っているため、飲食店などの来客数がやや増加している。
		観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かっている。現状ではすぐに好転する兆候はみられないが、先行きには期待している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（客室担当）	・ワクチン接種が増えた影響で、回復の動きが進む。
		観光型旅館（経営者）	・今の状況が続けば良くなると予想される。
		都市型ホテル（スタッフ）	・個人客や、中規模の団体による会食は戻ってきてつつあるが、緊急事態宣言の解除が間に合わず、多くの宴席がキャンセルとなっている。また、現在の要請内容にはあいまいなところがあり、スムーズに案内や提案ができない状況である。新年互例会などでの立食パーティーの予約が残っているものの、タイミングが合わなければキャンセルとなり、大きな損害が出ると予想している。
		都市型ホテル（管理担当）	・酒類の提供制限が解除されたことで、年末年始の企業による宴席などの行事が再開する。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・忘年会や会議などの宴会の問合せが増えている。ただし、新型コロナウイルスの感染第6波が発生する恐れもあり、取りあえず仮予約を入れる客や、他の人は宴会を始めているかどうかを確認する問合せも多い。全体的には、宿泊やレストランも徐々に動きが出てきた印象を受ける。
		都市型ホテル（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染防止のほか、海外からの入国制限も続いているため、以前の状態に戻るまでには時間を要する。
		都市型ホテル（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がこのまま減少すれば、外食や旅行に活気が戻ってくる。ただし、不安材料はまだまだ多く、原材料価格の高騰や海外客の回復時期など、まだまだ予断が許されない状況である。
		都市型ホテル（客室担当）	・秋の紅葉シーズンが到来し、Go Toキャンペーンが再開するまでの観光需要の拡大に向け、京都府民限定での観光支援が行われる。人の往来が増えることで、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるが、現状は新規感染者数が減少傾向にあるため、景気の回復が期待される。
		旅行代理店（店長）	・Go To Travelキャンペーンの再開が予想され、具体的に発表されれば、今よりも申込みが増える。
		旅行代理店（役員）	・県をまたぐ旅行の再開による、需要の回復が予想される。
		旅行代理店（支店長）	・県内での旅行割引が発表されるなど、今後Go Toキャンペーンに代わる政策が出てくれば、客の旅行マインド自体は高いため、改善につながると予想される。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続き、緊急事態宣言も解除になった。これから飲み会のシーズンとなるため、客が徐々に増えることを期待している。
		通信会社（社員）	・地域経済が大きく改善する可能性があり、その転換点を逃さず、更なる利用の拡大につなげていきたい。
		通信会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、冬モデルの商品も発売されるので、冬商戦に期待したい。
		通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が収束してきており、経済の回復が進むと期待している。
		テーマパーク（職員）	・やはり緊急事態宣言の解除による影響が大きい。旅行などの移動に関する自粛の必要がなくなったことは、物理的、精神的なストレスの大幅な緩和につながっている。今後はさらに、経済活動が活発になるような政策を打ち出してほしい。
		観光名所（経理担当）	・9月末で緊急事態宣言が解除されたが、ここ1か月で目立ったリバウンドは発生していない。ただし、今後は社会全体が経済活動を優先する形に移行することが予想される。
		観光名所（企画担当）	・緊急事態宣言が解除されたが、現状では来場者は増加していない。新型コロナウイルスの感染第6波の発生も懸念されているが、このまま徐々に回復してほしいと願っている。
		遊園地（経営者）	・緊急事態宣言の解除や、行動制限の段階的な緩和により、緩やかながらも消費行動に回復の兆しを感じられる。回復が緩やかな要因の1つには、世代間の行動の差がある。若年層は早々に活発な動きが始まっているが、ファミリー層などのほかの世代は慎重な動きが続いており、現時点では本格的な回復には遠い状況である。
		競輪場（職員）	・年末年始となり、例年は客単価が上がる傾向となるが、新型コロナウイルスの感染状況次第でどうなるかは分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（職員）	・電話投票やインターネット投票は引き続き好調であり、高い水準で安定している。年末にかけてSG競走などのビッグレースが続くため、売上にも期待できそうな気配である。コロナ禍が落ち着けば、本場の売上も向上することを期待しながら、動向を見守っている。
		その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少や、治療薬などの実用化で、人の活動が活発化する。
		美容室（店員）	・今の状態が続けば良くなる。
		その他サービス[学習塾] (スタッフ)	・緊急事態宣言の解除により、新型コロナウイルスの感染に対する不安も軽減する。今後は入会を検討する人が増えてくると予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第6波が発生するまでは、徐々に上向くはずである。ただし、発生が早まれば、回復も遅くなると予想される。
		住宅販売会社（総務担当）	・客の動きが活発化するにつれて、契約件数も増加する。
		その他住宅投資の動向を把握できる者[不動産仲介] (経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきたため、経済活動は緩やかな回復が進む。ただし、感染第6波の状況にも左右される。
		その他住宅[住宅設備] (営業担当)	・本格的な冬を迎え、新型コロナウイルスの感染第6波の発生が懸念されるものの、例年どおりの推移となれば、休む暇がないほど忙しくなる。
		一般小売店[時計] (経営者)	・今は新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いていて、街全体に活気が戻る雰囲気が少しあるが、冬に向けて感染第6波が到来するとの見方が多い。この2年間の経験から、油断できないという感覚を持っている客も多く、当分は今の状態が続く。明るく遊び回る雰囲気ではないため、この暗さはまだまだ終わらない。
		一般小売店[呉服] (店員)	・若い客よりも40代以上の客が多いため、まだ外出を控える傾向が強いことがマイナス材料となっている。
		百貨店(売場マネージャー)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に加え、ワクチン接種率の上昇、緊急事態宣言の解除などで、人流も改善傾向にある。今後は来客数の増加で景気の回復が期待できるが、感染第6波の到来も予想されるため、完全に良くなるとはいえない。
		百貨店(営業推進担当)	・新型コロナウイルスの感染第6波が発生する恐れもあり、以前の水準に回復するまでには至らない。
		百貨店(マネージャー)	・新型コロナウイルスの今後の感染状況が読めないが、感染第6波の発生も予想されているため、今の状況が大きく変わることはない。また、年末年始商戦でのクリスマスケーキやおせち料理などの予約受注は好調なため、引き続きイエナカ需要は続くと予想される。
		百貨店(特選品担当)	・これから状況が良くなればよいが、新型コロナウイルスの感染第6波の懸念もあり、正直なところ先行きが見通せない。もう少し今の状況をしっかりと見極めていきたい。
		スーパー(経営者)	・衆議院選挙が終了し、政治リスクも少なくなった。中間決算の発表で、業績改善となる企業が増えるなか、更なる景気対策や新型コロナウイルスの感染対策がしっかりと実施されることで、クリスマス以降の大型商戦も売上の増加が期待される。
		スーパー(店員)	・鍋料理の材料は単価が下がっているため、動きは今と変わらない。ただし、近隣に24時間スーパーがオープンするため、その影響次第でどうなるかは分からない。
		スーパー(開発担当)	・原油価格の高騰や、様々な商品の相次ぐ値上げにより、景気が良くなるとは思えない。今回の衆議院選挙でも具体的な景気対策がはっきりしないため、景気が良くなる可能性はほぼない。
		コンビニ(経営者)	・中小企業や大企業が抱える今までの悪影響が、2～3か月で解消するとは考えられない。これからは、人を雇用せずに無人で対応するための投資が進み、人の雇用もこれまでとは異なる形になると予想される。
		コンビニ(店長)	・外出の自粛で増えた家飲み需要が減る代わりに、会社への出勤が増えることで人の流れが良くなる期待はあるが、全体としては横ばいとなり、良くはならないと予想される。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店員）	・社会全体では、物価が上がったり、新型コロナウイルスの影響もあるが、年金生活の高齢者の客が多いため、当店は余り変化がない。
		衣料品専門店（経営者）	・消費者は新型コロナウイルスの新規感染者数に敏感であるため、年末までは消費の低迷が続くと予想される。
		乗用車販売店（経営者）	・インフルエンザの感染拡大の状況次第である。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきて、以前の日常が戻りつつあるが、これから冬になり感染第6波の発生も懸念されるため、まだまだ完全に消費が戻るまでには至らない。また、衆議院選挙も控えており、誰もが選挙後を見据えたいという気持ちを持っている。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの影響もあって半導体が不足し、新車の販売ができないため、先行きは良くない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・緊急事態宣言が解除され、行楽シーズンでもあるため、週末を中心にガソリン販売量の増加が期待されるが、原油価格の動向が不透明であるため、先行きの景気判断は難しい。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・緊急事態宣言の解除後は、人出は増えてきている。ただし、宝飾品などは元々買い控えの対象ではないため、売上の増加にはつながらない。
		その他専門店〔スポーツ用品〕（経理担当）	・3回目のワクチン接種が完了し、経口薬が開発されるまで、あと1年は今の状況が続く。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・今月のような、例年どおりの販売が続くと予想される。
		一般レストラン（経営者）	・ゴールドステッカーなどの基準を定めても、飲食店の利用者の不安が抜けない間は、飲食店の景気回復の見込みはなかなか立たない。また、協力金がなくなるほか、新型コロナウイルスの感染第6波への備えなど、飲食店の経営に対する不安はまだまだ続きそうである。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染は落ち着いているが、急に売上の増加にはつながらない。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染第6波の発生を警戒するマスコミの報道が、消費や経済活動を鈍化させている。
		ゴルフ場（支配人）	・今月も来場者数は前年比で増加しており、今後も増加傾向が続くと予想される。
		その他レジャー施設〔複合商業施設〕（職員）	・Go Toキャンペーンの再開など、大型の経済対策が期待される一方、現実的に新型コロナウイルスの感染第6波への懸念も拭えない。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・大阪府の緊急事態宣言は解除され、プロ野球の公式戦での入場制限も緩和されつつある。今年は地元チームの躍進で、7年ぶりにクライマックスシリーズが開催されるため、今まで以上の来場者を見込んでいる。
		住宅販売会社（従業員）	・しばらくは、新規マンションの販売状況は好調が続くと予想されるが、販売価格が上がってくことで、実需層の購入意欲がどこまで続くかが危惧される。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅展示場の持つ価値が、出展企業の間で変化しつつある。今までのような展示場主催のイベントで集客を伸ばす動きから、本当の実需客をモデルハウスの見学予約で集める考え方に化したため、コロナ禍の影響は少なくなっている。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・新型コロナウイルスの感染状況の収束がプラスに働く一方、コロナ禍によって伸びた業界への下押し圧力も出てくるなど、期待材料と不安材料が混在している。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・景気を持ち直しを期待したいが、ウィズコロナによる景気の低迷がこれから始まると感じる。
		スーパー（店長）	・食品の値上げで今後は販売の低迷が予想されるほか、衣料品も必需品だけの購入にとどまり、食品の減少のカバーは期待できない。今後は全体的な低迷が予想される。
		スーパー（企画担当）	・年末商戦を迎えるに当たり、前年は外出の自粛で旅行もできないなかで、内食の特需が発生した。今年は緊急事態宣言が解除され、人の流れも変わるため、前年比ではかなり厳しい年末商戦になると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（企画担当）	・コロナ禍による自家需要がなくなり、日用品や園芸、自転車などの動きがコロナ禍前の水準に戻ってきている。今後はさらに、競合他社の影響で厳しくなることが懸念される。
		スーパー（販売促進担当）	・ワクチン接種が進み、コロナ禍対策の緩和が続けば、外食の需要が増え、中食や内食の需要が減る傾向が続く。ただし、全体的な景況感でみた場合、外食自体もコロナ禍前の状態には戻らず、景気は減退局面になると予想される。
		スーパー（社員）	・今後はコロナ禍の収束による外食需要の活発化が、スーパーには逆風となる。さらに、これまでのコロナ禍によって世帯の所得が悪化し、客の節約意識が強まることを懸念している。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増えて、まん延防止等重点措置の適用や、緊急事態宣言の発出につながりそうである。
		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言時に借りた資金の返済が始まるが、現在の売上で返済していくのは厳しい。
		家電量販店（店員）	・食費、光熱費が上昇傾向にあるなかで、商品のモデルチェンジによる単価アップも進んでいる。収入が不安定な状況では、壊れていない商品の買換えは、やはり後回しにされることが避けられない。
		乗用車販売店（販売担当）	・部品の供給不足は、世界的な問題と認識している。解消のめどが立たない限り、回復への転換は難しい。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・原油の不足や国際的な値上がりにより、家庭での電気、ガス代や、その他の物価が上昇し、景気が左右される。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・ドラッグストアは新型コロナウイルスの感染が落ち着くにつれて、厳しい局面となる。今まで買物にしか出掛けていなかった分、休日はいろいろな場所に行くようになり、来客数も減少傾向となることが予想される。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第6波の発生が予想されており、企業などは忘、新年会は控えると聞いているため、年末は厳しくなる。また、お金を持っている人は、Go To キャンペーンの有無に関係なく、年末年始は旅行に行くことと予想されるため、来客数の増加は期待できない。
		住宅販売会社（経営者）	・まずは商品原価の上昇分を、販売価格に転嫁していくのが難しい。
	×	一般小売店〔衣服〕（経営者）	・本格的な冬になれば、今は落ち着いている新型コロナウイルスの新規感染者数も、増えてくる可能性が高い。今以上に厳しい状況になるなど、これから先の明るい見通しは全く感じられず、むしろひどい不況となる不安がある。
	×	衣料品専門店（経営者）	・仕入先が商品を持っていない。
	×	乗用車販売店（経営者）	・売上が急激に悪化している。理由は仕入価格の高騰であり、商品は割安の物から売れていき、なくなれば売れなくなる。さらに、商品がなくなれば、当社の仕事も減っていく。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・輸入車の生産が減っているため、販売できる車が全くない。この状況が落ち着くのは来春以降になる見通しであり、非常に厳しい。
	×	住関連専門店（店長）	・今秋は、いよいよ販売価格を上げなければならないほど、仕入れコストが大幅に上がった。商談件数は回復傾向でも、予算が合わずに失注する可能性が増えるなど、今後も売りにくい状況は続く。
	×	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・失業者が増えているため、緊急事態宣言が解除されても消費は落ちたままである。
企業 動向 関連 (近畿)		木材木製品製造業（経営者）	・国内需要は堅調であるが、当社のような輸入品の卸売では、相手国の状況による影響も大きい。相手国でロックダウンなどが行われれば、必要な商品が入らず、売上も減少する。今はその状態であり、今後2か月は売上、利益共に減少する見込みである。ただし、2～3か月後には元に戻ると期待している。
		食料品製造業（営業担当）	・ワクチンを2回接種した人も多く、新型コロナウイルスの感染対策を続けながら、経済を回していく方向にあるため、少し明るい兆しが出てきている。
		繊維工業（団体職員）	・コロナ禍の状況次第ではあるが、ワクチン接種も進み、新型コロナウイルスの新規感染者数を抑えることができれば、景気は上向くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・各社の体力が余りないため、急激な回復は難しいと感じる。ただし、全く同じではないものの、徐々にコロナ禍前の状況に戻る気配を感じる。
		化学工業（経営者）	・先行きの受注額も、新型コロナウイルス発生前の水準に戻りつつある。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・2～3か月後であれば、海外からの調達部品が入ってきやすくなっているほか、コロナ禍前の状況を取り戻せると感じられる。
		窯業・土石製品製造業（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向がこのまま続けば、身の回りの景気はやや良くなると予想される。経済も回していかなければ、今後は大きな代償を払うことになる。人流が増加傾向にあり、新型コロナウイルスの感染第6波は必ず発生するため、その事態を想定し、今のうちに更なる医療体制の構築を図る必要がある。一方、原油高や円安も懸念材料であり、今の状態が続けば、景気の先行きは厳しいと予想される。
		電気機械器具製造業（経営者）	・最近の景気は安定的に推移しており、半導体関連の好調が5～6年は続く予想される。当社のように海外への出荷が多い企業にとって、現在の円安環境も追い風となっている。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・緊急事態宣言が解除され、受注が増えてくることを期待したい。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・まだコロナ禍が完全に収束したわけではないが、ワクチン接種も進んでいる。新型コロナウイルスの感染第6波が発生しないことを願い、経済が上向くことを期待している。
		輸送業（商品管理担当）	・緊急事態宣言の解除と、飲食店の営業が再開されたことで、酒類の売上が増える。
		輸送業（営業担当）	・来年の1月から、商品が順次入ってくる見込みのため、やや良くなる。
		通信業（管理担当）	・衆議院選挙の影響で、若干上向く。
		金融業（副支店長）	・外食が増えているほか、旅行などの動きが出てくるなど、経済は動き始めている。今後は飲食店や旅行関係の市場が回復していく。
		金融業〔投資運用業〕（代表）	・良くなるとしても、来年の春以降になりそうである。簡単にスイッチを切り替えて、一気にアクセルを全開にしても、消費マインドがついてくるかどうかは疑問である。消費する側も、コロナ禍の被害を被っているはずである。
		金融業（営業担当）	・コロナ禍の収束を願っている。
		広告代理店（営業担当）	・年末に向けて、更に若干の回復が進みそうであるが、今後のコロナ禍の状況次第である。
		広告代理店（営業担当）	・広告はWeb媒体、紙媒体共に、前月頃から前年の売上を上回っている。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルスへの対応が、少しずつ実を結んでくる。今後はGo Toキャンペーンといった国の消費喚起策も出てくる。一時的な動きかもしれないが、やや景気が良くなると期待したい。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・ワクチン接種が更に進むほか、経口薬などの治療薬も、早ければ年明け早々には普及し始める。これに伴い、新型コロナウイルスの感染防止対策は続けながらも、消費者の活動が活発化すると予想される。
		食料品製造業（従業員）	・今まで業務用の受注が止まっていた取引先からは、注文が入りかけているが、まだ元の水準には戻っていない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・コロナ禍の影響で仕事の進め方も変わり、先が見通せない。
		化学工業（管理担当）	・自動車の電装関連の出荷が、今後も減少すると予想している。
		金属製品製造業（開発担当）	・生産量の減少が予想される。
		一般機械器具製造業（経営者）	・最悪の業況が回復する様子はない。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・一般商品の値上げや原油価格の高騰で、家計の収支が悪化しそうである。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・寒さが本格化する12月以降、新型コロナウイルスの感染第6波の到来が懸念される。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・新規案件の部品の納期が大幅に遅れるため、取引先の要求する納期に間に合わず、受注を断念せざるを得ない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送用機械器具製造業（役員）	・搬送設備の新規生産ラインに関する問合せや、引き合い件数が増えているが、売上に反映されるのは6か月以上先となる。
		建設業（経営者）	・対面ではなく、オンライン営業が普通になったことで、全体的につかみどころのない状況となっている。この状況はしばらく続く予想されるため、事業の再構築なども視野に入れていく必要がある。
		建設業（経営者）	・緊急事態宣言が解除され、経済が動き始めるが、コロナ禍で疲弊した企業からの設備投資は期待できない。部品不足で工期の問題が出てくるほか、建設資材の高騰で価格競争も厳しくなる。
		建設業（営業担当）	・直近数年の設備投資計画は実行されており、今のところは急激に落ち込みそうにない。
		司法書士	・ワクチン接種が進んだこともあり、緊急事態宣言の解除後も新型コロナウイルスの新規感染者数は減少を続けている。この状態が続けば、以前の状態に近づくと期待しているが、時間は掛かる。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・まだまだ景気は戻らない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・緊急事態宣言が解除されてから、まだ余り動きは見えないが、来年度は動きが出てくると期待している。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が、製品や材料の入荷が遅れており、それに伴って納期もかなり遅れている。
		繊維工業（総務担当）	・急激な円安により、中国やベトナムからの輸入品の採算が悪化してきている。
		繊維工業（総務担当）	・経費の掛かる販売方法が改善されなければ、コストが吸収し切れない。販売方法の見直しが急務となっている。
		金属製品製造業（経営者）	・しばらくは部品不足の状態が続き、全体的に荷動きが減速する。
		金属製品製造業（営業担当）	・特に自動車業界では価格改定に対する抵抗が強く、採算が急激に悪化傾向にある。
		建設業（経営者）	・原油価格の値上がりもあり、ますます様々な資材価格が高騰する懸念が出てきた。今後の大型案件については、契約に慎重にならざるを得ない。
		不動産業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、傷ついた不動産市場がまだ回復していない。補助金などの支給が年内で終わるため、年明け以降は倒産する企業が増える。その結果、3か月後の景気は悪くなる。
	×	化学工業（企画担当）	・食用油脂価格の高騰に収束の兆しが見えない。さらに、ガスなども高騰しているほか、鋼材などの設備投資関連もコストが上昇しており、採算の悪化が予想される。
	×	電気機械器具製造業（経理担当）	・電子部品の調達のめどが全く立たないため、全ての計画が見通せない状況が続いている。この状況がいつまで続くのかによって、資金繰りにも大きな影響が出る。
	×	輸送業（営業担当）	・利益率の高い製造業関連の荷物が少な過ぎて、今月は利益がほとんど出なかった。来月も製造業関連の荷物は少ない。
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染の収束時期や、収束後の展望が見通せない。
雇用関連		人材派遣会社（支店長）	・年度末に向けて、求人の動きが活発になると予想される。
(近畿)		人材派遣会社（役員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減し、経済活動が持ち直してくると期待している。
		人材派遣会社（営業担当）	・ワクチン接種の拡大や、各種制限の解除により、景気が回復してくる。
		人材派遣会社（営業担当）	・今後は経済活動の活発化が期待できる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・緊急事態宣言が解除され、コロナ禍による悪影響も小さくなった。ワクチン接種率も上昇し、国や自治体のウィズコロナ関連の政策も、経済を回しながらの体制が整備されると予想される。それに伴い、景気はやや向上くとみられるが、冬場を迎えて、新型コロナウイルスの感染第6波の発生が確実視されるほか、新たな新型コロナウイルス変異株の感染拡大の可能性もあるなど、状況は流動的である。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染第6波の発生が懸念されるが、それがなければ回復に向かう。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（営業担当）	・今後2～3か月を含む年内については、来年度の採用に向けた学生向け広報として、企業のインターンシップや業界研究セミナーへの出展が増えると考えられる。ただし、学生の動きが鈍いため、現時点でイベントや企業セミナーへの参加者が少ない。年明け以降、広報機会を求めてイベントの出展や求人広告などを増やすのか、イベントは参加者が少ないと見込んで、出展を控えるのかはまだ分からない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・年末に向けた消費の回復を期待している。
		人材派遣会社（経営者）	・リモートワークが浸透してきた影響で、適材適所で派遣スタッフが集めやすくなり、ミスマッチが少なくなっている。それに伴い、派遣先企業では少しでも良い人材を集めようという意欲が高まっており、良い人材がいれば、1人でも2人でも多く抱えておく意識が感じられる。このような雰囲気は今後も続く予想され、派遣業界は好調を維持できそうである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・緊急事態宣言が解除となり、街に人は増えていると感じるが、海外の状況をもみても、このままコロナ禍が収束するとは思えない。景気が良くなる要素も、新型コロナウイルスの感染状況次第であり、その意味では変わらない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・緊急事態宣言が解除されたとはいえ、まだまだコロナ禍の影響が続く。関西企業からの新聞広告の出稿など、宣伝プロモーション予算の削減が進んでいるため、景気は悪い状態が続くと予想している。
		職業安定所（職員）	・有効求人数の増加など、企業の手不足感が強まっているものの、業種による差がみられる。また、パートや契約社員については、3か月ぶりに前年比で減少するなど、不透明感も強い。一方、有効求職者数は依然として高い水準にあり、先行きの不透明感から、再就職に際しては求職活動の長期化が懸念される。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金に係る相談や申請件数は依然として多く、景気の先行きは不透明な状況である。引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を注視する必要がある。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の激減や、ワクチン接種者の増加により、利用者からの感染への不安の声が減っている。
		職業安定所（職員）	・8月の新規求職者の登録が前年比で10%の増加、9月も4%の増加と増えているが、新規求人数が底堅く推移しているため、求人倍率は余り変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・前年と比べると、求人数は徐々に増えている。その一方、建設業を中心にした人手不足もあり、求職者からの相談は伸び悩んでいる。求職者にとって魅力的な雇用条件の整備を、企業が早急に進める必要性が高まっている。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・新型コロナウイルスによる特需が一旦落ち着き、例年よりも求人数が減少している。
		学校〔大学〕（就職担当）	・各種の制限が解除されつつあるが、どこまで回復するかは読めない。新型コロナウイルスの感染第6波の発生など、先行きは不透明である。
	x	-	-

## 9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		高級レストラン（事業戦略担当）	・Go To Travelキャンペーンの再開など、事業者にとって追い風の時期に入ったため、景気は良くなる。ただ、再度、新型コロナウイルスの感染者数が増加するようであれば、状況は変わる。
(中国)		観光型ホテル（宿泊担当）	・新型コロナウイルスの鎮静化や宿泊割引等の支援により、景気は良くなる。
		観光型ホテル（副支配人）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少で、今まで自粛していた客の宿泊、忘年会、新年会の予約が回復する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数増加の不安はあるものの、年末に向けて個人消費が回復する。宴会需要ではキャンセルより新規受注が上回り、食事を伴う宴会や懇親会の問合せも増加している。Go Toキャンペーンの再開が観光業界の好景気への大きな起爆剤となり、景気は良くなる。
		テーマパーク（業務担当）	・新型コロナウイルス関係の規制がなくなったため、今後、動きが活発になる。
		観光名所（館長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少やGo To Travelキャンペーン等の観光施策により旅行者数が増加し、景気は良くなる。
		商店街（理事）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきているため、今後、客の購買意欲が高まってくる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、来客数が徐々に増加、客の購買意欲も高まってきているため、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・例年、年末に向けて、動きが良くなるため、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と緊急事態宣言の解除により消費が回復するため、景気はやや良くなる。
		一般小売店〔靴〕（経営者）	・年末年始にかけて消費ムードが高まるため、景気はやや良くなる。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスが落ち着き、気温が低下することで、冬物衣料品の需要が増加する。
		百貨店（外商担当）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況に左右されるが、今の状況を維持できれば、年末に向けて旅行や帰省等のニーズにより客の購買意欲も今以上に向上し、売上も回復する。
		百貨店（売場担当）	・年末にかけて徐々に以前の状況に戻っていく。
		百貨店（営業企画担当）	・今年は年始に帰省がなく、初売りから落ち込みが激しかったが、この調子でいけば、来年は帰省もあり、初売りの売上が回復する。
		スーパー（店長）	・ワクチン接種が進み、周辺の飲食店や小売店も通常営業しているため、今後、景気はやや良くなる。
		スーパー（店長）	・前年非常に悪かった年末商戦が若干回復する。
		スーパー（店長）	・地域共通クーポンの利用が始まり、年末年始に向け環境が良い方向へ向かう。また、年末年始の帰省もあるので、帰省客が流入する地域にとってはプラスに働く。
		スーパー（業務開発担当）	・まん延防止等重点措置が全面解除されたので、警戒感はあるが、人出が増え、客が買物に行きやすい状況になる。
		コンビニ（エリア担当）	・しばらくは来客数の前年超えが続く。
		コンビニ（支店長）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少するのに伴い、人の動きが回復する。
		コンビニ（副地域ブロック長）	・国のGo To Travelキャンペーンの施策に続き、イベントの再開が進めば、来客数が増加し、売上も回復する。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、来客数が増加するため、景気はやや良くなる。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減しているため、景気は上向き。緊急事態宣言が解除されてからは、はっきりと需要が回復してきている。ただ、新型コロナウイルスの第6波が来れば、景気は落ち込む。
		家電量販店（販売担当）	・年末年始に需要が増加する。
		乗用車販売店（営業担当）	・3か月後は決算期で、来客数が多少増加するため、景気はやや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・日本の経済が良くなっても、自動車業界は世界の動きに左右されるので、まだまだ回復は難しい。
		乗用車販売店（業務担当）	・新型コロナウイルスの影響が続くものの、生産工場が再開する見通しもあり、好転が期待できる。
		自動車備品販売店（経営者）	・冬季商材の需要でやや良くなると思うが、前年比ではどうなるか心配である。選挙後の政党の政策に期待したいが、今までと同じような旧態依然とした政策では、経済の活性化は厳しい。抜本的な改革を望むが、これまでの政党であればそれは不可能に等しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が再拡大しなければ、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・9月まで前年を上回っていた来客数や売上が、10月に入り激減している。気温の低下などが原因だと考えられるが、年末にかけて、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が抑えられ、近隣の観光地への外出ムードが徐々に高まっているため、今後、観光客が増加する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・新型コロナウイルスがそのまま終息に向かえば、もう少し客の財布のひもも緩んでくる。これからハロウィン、クリスマス、年末年始と客の購買意欲が高まる時期に入るので、売上が伸びてくる。
		一般レストラン（店長）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続けば、現在自粛中の団体や企業の宴会が増え、来客数も増加する。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息すれば、景気はやや良くなる。
		観光型ホテル（営業担当）	・Go To Travelキャンペーンが再開すれば、景気はやや良くなる。
		都市型ホテル（企画担当）	・自治体の支援事業やGo To Travelキャンペーンが開始すれば、今後、人の動きが活発化してくる。
		都市型ホテル（総支配人）	・年末年始を除きオフ期を迎えるが、Go To Travelキャンペーンが再開されれば、先行きの不透明感はあるものの、一定の回復が期待される。ただ、新型コロナウイルスの感染再拡大や経口薬がどの程度普及するかなどの課題が残っている。
		旅行代理店（支店長）	・Go To Travelキャンペーンが全国で再開されれば、旅行需要がますます増加し、業績が回復する。
		タクシー運転手	・ワクチン接種の効果で、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、新型コロナウイルスの影響が薄れるため、景気は回復に向かう。
		タクシー運転手	・イベントが再開され、来客数が増加している現状から判断すると、今後、景気は徐々に良くなる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの第6波が訪れなければ、年末に向けて景気は良くなる。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・新型コロナウイルスが落ち着き、家計支出が安定してきたため、今後、景気はやや良くなる。
		通信会社（企画担当）	・年末年始にかけて、交通、旅行、宿泊を含めて、消費が回復していくかは、新型コロナウイルスの第6波が到来するかどうか次第である。海外の新型コロナウイルスの動向に不安要素はあるが、このまま国内の新型コロナウイルスが落ち着けば、消費は更に増加していく。
		通信会社（営業担当）	・物価上昇というマイナス要因はあるものの、今後、新型コロナウイルス禍で長期間低下していた客の消費意欲が反動により高まる。
		通信会社（工事担当）	・新型コロナウイルスが落ち着いているため、今後、景気はやや良くなる。
		テーマパーク（営業担当）	・新型コロナウイルスの一時的な落ち着き、県の経済対策、冬のイベントの実施などで、景気はやや良くなる。
		ゴルフ場（営業担当）	・緊急事態宣言が解除されてから、予約が動き出したため、景気はやや良くなる。
		設計事務所（経営者）	・緊急事態宣言が全面解除され、経済正常化への期待が高まり、景気回復の動きがみえ始めているため、景気はやや良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているので、これから年末に向けて景気回復の足掛かりが築かれる。
		住宅販売会社（営業担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が良くなっていくため、景気はやや良くなる。
		商店街（代表者）	・人の動きが活発化しているが、年末にかけて新型コロナウイルスが再流行する懸念があり、このまま景気が良くなるようには感じられない。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続かない限り、景気は変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少してきて、客の移動や外食が活発になるため、巣籠り需要が減少し、売上が減少する。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・緊急事態宣言の解除で、景気は徐々に回復するが、何らかの助成がないと厳しい経営が続く。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・来客数が増加し、景気は少し良くなる。
		百貨店（経理担当）	・このまま新型コロナウイルスが終息すれば、景気も回復に向かうが、しばらくは先の見えない状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、客の外出意欲は出てくるが、衣料品の購買意欲はすぐには高まらない。
		百貨店（営業担当）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているが、新型コロナウイルスにより客の生活様式が変化しているため、新薬など画期的な新型コロナウイルス対策が講じられない限り、景気は良くならない。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染が今のところ落ち着いているが、地方都市の店舗では、行動規制が緩くなると、客が主要都市へ戻ることがあるため、思ったよりも結果が出ていない。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの影響が続くため、景気は変わらない。新型コロナウイルスの感染が落ち着き、人の動きが良くなると、巣籠り需要が減少し、ディスカウントストアの業績はやや厳しくなる。
		スーパー（店長）	・現在の景気は回復傾向だが、Go To Eatキャンペーンなどが再開されると、スーパーでの購入金額は今よりも増加しない。
		スーパー（総務担当）	・人の動きも多くなり、少しずつイベントも動き出しているため、購買等も上向きになっていく。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、来客数が増加しているため、今後、再び新規感染者数が増加しなければ、景気は多少良くなる。
		スーパー（営業システム担当）	・小麦粉や食用油の値上げがあったが、今後も値上げが行われるため、買い控えの傾向が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・12月の下旬まで下水道の工事が続くため、工事終了までは厳しい状況が続く。
		衣料品専門店（代表）	・景気は新型コロナウイルスの状況次第なので、今後、再び、緊急事態宣言が発出されるようであれば、景気は低迷する。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス禍で、販売促進策が進められないため、来客数が増加しない。
		家電量販店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いている現在でも、売上が改善していないことから、政府の大型の財政政策等がない限り、景気は変わらない。
		乗用車販売店（店長）	・新型車の販売で景気がやや良くなってくると思っていたが、半導体不足の影響が想定より大きいため、今後、落ち込むことはないが、良くなることもなく、景気は現状を維持する。
		乗用車販売店（統括）	・新型コロナウイルスの影響や生産台数の不足で、先行きが不透明である。
		乗用車販売店（営業担当）	・緊急事態宣言は解除されたが、客の節約傾向は残っており、半導体や部品の不足により、新車の納期遅れも深刻化しているため、景気は良くならない。
		自動車備品販売店（経営者）	・新型コロナウイルスが落ち着いてきているので、いずれは景気も良くなってくるが、当分は現在の状況が続く。
		住関連専門店（営業担当）	・新型コロナウイルスが少し落ち着き、客の動きが良くなるが、需要は小売ではなく、旅行や飲食の方に流れる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染が拡大しないため、景気は悪くならない。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が、このままの水準で推移すれば、年末年始には景気が回復する。ただ、新型コロナウイルスの第6波が訪れ、規制が行われるようだと、前年のように年末年始が自粛モードになり、来客数や売上に影響が出る。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大に対する不安がまだ完全に消えたわけではないので、年末にかけて来客数が回復し続けるかどうか不安である。
		一般レストラン（経営者）	・忘年会や新年会など多人数の宴会利用が自粛傾向にあるため、景気は良くならない。また、輸入牛肉の高騰や品薄が利益を圧迫し、経営が厳しくなる。
		旅行代理店（経営者）	・年内は新型コロナウイルスに対する不安が残るため、景気は良くならない。
		タクシー運転手	・今後、少しずつ景気が元に戻る。
		通信会社（広報担当）	・客に買い控えの傾向がみられるため、今後も景気は変わらない。
		通信会社（経理担当）	・しばらく先が見えない状況が続く。
		テーマパーク（管理担当）	・新内閣に期待できないため、景気は変わらない。
		観光名所（管理担当）	・現在、10～12月までのキャンペーンで誘客に成功しているため、12月までは来客数が安定する。
		競艇場（企画営業担当）	・1日平均の販売量が変化しない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたが、客の動きはまだ鈍いため、景気は変わらない。
		美容室（経営者）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染が終息すれば、安心なのだが、現状ではまだ不安が残るため、景気は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルス感染症はやや落ち着いたが、客が先行きの不安から住宅などの大きな投資を控える状況が続く。
		設計事務所（経営者）	・例年、年末に向けての動きが鈍いので、景気の大改善は見込めない。
		商店街（代表者）	・製鉄所の閉鎖を控え、来客数が減少するため、景気はやや悪くなる。
		百貨店（販売計画担当）	・ボーナスの減少など個人所得の低下の動きが顕在化する。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、客が広範囲に移動するようになるため、他店の利用者が増加し、来客数が減少する。
		スーパー（販売担当）	・新型コロナウイルス感染症は沈静化してきているが、客の消費態度は当分慎重になる。また、貨物コンテナの不足等の諸事情により輸入商材の供給が安定していないため、今後、流通面で不安が残る。
		スーパー（販売担当）	・景気が良くなる材料がないため、景気はやや悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスが終息し、客の外出が増えない限り、景気は良くならない。
		住宅販売会社（営業所長）	・新型コロナウイルスが落ち着き、これまで我慢していた飲食や旅行などに客の消費が流れるため、税制の優遇策等が乏しい住宅販売が好転する材料は少ない。
	×	スーパー（財務担当）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少すると、客の外出機会が増加するため、売上が減少する。
	×	コンビニ（エリア担当）	・何か良い打開策がない限り、景気は良くならない。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの第6波が訪れると、景気は悪くなる。
	×	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が終息しない限り、客の行動が元に戻らず、景気は良くならない。
企業動向関連		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今後、自動車業界の景気は良くなる。
(中国)		農林水産業（従業員）	・料理屋の注文も少しずつ増えてきているので、少しではあるが、景気は回復する。
		繊維工業（財務担当）	・新型コロナウイルス感染症の鎮静化により、年末年始に向けて、個人消費や旅行、出張など人の移動が活発になる。
		化学工業（総務担当）	・ワクチン接種が進み、一定の景気回復基調が見受けられることから、今後も景気は良くなる。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・新型コロナウイルス禍の現地操業の低下や半導体不足の影響で、海外からの部品供給が滞っているため、現在は厳しい状況にあるが、今後、景気はやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスの影響で、受注が減少しているが、今後、景気は徐々に回復していく。	
		輸送業（総務・人事担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数がこのまま増加しなければ、今後、受注が大幅に改善していく。	
		輸送業（支店長）	・個人の荷物の荷動きは横ばいであるが、法人関係やネット通販の荷物は徐々に増加する。	
		通信業（営業企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、ワクチン接種が進むことで、データセンターの見学や検討が進みやすくなるため、今よりも景気はやや良くなる。	
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が弱まり、景気はやや良くなる。	
		食料品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は大幅に減少しているが、人の動きが元に戻らず、経済が循環しない厳しい状況が続く。	
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼向け需要が好調で、現在の生産水準が継続する。	
		鉄鋼業（総務担当）	・現在の計画では、足元の環境が大幅に変化することがないため、景気はほぼ横ばい状態が続く。	
		非鉄金属製造業（業務担当）	・電子材料関係の受注は高位安定、金属価格も高水準で推移する。	
		一般機械器具製造業（管理担当）	・原材料価格の高騰や部品納期の遅延等不安定要素が多いため、景気は変わらない。	
		一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きから判断すると、景気は変わらない。	
		電気機械器具製造業（総務担当）	・年末に向け、今のところ景気は堅調に推移している。ただ、中国の不動産開発大手の経営危機など先行きの不透明感が増しており、世界経済の動向は直接事業に影響を及ぼすため、景気が悪くなる可能性がある。	
		建設業（総務担当）	・物件数は多いため、しばらくは技術者の空きを考えながらの対応が必要な状況が続く。	
		金融業（貸付担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少により、一旦は景気が回復する。ただ、人々の気の緩みから、新型コロナウイルスの第6波が到来する懸念も拭い切れないため、目立った景気回復にはならない。	
		金融業（融資企画担当）	・今後も半導体不足が続くため、地元自動車部品メーカーの受注低迷や操業低下が継続する。	
		不動産業（総務担当）	・12月までは、景気は現状のまま推移する。	
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、受注量や販売量が減少しているため、景気は変わらない。	
		会計事務所（経営者）	・企業活動が回復するにつれて、B to B案件が増加しているが、新型コロナウイルスの第6波の到来で、企業活動が制限されることが懸念される。	
		食料品製造業（総務担当）	・緊急事態宣言が解除され、外食産業が活発になるものの、原油価格の大幅な高騰が物流費に影響を与えるため、景気はやや悪くなる。	
		木材木製品製造業（経理担当）	・値上げの効果で売上が増加するが、それ以上にコストも上昇し、利益面では更に厳しい状況が続くため、下半期の景気はやや悪くなる。	
		化学工業（総務担当）	・原燃料価格の高騰が収益を悪化させるため、景気はやや悪くなる。	
		鉄鋼業（総務担当）	・自動車の減産や中国の電力事情などの影響が懸念されるため、景気はやや悪くなる。	
		建設業（経営者）	・建設工事の引き合いが減少してきているため、景気はやや悪くなる。	
		x	金属製品製造業（総務担当）	・鉄だけでなく、原材料価格が軒並み高騰し、収益を大幅に圧迫している。前月に取引先に価格転嫁をお願いし、一部は認めてもらったが、それ以降も原材料価格が上昇を続けているため、今後も非常に厳しい状況が続く。
	雇用 関連		-	-
	(中国)		人材派遣会社（経営戦略担当）	・新型コロナウイルスが終息し、特定業種を中心に、人の採用が顕在化してくる。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が再燃しても2月以降という話もあるため、しばらくは景気の良い状態が続く。	
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、企業の採用予算が増加するため、景気はやや良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		民間職業紹介機関（職員）	・緊急事態宣言の全面解除やワクチン接種の進展を背景に、今後、個人消費や企業の設備投資が活発になる。
		民間職業紹介機関（求人・人材採用担当）	・人材採用を検討中の企業が増加してきており、新型コロナウイルスがそのまま終息すれば、求人数は更に増加する。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・10月以降、保育・幼児教育系の新卒募集が本格化するため、景気はやや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあるので、今後、旅行業界や飲食業界の景気が回復する。
		その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルスが落ち着き、人流が活発化するため、飲食業やサービス業を中心に、景気は回復する。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの第6波の到来を予測し、求職を見合わせる人がいるため、求職者数が減少しており、来年の春頃まではこの状況が続く。
		人材派遣会社（支社長）	・今後2～3か月のうちに景気が改善する要素が見当たらないため、景気は変わらない。
		人材派遣会社（支店長）	・このままの傾向が続けば、景気が少しずつ良くなっていくと思われるが、先行きを予測することは難しい。年度後半に入り、次年度に向けた体制づくりを進める企業が多くなるので、求人と求職者のマッチングの増加が期待できる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ワクチン接種の進展で、求職者数が増加傾向にあり、設備投資や公共投資も高水準なので、景気は持ち直す。
		職業安定所（所長）	・宿泊業界で、新型コロナウイルスの感染状況の改善を期待し、募集活動を再開する動きがある一方で、長引く新型コロナウイルスの影響と施設の老朽化のため、閉館を決断した温泉旅館もあり、景気はすぐには良くならない。
		職業安定所（事業所担当）	・新規求人の受理件数は、新型コロナウイルス禍にあった前年とほぼ同水準で推移しており、新型コロナウイルス流行前の状況まで戻するには程遠い。また、緊急事態宣言等は解除されたが、雇用調整助成金等の新規の相談・申請件数や申請受理件数が増加しているため、今後も景気は良くならない。
		職業安定所（雇用関連担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少しているが、新型コロナウイルスの第6波が到来すれば、求人数に影響を与え、景気は良くならない。
		-	-
	x	-	-

#### 10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (四国)		百貨店（販売促進）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、12月のグランドオープン控え、更に多くの来客を見込んでいる。また、観光客も戻ってくると思われる。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきており、今後再拡大しなければ人々の購買意欲も戻り、状況は各段に良くなると思う。
		都市型ホテル（経営者）	・いろいろな場面で人の動きが良くなっていると感じる。
		通信会社（社員）	・ワクチン接種率の上昇により感染の危険性が低くなり、全体的に人の動きが活発になると予測している。
		美容室（経営者）	・第6波が来なければ12月には、新型コロナウイルス発生以前の動きが戻ってきそう。
		設計事務所（所長）	・特に多くの食品関係企業で設備投資が始まっている。
		商店街（事務局長）	・ワクチン接種が大幅に進んで感染や重症化のリスクが下がったことで外出も可能となり、生活上の安心感が高まった。年明け以降のブレイクスルーを含めた感染拡大を抑えるため、早めに3回目のワクチン接種をスタートさせることが安定した消費回復の鍵となる。
		商店街（代表者）	・年末年始のイベント等は予定どおりに行われる見込みである。補正予算で新型コロナウイルス対策関連予算も十分確保されているため、もう少し消費マインドが回復すれば徐々に景気が良くなっていくと思う。
		百貨店（企画担当）	・第6波を予想する人も多く、まだまだ慎重な姿勢が続く。
		スーパー（企画担当）	・更に価格上昇が進み、単価上昇の流れは変わらない。冬ボーナスが見込まれることから外食などへの流れがみえてくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（商品担当）	・ワクチン3回目接種等で、海外のようにイベントやレジャー、観光で人通りが戻ると推測する。
		衣料品専門店（経営者）	・秋冬らしい気温になってきて、新型コロナウイルスも落ち着いてきているため、年末にかけて景気回復が期待される。
		衣料品専門店（営業責任者）	・現状のように感染が抑制できているなら客足は戻ってくると思うが、客は旅行や消費にまだ慎重になっている様子がうかがえる。今よりは回復するだろうが、厳しい状況は続くと考えている。
		家電量販店（店員）	・冬のボーナス商戦や季節商材で販売数増加が期待できる。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの飲み薬が出れば、全体の景気が上がる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・現状のまま年末まで続くことを期待している。
		観光型旅館（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況の改善により、個人の旅行需要は一定程度回復する。
		旅行代理店（営業担当）	・県民割の再開や、エリアを拡大する都道府県も徐々に出ている。
		通信会社（営業部長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、市民活動が活発化している。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言解除後の動向に期待したい。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響が収束傾向なのか、客の動きは回復気味である。年末商戦に向けて期待したい。
		競輪競馬（マネージャー）	・ワクチンの2回接種率が高くなり、3回目の接種も検討されており、感染防止対策の継続的な実施とともに安心感が徐々に広がりつつある。これにより経済活動の上昇が見込め、景気高揚へとつながる。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少傾向は続いているが、今後果たして第6波が来るのかは誰も予想できない。一刻も早く収束してほしいが、今のところ状況の推移を見守るしかない。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・昼間の予約は入ってきているが、夜の街関連の注文が極端に少ない。元に戻るのにはまだまだ時間が掛かりそうだ。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が随分減少し、少しずつ活気が戻っているようだ。しかし身の回りでは、行動を控え、消費者の財布のひもは固いことから、景気の落ち込みはまだまだ続くと思う。
		コンビニ（店長）	・このまま回復してほしいが、新型コロナウイルスの感染が落ち着くとは思えない。10月からたばこのほか各種値上げが迫っており、生活費の圧迫が懸念され、消費が上向くかは不透明とみる。
		コンビニ（総務）	・感染状況が収まってもコロナ禍以前には戻らない。ニューノーマルによる変化に対応しながら企業努力を続けないと、業績は取り戻せない。
		乗用車販売業（営業担当）	・部品不足がしばらく続くため、今後の見通しは厳しい。
		乗用車販売店（従業員）	・受注はますますだが、半導体不足が解消されない限り売上にはつながらない。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・忘年会を中止する企業が多く、売上増加は見込めない。
		一般レストラン（経営者）	・長引く自粛生活から、脱外食がなじんできているように思う。新型コロナウイルスの影響で収入が減って、当店のような客単価の高い焼き肉店は敬遠している方が多いのではないかと。
		タクシー運転手	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、年末にかけて景気は良くなるかもしれない。新薬の承認が下りると更に人出は多くなると思う。
		タクシー運転手	・忘年会シーズンが近づいてきた。新型コロナウイルスの感染状況が抑えられたまま年末を迎えることができれば、街はにぎわうと思う。ただ、冬は遍路客の仕事がなくなるので、現状が続くと思う。
		通信会社（支店長）	・新型コロナウイルスの感染状況の小康状態が継続するかどうかわからない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減り続け、今後増えなければ良くなると思うが、まだ分からない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・短期的には景気が良くなる要素は見当たらない。総選挙後の政治体制も不安要素の方がはるかに大きい。新型コロナウイルスや自然災害は今後も避けられないため、国も地方自治体も街づくりを「発展」から「安全主導型」に発想転換しなければ、地方都市は維持できないのではないかと。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症が収束すれば、人々の意識や生活が元に戻り、巣籠り消費の恩恵もなくなり売上が低下すると思う。
		スーパー（店長）	・今後も飲食や観光に関する消費は活発になり、コロナ禍前の消費パターンに戻ると考えられる。
		スーパー（財務担当）	・これまでは外食需要を取り込んできたが、新型コロナウイルスの感染が落ち着けば、客は再び外食へ戻っていく。
		コンビニ（店長）	・自宅近くでの消費から、通常の消費に変わるのではと感じている。
		家電量販店（副店長）	・緊急事態宣言が解除され、経済正常化の話も出始めたが、今後も来店客の増加はないと思う。
		乗用車販売店（従業員）	・燃料が大幅に値上がりしているため、今後大幅に収益が悪化していくと思われる。
		乗用車販売店（役員）	・半導体不足の影響が薄れていくと回復は早いと思うが、今のところネガティブに考えている。
		x	衣料品専門店（経営者）
企業 動向 関連  (四国)		税理士事務所	・選挙もあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少することで購買意欲が増し、経済が回る。
		繊維工業（経営者）	・コロナ禍で抑えられていた消費行動が活発になってきているが、不要不急のものには手は出さない消費者心理は続いている。また、在宅時間が増えたことによる健康志向の高まりなど、従来と異なる傾向がみえる。新しいニーズに対応できれば状況は改善される。
		木材木製品製造業（営業部長）	・大手ハウスメーカーの契約棟数が大きく伸びており、今後も受注数に期待ができる。引き続き新型コロナウイルス感染が落ち着いていくことを希望する。
		鉄鋼業（総務部長）	・受注量が回復したことで生産量、販売量も回復傾向にあるものの、新型コロナウイルス発生前の水準までは回復していない。
		輸送業（経営者）	・第6波次第だが、ゆっくり良くなると思う。
		通信業（企画・売上管理）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が抑えられているため、レジャーやイベント関係の広告増を期待したい。
		広告代理店（経営者）	・ワクチン接種率上昇等に伴い新型コロナウイルス新規感染者数が大きく減少傾向にあるため、若干イベントの再開や、客から広告受注も見込まれる。
		農林水産業（職員）	・今後の感染状況は見通せないが、海外の事例から人流の拡大と感染拡大の相関関係が明らかになっている。新型コロナウイルスの影響で失業や所得減少がみられるなか、日配品や燃料の値上がりがか家に響いている。生活スタイルも巣籠り化が定着してきており、これが以前の状態に戻ることは現実的ではない。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・除菌や掃除用のウェットクリーナーの需要は高いが、供給も高く、売上は横ばい。今後、新型コロナウイルス感染が落ち着いてくると、売上が下がるかもしれない。
		化学工業（所長）	・新型コロナウイルスの感染状況が良くなる一方、原油やナフサ単価は高騰している。今後もこの傾向が続くと思う。
		電気機械器具製造業（経営者）	・社会全体として新型コロナウイルス感染症は収束ムードへ向かっており、人々の支出も回復している。今後大幅に良くなるとはまだ言い切れないが、しばらくは現状が続くと思う。
		電気機械器具製造業（経理）	・保冷庫が必要なワクチン需要や、世界的な新型コロナウイルスの感染状況がみえないことから、市況は不安定である。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第なので何ともいえない。これから迎える冬季は感染拡大が見込まれており、見通しが立たない。ただし、本業の景気は悪くないことから、変わらないと評価する。
		建設業（経営者）	・今後の公共事業の出具合による。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		輸送業（営業）	・行動制限等の緩和を受け、荷主への営業活動再開などプラス面が期待できる一方で、燃料油価格の高騰が経営を大きく圧迫する要因となっている。物流事業者ははまだ予断を許さない状況に置かれている。
		輸送業（経理）	・海外向け輸出が好調な企業の出荷計画は引き続き順調だが、国内向けが中心の企業の出荷計画は調整もあって不調のままの状態にある。
		通信業（総務担当）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が低い水準にとどまれば、状況は改善することが期待できる。しかし現時点では見通しが立てにくい。
		金融業（副支店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大は落ち着きつつあるが、ワクチン接種が進んでいるものの依然として第6波への警戒感根強い。経済活動の回復には更に一定期間を要するものと認識している。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・市場マインドは上向きつつあるが、新型コロナウイルス感染症の影響及び世界的な電子部品供給不足等による部品調達遅滞、原材料価格の高騰など不確定要素が多く懸念される。
	x	-	-
雇用関連			
(四国)		人材派遣会社（営業担当）	・コロナ禍で採用を抑えていた企業の採用活動が活発になると見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着いてきており、製造業などでは景気が回復する兆しもある。派遣依頼の増加に期待したい。
		求人情報誌（営業）	・周囲の企業の状況から、各業種において求人数が少しずつ増加する見込みである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数減少により企業活動が再開し始めてきていることから、良くなると期待したいし、そう努めていく。
		職業安定所（求人開発）	・10月1～19日まで当県独自の新型コロナウイルス対策は「感染警戒期」に緩和、20日以降は最低ランクの「感染縮小期」になり、落ち着きをみせている。それに伴い飲食業や宿泊業が通常営業になったため、やや良くなると判断する。
		民間職業紹介機関（所長）	・新型コロナウイルスの影響はかなり軽減しており、今後はサービス業を中心に回復していくと予想している。
		学校〔大学〕（就職担当）	・全国的に新型コロナウイルス新規感染者数が大きく減少し、落ち着いてきている。
		-	-
		-	-
	x	-	-

### 11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連		家電量販店（店員）	・ワクチン接種率が上昇し、新型コロナウイルスの新規感染者数が驚くほど減少している。消費欲が高まってきているため、年末年始に爆発的に売上が上がると予想している。まだ、あと何波があるかもしれないが、良い波になることを期待している。
(九州)		住関連専門店（従業員）	・ここから本格的な冷え込みが想定されるため、秋冬商材が好調に動くと見込まれる。
		一般レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が大幅に減少し、外食の機会が増えると予想され、更なる経済政策に期待している。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・今年4月以降は、7月と10月以外に新型コロナウイルスの新規感染者数が拡大し、景況感としては最低の状況であったため、今後は良くなると予想している。しかし、新規感染者を抑止できた理由の把握や無症状感染者を把握できる体制の構築は必須である。
		観光型ホテル（専務）	・新型コロナウイルスの感染が収束すればGo To Travelキャンペーンも始まり、団体客が増えていく。先の予想が全く立たないが、景気回復に期待する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・第6波の不安もありつつ現状の回復状況が続けば、インバウンドは困難だが、イベントの開催や観光客の増加等、タクシー利用の期待要素は大きい。
		商店街（代表者）	・これから食欲の出る時期となり、12月はクリスマスや忘年会を控え、購買力が増してくるため、期待をしている。
		商店街（代表者）	・ワクチンの接種率も高まり、新型コロナウイルスを抑えることができれば、年末に向けて景気は良くなる。
		商店街（代表者）	・年末に向けて来客の増加に期待するが、商店街のチラシや各店のダイレクトメールには反応がまだまだ鈍い。飲食関係や観光産業には様々な支援策が政府より出されているが、地方の商店街では恩恵が少ないプレミアム付商品券等の支援しがなく、今後行政の支援が必要である。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が現在の好転した状況を維持していけば、徐々に客が戻ってくる。12月は年末商戦のため、今後消費が増加することを期待している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、徐々に客足は戻ってきている。この勢いのまま景気が上向きになることを期待している。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・少しずつではあるが、景気が良くなっている。以前のような状態に戻るのには難しいが、その状況に合わせて対応していきたい。少しでも売上が伸びていきたい。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・年末から年始にかけて正月用の花とお供え用の花の注文が入るため、売上が増加する。
		百貨店（企画担当）	・年末年始の消費や購買が見込める。
		百貨店（企画担当）	・物産展のような大型催事に関しては客の期待感もあり、集客増加が見込める。旅行需要も増え、例年並みの寒さになれば、重衣料や寝具といった季節商材が動くと思われる。前年できなかった集客策を実行することで、今月から徐々に回復する。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、食品催事やチラシ広告が積極的にできるようになり、来客数も増加傾向で、衣料品・化粧品等が若干ではあるが好調に推移している。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減少し、来客数も戻りつつある。年末年始は来客数、売上共に上向いていく。
		百貨店（経営企画担当）	・緊急事態宣言の解除を受け、徐々に客の来店が戻りつつある。年末に向けて回復基調が継続する。
		スーパー（店長）	・現在の新型コロナウイルスの新規感染者数減少に伴い、様々な行事が再開催されつつあり、人の動きが出てくる。また、各自治体クーポン施策の拡大が進んでいる。
		スーパー（店長）	・今月に入り、当県での感染者は1日10名前後になり、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に驚いている。日常における新型コロナウイルス関連の規制緩和により、行動範囲と環境変化が良い方向へ結び付いている。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの第6波は確実に訪れるという予測だが、ワクチン接種率が高くなるにつれて人の動きが活発になり、影響も薄れてくる。選挙後の経済対策に期待している。
		コンビニ（経営者）	・緊急事態宣言の解除後、飲食店の時短要請も解除され、企業の出社率も上がり、自店商圏の人の活動が活発化する。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束に向かっており、人通りが元に戻りつつある。来客数増加に結び付いていくことに期待している。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの沈静化が継続すると、徐々に上向いていく。
		コンビニ（店長）	・衆議院選挙後までは、一時的にコロナ禍は沈静化しているが、今後は第6波を見据えてどのような対策を講じるかにかかっている。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの第6波が発生しても、恐らく大きく人流を抑えることは難しいと予想されるが、ワクチン接種率も増加しており、前年同様の冷え込みにはならない。
		家電量販店（店長）	・緊急事態宣言が解除され、明らかに人流が動いている。再び第6波が発生する可能性もあり、今後も流動的で、しばらくはこの状況が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（従業員）	・当県における新型コロナウイルスの新規感染者なしが続いていることで、人出が増加している。また、地元メディアの報道が、商業施設や行楽地での人出増加を好意的に報道するなど変化もある。
		家電量販店（従業員）	・気温が下がり、暖房器具の需要が増えていく。
		乗用車販売店（従業員）	・納期遅れに対する慣れが生じるとともに、年末商戦に期待している。
		乗用車販売店（総務担当）	・徐々にメーカーの生産が回復してくる。年明けから最大の需要期を迎え、新車の配給さえあれば経営状況は改善する。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・年末にかけて寒くなっていくので、季節性のインフルエンザウイルスも流行する一方、新型コロナウイルス感染症は収束しており、客の流れは若干増加する。年末はコーヒーの消費も増加する傾向にあるので、売上の増加も期待している。
		その他専門店〔書籍〕（副店長）	・新型コロナウイルスの第6波が不安ではある。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・2021年は新型コロナウイルスの感染拡大により、隣県で緊急事態宣言が発出され、当県では2020年末に感染者数1000人を超えた都市がテレビ放送された影響もあり、初売りから冬の特売期間の人手に大きな悪影響を及ぼした。本年は商圏内においてもワクチン接種が進んでおり、徐々にショッピングセンターとしても集客イベントを解禁した。また、年末にかけて新型コロナウイルスの感染拡大が発生しても重症化する事例が減れば、客足への影響も小さくなると見込んでいる。
		高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、このまま年末まで続くことを期待している。しかし再度、新規感染者数が増加する可能性もあるため、12月までの人の動きは不透明で危惧している。
		一般レストラン（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、政治も安定し、Go To Travelキャンペーンや県独自の補助事業等充実してくれば、元の活気が戻ると考えている。
		観光旅館組合（職員）	・第6波への懸念もあるが、国のGo To Travelキャンペーン等が始まれば、旅行者も増える。
		旅行代理店（職員）	・自治体の旅行補助金キャンペーンやGo To Travelキャンペーン等の需要促進策が出てくる。
		タクシー運転手	・衆議院選挙もあり、政権がどのような枠組みになるかによって景気の動向が変わる。また、新型コロナウイルスの第6波が一番の懸念材料である。
		通信会社（営業担当）	・緊急事態宣言がなくなり、人の動き、企業の動きも更に活発になる。
		通信会社（企画担当）	・光回線のエリア拡大が予定されており、販売量の増加が期待される。
		ゴルフ場（従業員）	・Go To キャンペーンが始まれば、しばらく入場者は順調に推移する。
		ゴルフ場（営業）	・緊急事態宣言が解除され、今まで抑制されていたレジャー欲が解放された状態になっている。これが一時的なものなのか、今後も継続して来店するのかがまだ判断できる状況ではない。
		競馬場（職員）	・少しずつ客の消費行動は改善されつつある。
		美容室（経営者）	・自粛生活が長期間だったので、今まで以上におしゃれに関心を持つと考えられる。新商品も増え、新しい形での商売も増加するため、忙しくなり年末には景気は向上する。
		美容室（店長）	・やや良くなるが、用心しながら行動することになる。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・ワクチン接種率の向上により新規感染者数が激減しており、病院も含めた客紹介が活発になる。
		設計事務所（代表）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収束すれば、良くなる。
		住宅販売会社（従業員）	・郊外の分譲地販売は好調に推移しており、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が今後続けば、客の動きも出てくるので景気も良くなっていく。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの対策で効果があり、ワクチン接種率も増加していることで新規感染者数が減少しており、社会生活も元に戻りつつある。このまま順調にいけば、景気も上向きになる。新型コロナウイルス変異株の海外からの持込みが懸念されるが、国内では対策が効果的であるので、景気も上向きになる。
		商店街（代表者）	・人流が一気に増加したため、売上等は増加しているが、気候的には減少傾向となるはずなので、一定量になると状況的には今と変わらない。
		商店街（代表者）	・状況の悪化が変わらず、特に、国の選挙となると景気が落ち込む傾向にあり、良くなる兆しが無い。業種によっては給付金が給付されているが、どのように使われているか疑問である。
		商店街（代表者）	・このような状況が続くと、正直先がみえない。ただ、来客数は減少しているが、自社製造の方は上昇しており、今後利益が出るかどうかは分からない状況である。
		商店街（代表者）	・変わらず現状の商況が続くと覚悟している。休日の商店街の客足は、郊外大型店の集客力により、まばらである。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・通常であれば、年間を通して一番の売上になる期間であるが、新型コロナウイルスの発生前の売上に戻すには更に努力が必要である。景気回復が最短でできるような政府のこれからの提案に期待している。
		百貨店（総務担当）	・今後の新型コロナウイルスの影響が不透明であるため、予測が付かない。
		百貨店（企画担当）	・第6波への懸念、治療薬の進捗等、先行きの不透明さが依然大きい。
		百貨店（営業担当）	・来客数の急速な回復は難しい。店頭外のサテライトショップやギフトショップ、ネット受注や店頭での客単価、商品単価は、自家需要商材やし好性の高い舶来雑貨や時計、リビング用品、また、県内への旅行等は堅調である。一方、県外旅行や帰省の緩和や物産催事の再開でも慎重な行動姿勢と自衛意識は継続しており、来店による自家需要中心の購買は依然継続する。
		百貨店（業務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少したものの、先行きを心配している客が多い。もう1度年末にかけて、第6波が発生する可能性があり、不安を抱いている客が多いことを考えると回復までにはまだ時間が掛かる。
		スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルスの影響が薄れつつあり、内食の割合が下がってきている。スーパーマーケット業界は前々年の売上水準で推移すると推測する。
		スーパー（統括者）	・自社の強みの深化と販促の深化の継続で、競合店の台頭もあるが、変わらない状況で推移する。
		コンビニ（経営者）	・景気自体は、以前と変わらない状態に戻ると予想されるが、10月以降は最低賃金の値上げで経営的には厳しい状況になる。採用してもほとんどのアルバイトが長続きせず、研修等の人件費も掛かり、今後が懸念される。何とか利益増加を考えている。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大次第だが、コンビニエンスストアの使われ方は変化しないと考えている。
		コンビニ（エリア担当）	・年末商戦に向けて消費回復を期待しているが、現実的には分からない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・新型コロナウイルスの第6波に影響されると考えられるが、このまま新規感染者数の減少が続けば、売上が伸びるが、再度、緊急事態宣言が発出された場合は、売上が減少する可能性がある。この先が不透明であるため、見込みの検討が付かない。
		衣料品専門店（店長）	・低下した景気が元に戻るには時間が掛かる。対策を考え直さなければ、元どおりになることはないかもしれないと心配している。
		衣料品専門店（店員）	・第6波がどのようなか予測ができない。
		衣料品専門店（取締役）	・リモートでの働き方が定着し、洋服を買うという購買意識の減少により、在庫を抱えたままの厳しい運営が続く。できる限りの営業努力を続ける。選挙後に何が変化するか予測が付かないが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて判断していく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		家電量販店（店員）	・現在のやや悪い状態の要因がはっきりしないが、このまま継続すると予想している。現状は、新型コロナウイルスの影響よりも、それに伴って前年に施行された施策の影響がある。家電は頻繁に替えるものではないので、そのことが今年の売上に関係している。
		住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が驚くほど減少している。しかし、世界では、ワクチン接種しても、新規感染者数が増加している国もあり、油断はできない。新規感染者数の増加は景気の低迷につながる。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・第6波次第であるが、新薬等に期待する。
		タクシー運転手	・これから行事が増えてくるため、年末に期待したいところであるが、先行き不透明で期待はできない。
		通信会社（企画担当）	・緩やかながら増加を続けている。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であり、変わらないというよりは分からない。
		通信会社（統括者）	・来客数を前年と比較すると減少傾向である。自店舗に客を誘導するような施策を実施するために、ショッピングモールなどで、スマートフォン教室開催等でイベント出展し、客との接点を増やすように努めている。ほかにも新しい施策を考慮しているところである。
		観光名所（従業員）	・現在は新型コロナウイルスの感染が落ち着いているが、2～3か月先に発生している可能性もあるため、先行き不透明で予想ができない。
		理容室（経営者）	・生活に関連している業種であるため、休業要請の影響がないが、一時的に新型コロナウイルスの影響を受け、客の来店日数の間隔が少し長くなっている。しかし、全体的には横ばいが続いている状態である。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、まだ客は安心できず、外出自粛が長引いていたこともあり、出歩かないのが普通になっている。景気対策に期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先の見積り引き合いは微増ではあるが、受注から生産までに要する期間が長いこともあり、2～3か月先の景気好転は見込めない。
		設計事務所（所長）	・今月の景気の状態が、3か月先も継続して変わらない。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・新型コロナウイルスの第6波で、再度客足が鈍ると予想される。また、青果業は、気温が下がると全国的に商品の出荷が少なくなり、当県の野菜価格が高騰するため、商売がしづらくなる。
		スーパー（総務担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収まっていくと、以前にも増して食品小売業界のディスカウント競争が激しくなる。そうなると大量仕入れ業態やドラッグやディスカウント業態との単純な値下げ競争に勝つのは難しいものがあり、勝つためにはその他自社の特徴を存分に出す必要がある。
		乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルスの影響が、今から出てくる。
		高級レストラン（経営者）	・11～12月の予約が少しずつ入り始め、新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着き、来店客も5人以上で食事に来ている。このまま年末の売上を維持できることを期待している。
		スナック（経営者）	・緊急事態宣言は解除されたが、気温低下に伴い、再度新規感染者数が増加することが予想される。緊急事態宣言が発出されないとしても、新型コロナウイルスへの感染を危惧して、会社関係の外食や会食機会は減少する。前年の年末も緊急事態宣言の発出がないにもかかわらず来客数が減少しており、今年も同様の流れになる可能性がある。
		都市型ホテル（スタッフ）	・年末年始で人の移動が増え、移動の制限が出れば、売上低迷は続く。宴会需要も見込めず非常に厳しい状況にある。
	×	設計事務所（所長）	・新型コロナウイルス感染症の推移が不透明な上に、収入は減少し、支出は増大している。
企業動向関連		輸送業（総務担当）	・目に見えて経済が回り、人流も増加しているため、同時に貨物の流れも増加していることから、景気は良くなると期待をしている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(九州)		農林水産業（経営者）	・新型コロナウイルスの第6波の不安はあるが、これからの年末需要を含め、厳しい状態であった外食産業もある程度は動きが戻ってくる。冷凍食品メーカー向けも年末年始仕様やおせちの食材納品で期待ができ、量販店も年末に向けて動き始める。ただ、今まで順調だった工場生産が、研修実習生の入国制限により厳しい人手不足になり、状況が悪化している。戻りつつある販売を逃さないように、対策を講ずる必要がある。
		化学工業（総務担当）	・事業所で扱っている製品は、今後も堅調な出荷量である。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	・前年同様に、ふるさと納税を利用する人が年末にかけて増加していくため、12～1月にかけて売上は増加する。
		金属製品製造業（事業統括）	・例年下期型であるが、やっと例年並みに戻ると見込まれる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・半導体の動きが良くなるにつれ、それに関連するパーツ生産の動きも良くなる。この2～3か月は景気は上がる。
		電気機械器具製造業（取締役）	・第6波への警戒は大事だが、新型コロナウイルスへの耐性ができつつあることは大きい。取引先に関しても、動きが始めている。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・回復基調であり、今後は生産も増加してくる。冬に向けて新型コロナウイルス感染が拡大しないことを祈っている。
		建設業（社員）	・年度末にかけて公共事業の補正予算が計上されることを望みたいが、災害の復旧費のみである。地方自治体は新型コロナウイルスに予算を取られ、公共事業には予算が回らないようである。地方の建設業者を見捨てず、対策をしてほしい。
		金融業（従業員）	・災害復旧工事を含め公共投資が高水準で推移しており、住宅販売も持ち直している。緊急事態宣言が解除されたため、飲食店や旅行・観光関連事業者では来店客や問合せ等が増加しており、先行きの見通しが明るくなってきている。
		金融業（営業）	・新型コロナウイルスの感染が現状のように沈静化していれば景気は徐々に正常化する。新型コロナウイルス次第である。
		金融業（営業担当）	・新規感染者数がかなり減少し、緊急事態宣言も解除されている。第6波を懸念する声もあるが、これから気候も良くなり、年末にかけて中小企業の様々な業種で、人の動きや金の動きが活発になると予想される。今後、政府による金を動かす政策が打たれれば、より良くなる。
		金融業（調査担当）	・新型コロナウイルスの沈静化に伴い、年末年始に向けて景気回復の期待は高まるが、長引くコロナ禍の影響で、肥大化した借入金の対応に苦慮している事業者は少なくない。第6波への懸念も払拭されず、景気回復は限定的なものにとどまる。
		新聞社〔広告〕（担当者）	・旅行関連は広告が更に増える。
		広告代理店（従業員）	・緊急事態宣言が前月末で解除され、ワクチン接種が進んできたことにより、日常の経済活動が戻り始める。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・規制が解除された後で、人流の動きが大きくなっている。道路も非常に混み、公共交通機関も客が戻っている。しかし、選挙を控えており、少し動きが抑えられているが、年末から新年にかけて新型コロナウイルスの感染が落ち着けば、コロナ禍前の生活様式に戻るような動きが出てくるはずだが、経済的にはすぐに元に戻るのには考えにくい。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・少しずつではあるが、投資を再開する取引先が増えている。
		家具製造業（従業員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は急減しているが、すぐに市場の景気回復につながるのとは考えにくい。また、材料費も軒並み高騰しており、受注しても利益確保に苦戦を強いられる状況になっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・現段階では、受注量の大きい変化はなく、営業努力を続け、受注拡大を狙う。
	電気機械器具製造業（総務担当）	・中国の電力問題等不安要素もあり、若干不透明感がある。	
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・海外部品の供給不足による生産台数の制限が、引き続き行われる。	
	輸送業（従業員）	・新型コロナウイルス感染者が落ち着いたとしても、消費者の行動は急には変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		通信業（経理担当） 金融業（調査担当）	・急激な変化よりも段階的な回復の方が現実的である。 ・緊急事態宣言が解除され、長らく厳しい状況にあったサービス業を中心に、状況は改善している。ただし、これまでも新規感染者数は、減少しては増加することを繰り返しており、現在の新規感染者数の水準を今後も維持できるか不透明である。治療薬の開発や新規感染者数の増加に耐える医療体制の構築ができない限り、人流の抑制を軸とした感染対策からの脱却は難しい。一進一退の状況が続く可能性があり、総合的には、景気は変わらない。	
		不動産業（従業員） 広告代理店（役員）	・賃貸物件の入居率は、横ばいで推移している。 ・3か月予想が相変わらず厳しい。取引先の投資構造が新型コロナウイルスにより変化している。	
		経営コンサルタント（社員）	・急激な変化はないが、訪問することができないのでDM作戦を進めている。この販路開拓で良い動きになることを期待している。	
		経営コンサルタント（社員）	・10月より値上げが進んでおり、消費者の財布のひもは固い。人の流れや生活様式も変わりつつある。	
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・新型コロナウイルス第6波などの懸念もあり、大きく改善することは考えにくい。緊急事態宣言の発出がない場合は、現状程度にとどまる。	
		食料品製造業（経営者）	・原料の伝染病の影響で、今後は生産量が低下し、売上にも影響があると予想している。	
		繊維工業（営業担当）	・肝腎の工賃が十分に増加しないため、最低賃金の上昇をどうしても補えない状況である。	
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・予定受注量の動きは、やや悪くなる。	
		電気機械器具製造業（経営者）	・受注は引き続き好調であるが、材料や消耗品等で品薄状態が続いており、今後の生産に影響が出ると予想される。	
		建設業（従業員）	・大型物件の受注活動ができておらず、厳しい状況が続いている。	
		輸送業（従業員）	・売上を伸ばしているプロテインの原料の入手が困難になっている。買占めも発生しており、原料価格が高騰しているため、その影響が今後発生する。	
		通信業（職員）	・官庁が施主である営業案件数と受注予想額が伸びていないことに加え、半導体不足により機器の販売価格や納期に影響が出ている。	
		×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・11月は市町村の委託業務に関して受注のめどが立たない。また、発注されても同業者は同じ状況にあるため、入札時にかなり不当廉売して落札されている。このため、受注できる見込みが低く、景気が悪くなる。
		雇用 関連 (九州)		人材派遣会社（社員）
求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの長期的な影響で、商業が相当傷んでいる。これから年末年始の需要の取り込みに、当社も含め各社共に社運を賭けて取り組む状態である。			
職業安定所（職員）	・9月の新規求人数は、ピークだった6月を上回っていたが、10月はそれを更に上回る勢いである。また、新型コロナウイルスの影響を受けた企業からの雇用調整助成金の相談及び受付件数等は、9月の126件から大幅に減少し、10月は80件程度となることが予想される。			
人材派遣会社（社員）	・年末年始の短期単発の注文を受けている。例年と同じ規模の注文数である。			
人材派遣会社（社員）	・第6波の状況で動向は変わるが、今後緊急事態宣言が発出されても、今までのような自粛にはならないと予想している。			
人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響で現状維持をしてきた企業から、体制を立て直すため、新しい求人の相談を受ける等、少しずつ景気回復の傾向がある。			
新聞社〔求人広告〕（担当者）	・このような状況が続けば、徐々に出入りや消費行動は活発になってくる。また、年末年始が到来するため景気は上向く。			
新聞社〔求人広告〕（担当者）	・これから年末にかけて、来年度から採用の求人募集が増え始めている。業種によりアフターコロナの求人数が増えるものもある。ただ、介護等の業種が中心で、女性の事務職のような限られた職種は募集人数が少ない状況が続く。			

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数減少により、宿泊業や飲食業が従業員を募集する動きが出ている。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の落ち着きが継続している。観光業では修学旅行の生徒が目立つようになっている。また、求人や求職、就職の増加傾向が続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数が、前年との比較では、回復傾向が顕著となりつつある。
		民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルスの第6波、第7波が見通せず、難しくはあるが、企業の経済活動が活発になり、就職環境も良くなっていく。ただ、インバウンド需要は依然としてないままのため、新型コロナウイルスの発生前と比べるとまだ良くない。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・現状より更に良くなるとは考えられない。第6波の懸念もある上に、今年のインフルエンザは強力との見方もあり、流行拡大のおそれもある。最近の新規感染者数の落ち着きを考えると、急激な落ち込みは想定しにくい、良くて現状維持である。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・ワクチン接種が進んだこともあり、新型コロナウイルスの感染状況が格段と改善され、経済活動への制限が緩和されている。油断ができない状況はしばらく続くが、企業にとっては、徐々に明るい兆しが見えてきている。この状況が続けば、2023年卒採用活動にも好影響を与える。
		-	-
	x	*	*

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (沖縄)		コンビニ（副店長）	・翌月以降は本格的に政府も経済対策に乗り出し、人流も回復するとみられる。
		家電量販店（総務担当）	・これまでの反動が出てくる。年末はかなり需要が増加すると見込まれる。
		一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルスのワクチン接種率も上がり、今後規制解除に向かう飲食店や、観光客も増えるので期待している。
		百貨店（店舗企画）	・年末年始の活動が計画的に執行されれば、期待できる。
		スーパー（企画担当）	・週末を中心に、郊外の総合スーパーに流れていた客が徐々に戻ってくるものと予測している。
		コンビニ（経営者）	・年末にかけて景気が上向きになるとみられるので前年より良くなる。
		コンビニ（代表者）	・緊急事態宣言が解除され少しづつではあるが県民の人流に変化が見られる。様々な行動制限が10月で解除となり来月以降は上昇が見込まれる。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・全体的には良くなっていくように感じるが、飲食店、特に居酒屋はすぐには入客が戻らない。また、仕入価格の上昇、最低賃金の上昇、求人難、補助金の打ち切り、借金の返済が資金繰りを圧迫するので、よほど体力がないと廃業に追い込まれる店舗が増えそうである。
		旅行代理店（マネージャー）	・新型コロナウイルスのワクチン接種率も上がり一定の効果は出ているとみるが、ここで一気にアクセルを踏むとこれまでと同じ状況になりかねないので、段階を踏まえて徐々に解除されてほしい。振出しに戻る事が一番怖い。
		通信会社（営業担当）	・11月以降は飲食店の時短要請もなくなるので自粛モードも弱まり人の動きも活発化し、来客数も増えてくるのではないかと期待している。
		観光名所（職員）	・予約数が若干伸びてきている。緊急事態宣言解除により旅行欲求が多くなってきている。
	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の激減に伴う各制限解除の影響により、先行きの予約状況が前々年と比べ悪いなりに伸長している。特に法人需要の回復が著しい状況である。	
	住宅販売会社（役員）	・人流が活発になれば、それに伴い不動産の流通も活発になる。コロナ禍にもよるが、良い方向に向かうのではないかと期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（販売企画）	・新型コロナウイルスのワクチン接種状況や飲み薬開発、また新型コロナウイルス変異株などの発生による極端な新規感染者数の増加等がなければ、景気は現状とそれほど変わらないとみられる。
		衣料品専門店（経営者）	・今月も、依然として新型コロナウイルス対策の自粛モードの影響が、客が少ない状態が続いており、売上が伸びない。景気が悪い状態が続いている。
		観光型ホテル（代表取締役）	・年末年始の予約も動いていない。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの今月の販売室数は前年比72%減少なのに対し、今月末時点での1月の予約室数は前年比73%減少とマイナス幅がほぼ同じである。
		住宅販売会社（代表取締役）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているが、当面は、良くもなく悪くもない建築受注状況が続くと予想される。
		x	商店街（代表者）
企業 動向 関連 (沖縄)		食料品製造業（役員）	・今後年末に向け観光関連及び飲食業務関連への需要増加が期待できる。
		輸送業（経営企画室）	・年末年始の帰省や、観光客が戻ってくることを考えると良くなってくるとみるが、第6波次第では悪くなる可能性もある。
		建設業（経営者）	・契約の見込みが非常に高い新規客の相談が増えてきている。
		広告代理店（営業担当）	・県内景気は基幹産業の観光に影響される可能性が高く、今後の新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、現状のまま推移すれば、確実に県内企業の販促活動も活発化するものとみられる。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、新型コロナウイルス感染が落ち着きつつあり、民間工事では回復つつある。しかし官需部門では、大型公共工事の端境期で落ち込みが大きい。陸上自衛隊関連の工事が本格化する石垣島は、使用する砕石は島内産で砂は海外産が主流なので、内航的に大きな期待はできない。
		会計事務所（所長）	・衆議院選挙後の社会の状況とそれに対する政策によるが、見通しが立たない。
		窯業土石業（取締役）	・受注は現状で推移するとみられるが、原材料の価格高騰を価格に反映するには厳しく、収益面で影響を受けるとみている。
		x	-
雇用 関連 (沖縄)		人材派遣会社（総務担当）	・緊急事態宣言が解除されて人の動きが良くなり、景気も改善していくのではないかと。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染が収束し始めて、観光、飲食、サービス関連の求人も増えてくる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染の終息がみえて、居酒屋、ホテルなど観光関連の採用活動が少しずつ回復している。
		学校〔大学〕（就職支援担当）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いた現状、経済が回るようになり、数か月後には景気の上向きを実感できているとみている。
		求人情報誌製作会社（営業）	・長く続いた緊急事態宣言により採用活動が抑制されていたため、解除後の反発で急激な求人数増加となっている。3か月後、当月のような急激な増加は見込めないがそのまま微増し続ける希望的観測を持っている。ただし、新型コロナウイルスの感染状況が、現在の縮小、停滞であることが条件であり、もし年末に向けて感染が拡大した場合は、また求人数減少となり悪くなる可能性もある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・例年、年末年始にかけて企業の採用活動が停滞していくため、求人数も減りおのずと採用数も減少するとみられる。
		x	-